

嘉手納町観光振興基本計画

平成25年3月
嘉手納町



< 目 次 >

1. <u>観光振興基本計画の策定の方針</u>	1
1-1. 計画策定の背景	1
1-2. 計画策定の目的	1
1-3. 観光振興基本計画の位置づけ	2
1-4. 観光振興基本計画の計画期間	2
2. <u>観光を取り巻く動向</u>	3
2-1. 国の観光動向	3
2-2. 沖縄県の観光動向	6
3. <u>嘉手納町の観光の現状と課題</u>	10
3-1. 嘉手納町の特徴	10
3-2. 嘉手納町の観光の現状	12
3-3. 嘉手納町の観光資源	14
3-4. 観光ニーズ調査結果	23
3-5. 関係者の意向	40
4. <u>嘉手納町の観光戦略</u>	45
4-1. 嘉手納町の観光振興の理念	45
4-2. 念を実現するための基本方針	46
4-3. 理念を実現するための施策	47
4-4. 観光振興の目標	48
4-5. 施策とプロジェクト	49
4-6. 観光振興に関するゾーニングと動線軸の考え方	63
4-7. プロジェクトの実施箇所	64
4-8. 重点強化プロジェクト	65
5. <u>観光振興基本計画の推進体制</u>	71
6. <u>資料編</u>	72

第1章. 観光振興基本計画の策定の方針

1. 計画策定の背景

観光産業は少子高齢化が進む日本において、女性と高齢者の雇用促進、地域振興の活性化の起爆剤として期待されています。国は、平成20年に観光庁を発足させ、政府の体制を整備するとともに、観光立国推進基本法に基づき、法において、地方公共団体は観光立国の実現に関し、効果的な施策の実施に努めるものと位置づけ、様々な観光施策を遂行しています。

また、沖縄県では、観光を県経済のリーディング産業と位置づけ、沖縄県観光振興条例第7条に基づき、昭和51年度より4次にわたり観光振興基本計画を策定し、基盤整備等を進めてきました。また、あわせて、平成14年に国が策定した沖縄振興計画における分野別計画として3次にわたる観光振興計画を策定し、具体的な取組を進めてきた結果、現在、国内有数の観光・リゾート地としての評価を得ています。

しかしながら、近年は世界的に不安定な経済状況や新型インフルエンザなどの世界的流行、紛争やテロの発生、さらに東日本大震災などさまざまな影響を受ける形で入域観光客数が伸び悩んでいるほか、長期的にも現在の主要市場である国内人口の減少が予想されるなど、沖縄観光は厳しい状況を迎えつつあります。また、世界的に観光振興と環境保全の両立への要請が急速に高まる中で、沖縄観光としての早急な対応が求められるなど、沖縄観光を取り巻く環境は大きな転換点を迎えています。

2. 計画策定の目的

このように国や沖縄県の政策の中で観光政策の重要性が増す一方で、嘉手納町においてはこれまで観光に関する計画の策定は行われてきませんでした。

町内には「嘉手納基地」や、飛行場を展望することのできる「道の駅かでな」など、特徴的であり、多くの観光客が立ち寄っている観光スポットも存在しているものの、宿泊施設の不足や観光情報の発信の取組み不足、一体的に観光推進を行う体制の欠如等の要因により、滞在型の観光は少なく、通過型の観光となっていました。

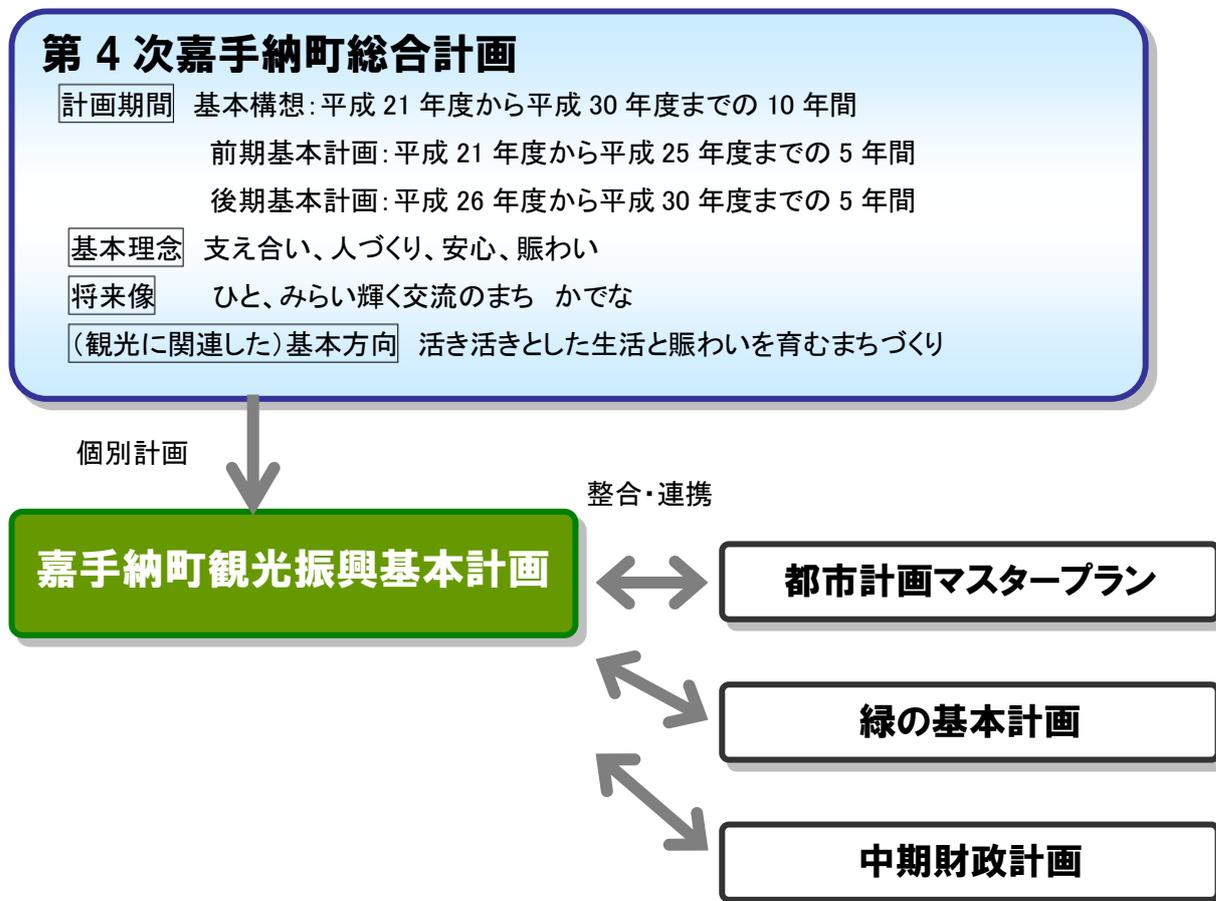
一方、比謝川や水釜海岸の自然を活用したレジャーや、スポーツや音楽に関連したイベントの開催、野国いもなどを使った商品開発など、地域資源を活用した新しい取り組みの機運も高まってきているところです。

こうした状況を踏まえて、観光資源の見直し、観光資源の活用方法の確立、推進体制の検討等を行い、観光や地域をめぐる情勢変化に対応できるよう地域一帯となった魅力的な観光施策を提言するとともに地域経済の活性化、雇用機会の増加による地域経済の発展に寄与し、中期的な観光行政の指針となる観光振興計画を策定することを目的とします。

3. 観光振興基本計画の位置づけ

嘉手納町観光振興基本計画は、平成21年3月に策定した第4次嘉手納町総合計画に沿ったものとし、観光分野の短期的・中期的な個別計画として策定します。

第4次嘉手納町総合計画では、「将来像」として「ひと、みらい輝く交流のまち かでな」を掲げており、また、「基本方向」のうち観光に関連したものとしては「生き生きとした生活と賑わいを育むまちづくり」を掲げています。



4. 観光振興基本計画の計画期間

本計画の計画期間は、平成25年度から平成29年度までとします。

第2章. 観光を取り巻く動向

1. 国の観光動向

(1) 国内観光・旅行の推移

国内宿泊観光旅行の回数および宿泊数の推移を見ると、宿泊数、旅行回数ともに減少傾向にあります。

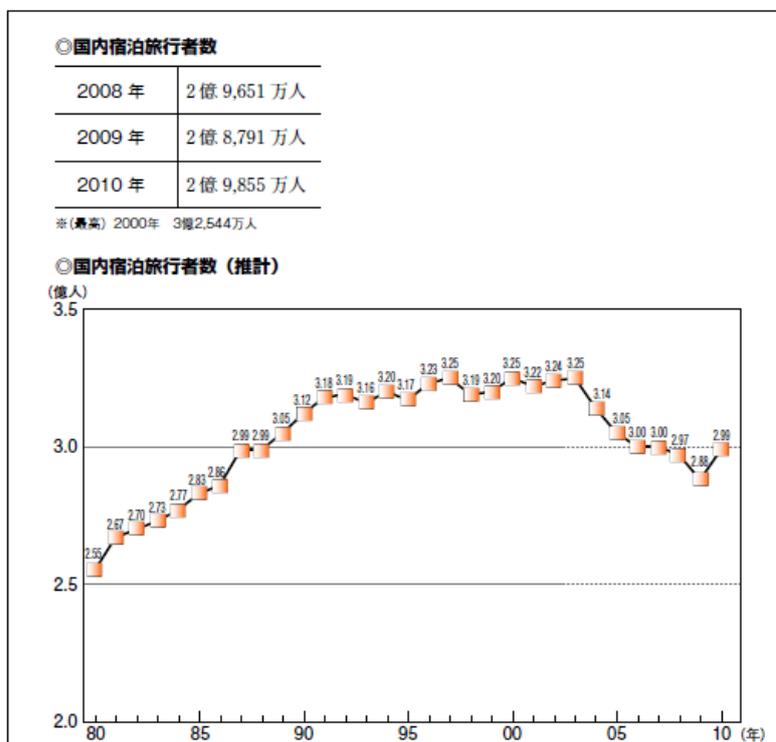
日本人国内宿泊旅行者数は、国内経済の成長とともに増加してきましたが、1990年代にはほぼ頭打ちとなり、平成15年以降は減少基調に転じています。この要因としては、国内総人口、実質所得、休暇制度(連休数の増加により、国内旅行から海外旅行へのシフトが進む)、代替品のコストとしての外国のパック旅行価格などが考えられます。

■国内宿泊観光旅行の回数及び宿泊数の推移

(泊、回)



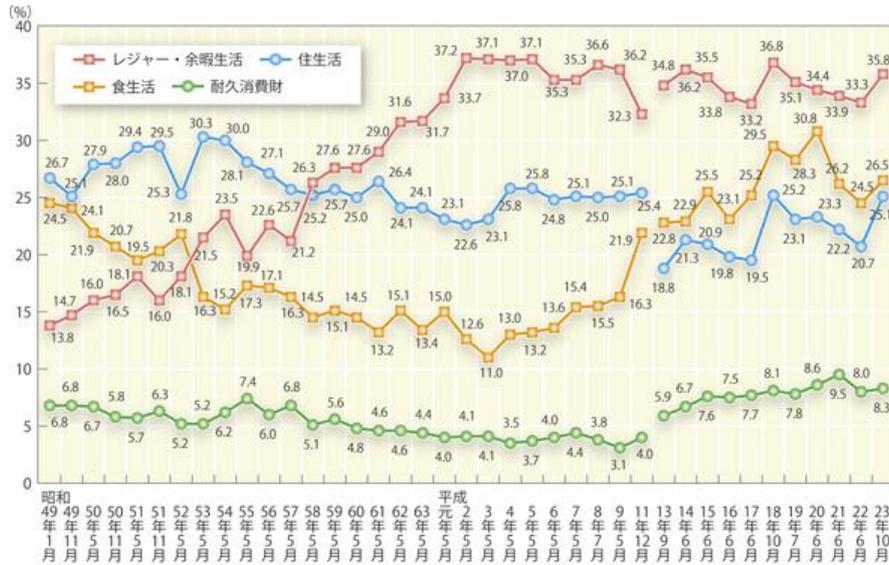
- (注) 1 観光庁「旅行・観光消費動向調査」による。
 2 平成23年の値は暫定値である。
 3 平成20年までは、20歳から79歳までが調査対象。平成21年以降は、全年齢が調査対象。



(2) 観光・旅行への意識

今後の生活の力点に関する意識の動向を見ると、「レジャー・余暇生活」が最も高く(35.8%)、次いで「食生活」(26.5%)が高くなっています。

■今後の生活の力点 (推移)



(注) 1 内閣府大臣官房政府広報室「国民生活に関する世論調査」による。
 2 耐久消費財とは、自動車・電気製品・家具などの耐久消費財。
 3 平成11年以前は単数回答、平成13年以降は複数回答で聞いているため、以前の調査結果と直接比較できない。

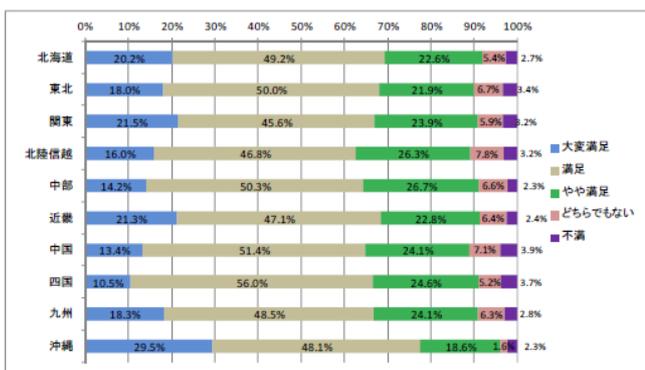
(3) 観光・旅行の満足度・再来訪意向

「旅行・観光消費動向調査」の主目的別の満足度・再来訪意向において、沖縄地域は満足度が29.5%、再来訪意向が21.8%となっており、他地域に比べて高い水準となっています。

また、「観光立国推進基本計画(平成24年3月30日閣議決定)」においては、“観光地域の旅行者の総合満足度について「大変満足」と回答する割合及び再来訪意向について「大変そう思う」と回答する割合を平成28年(2016年)までにいずれも25%程度にする。”としています。

■主目的地別の満足度・再来訪意向 (宿泊旅行+日帰り旅行)

【満足度】



【再来訪意向】



(出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」)

(4) 国の観光施策

平成 19 年 1 月に施行された観光立国推進基本法の規定に基づき、観光立国の実現に関する基本的な計画として新たな「観光立国推進基本計画」が閣議決定されました(平成 24 年 3 月 30 日閣議決定)。観光をめぐる現在の課題を克服し、日本の成長を牽引するべく、これから5年間に更なる飛躍をするため、基本計画の策定の方向性として、「観光の裾野の拡大」と「観光の質の向上」を掲げています。

■観光行政をめぐる最近の動き

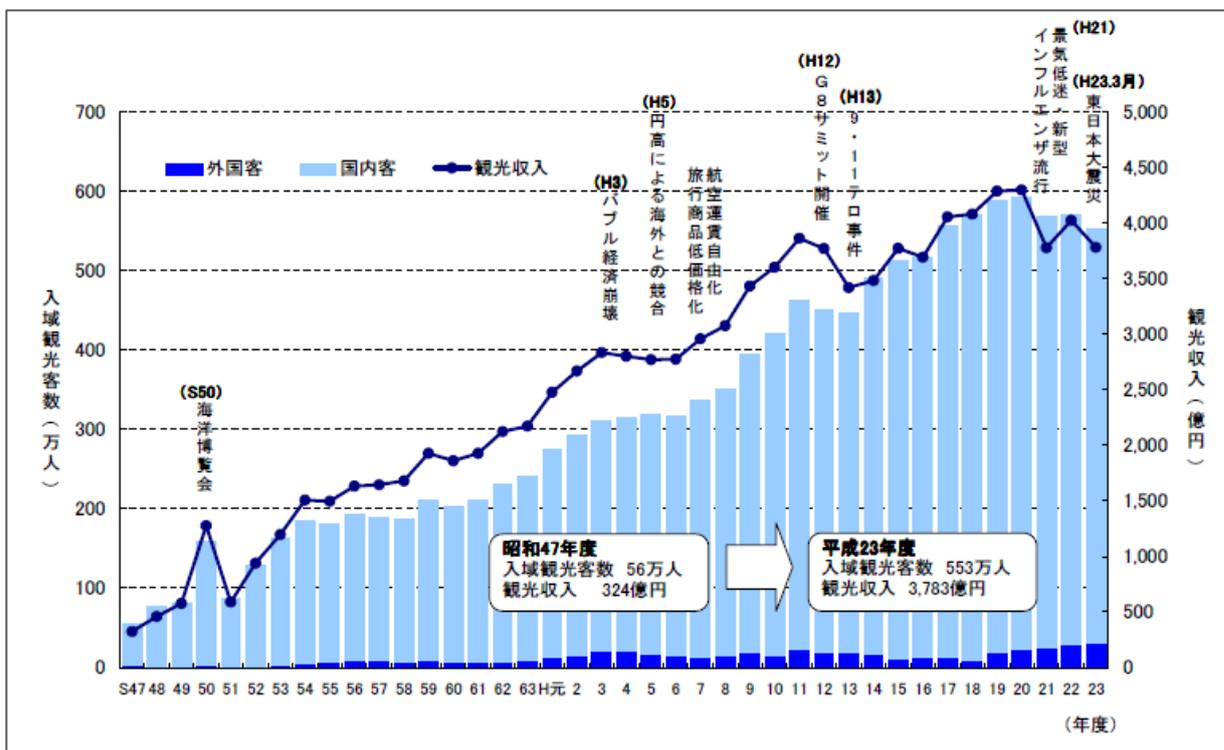
平成 15 年 1 月	総理大臣が国会施政方針演説において、日本を訪れる外国人旅行者を 2010 (平成 22) 年に倍増させることを目標として掲げる。																												
平成 15 年 4 月	ビジット・ジャパン・キャンペーン開始																												
平成 17 年 1 月	総理大臣が国会施政方針演説において「2010 年までに外国人訪問者を 1000 万人にする目標の達成を目指します」と発言																												
平成 18 年 12 月	議員立法により「観光立国推進基本法」が成立																												
平成 19 年 6 月	観光立国推進基本計画を閣議決定																												
平成 20 年 10 月	国土交通省に観光庁が設置される。																												
平成 22 年 6 月	平成 22 年 6 月に閣議決定された「新成長戦略」において、7つの戦略分野の一つとして「観光立国・地域活性化」が掲げられた。																												
平成 24 年 3 月	(改定)「観光立国推進基本計画」を閣議決定 <div data-bbox="453 1093 1417 1756" data-label="Table"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">観光立国の実現に関する目標</th> <th>観光立国の実現に係る参考指標</th> </tr> <tr> <th>目標の分類</th> <th>観光立国の実現に関する目標</th> <th>観光立国の実現に係る参考指標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">観光による国内消費の拡大</td> <td>1. 国内における旅行消費額 〔平成21年(2009年): 25.5兆円〕 平成28年(2016年)までに30兆円</td> <td>(1) 国内宿泊旅行消費額 平成28年(2016年)までに18兆円 国内日帰り旅行消費額 平成28年(2016年)までに6.5兆円 訪日外国人旅行消費額 平成28年(2016年)までに3兆円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(2) 観光の雇用効果 平成28年(2016年)までに539万人相当</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">国際観光の拡大・充実</td> <td>2. 訪日外国人旅行者数 〔平成22年(2010年)実績:861万人〕 〔平成23年(2011年)推計:822万人〕 平成28年(2016年)までに1,800万人</td> <td>(1) 訪日外国人のゴールデンルート以外の地域における延べ宿泊者数 平成28年(2016年)までに2,400万人程度</td> </tr> <tr> <td>3. 訪日外国人の満足度 〔平成23年(2011年):大変満足43.6%、必ず再訪したい58.4%〕 大変満足45%程度、必ず再訪したい80%程度</td> <td>(2) 訪日外国人旅行者に占めるリピーター数 平成28年(2016年)までに1,000万人程度</td> </tr> <tr> <td>4. 国際会議の開催件数〔平成22年(2010年):741件〕 平成28年までに5割以上増、アジア最大の開催国</td> <td>(1) 国際会議、展示会、研修等参加の訪日外国人参加者数 平成28年(2016年)までに170万人</td> </tr> <tr> <td>5. 日本人の海外旅行者数 〔平成23年(2011年)推計:1,699万人〕 2,000万人</td> <td>(1) 若年層の日本人海外旅行者数 平成28年(2016年)までに300万人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">国内観光の拡大・充実</td> <td>6. 国内宿泊観光旅行の年間平均宿泊数 〔平成22年(2010年):2.12泊〕 (2.5泊)</td> <td>(1) 国内宿泊観光旅行を行わない国民割合 平成28年(2016年)までに40%程度 (そのうち、特に若年層の割合 40%)</td> </tr> <tr> <td>7. 国内観光地域の旅行者満足度〔実績値なし〕 (大変満足・必ず再訪したい25%程度)</td> <td>(2) 若年層の国内宿泊観光旅行の年間平均宿泊数 平成28年(2016年)までに年間平均3泊</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(3) 三大都市圏以外の地方を主目的地とする国内旅行消費額 平成28年(2016年)までに年間12兆円</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">-2-</p> </div>	観光立国の実現に関する目標		観光立国の実現に係る参考指標	目標の分類	観光立国の実現に関する目標	観光立国の実現に係る参考指標	観光による国内消費の拡大	1. 国内における旅行消費額 〔平成21年(2009年): 25.5兆円〕 平成28年(2016年)までに30兆円	(1) 国内宿泊旅行消費額 平成28年(2016年)までに18兆円 国内日帰り旅行消費額 平成28年(2016年)までに6.5兆円 訪日外国人旅行消費額 平成28年(2016年)までに3兆円		(2) 観光の雇用効果 平成28年(2016年)までに539万人相当	国際観光の拡大・充実	2. 訪日外国人旅行者数 〔平成22年(2010年)実績:861万人〕 〔平成23年(2011年)推計:822万人〕 平成28年(2016年)までに1,800万人	(1) 訪日外国人のゴールデンルート以外の地域における延べ宿泊者数 平成28年(2016年)までに2,400万人程度	3. 訪日外国人の満足度 〔平成23年(2011年):大変満足43.6%、必ず再訪したい58.4%〕 大変満足45%程度、必ず再訪したい80%程度	(2) 訪日外国人旅行者に占めるリピーター数 平成28年(2016年)までに1,000万人程度	4. 国際会議の開催件数〔平成22年(2010年):741件〕 平成28年までに5割以上増、アジア最大の開催国	(1) 国際会議、展示会、研修等参加の訪日外国人参加者数 平成28年(2016年)までに170万人	5. 日本人の海外旅行者数 〔平成23年(2011年)推計:1,699万人〕 2,000万人	(1) 若年層の日本人海外旅行者数 平成28年(2016年)までに300万人	国内観光の拡大・充実	6. 国内宿泊観光旅行の年間平均宿泊数 〔平成22年(2010年):2.12泊〕 (2.5泊)	(1) 国内宿泊観光旅行を行わない国民割合 平成28年(2016年)までに40%程度 (そのうち、特に若年層の割合 40%)	7. 国内観光地域の旅行者満足度〔実績値なし〕 (大変満足・必ず再訪したい25%程度)	(2) 若年層の国内宿泊観光旅行の年間平均宿泊数 平成28年(2016年)までに年間平均3泊			(3) 三大都市圏以外の地方を主目的地とする国内旅行消費額 平成28年(2016年)までに年間12兆円
観光立国の実現に関する目標		観光立国の実現に係る参考指標																											
目標の分類	観光立国の実現に関する目標	観光立国の実現に係る参考指標																											
観光による国内消費の拡大	1. 国内における旅行消費額 〔平成21年(2009年): 25.5兆円〕 平成28年(2016年)までに30兆円	(1) 国内宿泊旅行消費額 平成28年(2016年)までに18兆円 国内日帰り旅行消費額 平成28年(2016年)までに6.5兆円 訪日外国人旅行消費額 平成28年(2016年)までに3兆円																											
		(2) 観光の雇用効果 平成28年(2016年)までに539万人相当																											
国際観光の拡大・充実	2. 訪日外国人旅行者数 〔平成22年(2010年)実績:861万人〕 〔平成23年(2011年)推計:822万人〕 平成28年(2016年)までに1,800万人	(1) 訪日外国人のゴールデンルート以外の地域における延べ宿泊者数 平成28年(2016年)までに2,400万人程度																											
	3. 訪日外国人の満足度 〔平成23年(2011年):大変満足43.6%、必ず再訪したい58.4%〕 大変満足45%程度、必ず再訪したい80%程度	(2) 訪日外国人旅行者に占めるリピーター数 平成28年(2016年)までに1,000万人程度																											
	4. 国際会議の開催件数〔平成22年(2010年):741件〕 平成28年までに5割以上増、アジア最大の開催国	(1) 国際会議、展示会、研修等参加の訪日外国人参加者数 平成28年(2016年)までに170万人																											
5. 日本人の海外旅行者数 〔平成23年(2011年)推計:1,699万人〕 2,000万人	(1) 若年層の日本人海外旅行者数 平成28年(2016年)までに300万人																												
国内観光の拡大・充実	6. 国内宿泊観光旅行の年間平均宿泊数 〔平成22年(2010年):2.12泊〕 (2.5泊)	(1) 国内宿泊観光旅行を行わない国民割合 平成28年(2016年)までに40%程度 (そのうち、特に若年層の割合 40%)																											
	7. 国内観光地域の旅行者満足度〔実績値なし〕 (大変満足・必ず再訪したい25%程度)	(2) 若年層の国内宿泊観光旅行の年間平均宿泊数 平成28年(2016年)までに年間平均3泊																											
		(3) 三大都市圏以外の地方を主目的地とする国内旅行消費額 平成28年(2016年)までに年間12兆円																											
平成 24 年 7 月	閣議決定された「日本再生戦略」において、11 の成長戦略の柱の一つとして観光立国戦略が掲げられる。																												
平成 24 年 9 月～	観光産業振興施策の基礎資料を得ることを目的とした「観光地域経済調査」を観光庁が実施。																												

(出典：観光庁ホームページより)

2. 沖縄県の観光動向

(1) 県の観光発展の推移

沖縄県の入域観光客数および観光収入は、途中、景気後退や災害等の要因による変動はあったものの、順調に増加を続けてきました。



出典：沖縄県観光要覧(平成 23 年版)

■主なトピックス (年代別)

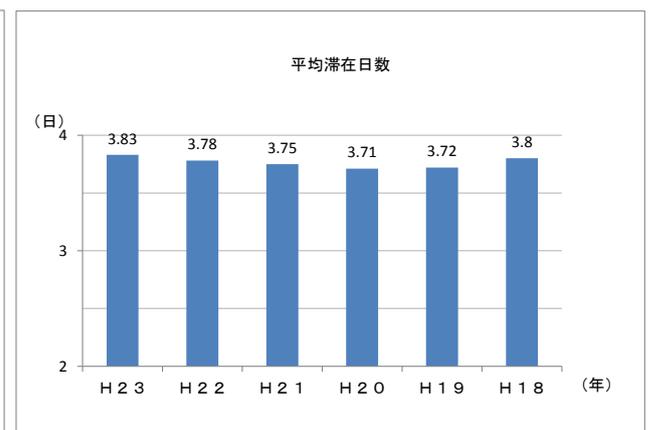
年代	主なトピックス
戦後～本土復帰	<p><慰霊訪問団(墓参観光)が中心></p> <ul style="list-style-type: none"> 昭和47年5月15日の本土復帰により、本土から沖縄への渡航にはパスポートが不要となり、観光客数は復帰前年の約20万人から約44万人へと大幅に増加。
本土復帰～1970年代 (昭和47年～昭和54年)	<p><海洋博を契機として、沖縄が観光地として定着></p> <ul style="list-style-type: none"> 昭和50年7月に、沖縄国際海洋博覧会が開催され、観光客数は前年の約80万人から2倍近い約150万人を記録。 昭和52年4月から25名以上の団体旅行に適用される割引率25%の団体包括旅行割引運賃が実施 日本航空(JAL)と全日空(ANA)が大々的な沖縄キャンペーンを開始。
1980年代 (昭和55年～平成元年)	<p><リゾートホテルの開業相次ぐ></p> <ul style="list-style-type: none"> 第2次オイルショック(昭和54年)や円高不況(昭和58年～62年頃)の影響を受けながらも、緩やかに観光客数は増加。 昭和62年に施行された総合保養地域整備法によるリゾートブーム

年代	主なトピックス
1990年代 (平成2年～平成11年)	<p>＜バブル経済崩壊後、航空運賃の自由化や旅行商品の低価格化が進展したことにより急激に観光客数が増加＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成3年には観光客数が300万人を超え、本土復帰から20年で約15倍の観光客数を記録しました。観光収入も2,750億円を超え、本土復帰時期と比べて8倍以上の大幅な増加 ・首里城公園開園(平成4年) ・急激な円高による海外との競合(平成5年) ・1990年代後半頃から沖縄出身アーティストが躍進。沖縄への注目集まる。
2000年代 (平成12年～)	<p>＜世界情勢の影響を受けながらも、沖縄人気は定着＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県において「九州・沖縄サミット首脳会合」開催(平成12年) ・首里城をはじめとする関連遺産群が世界遺産に登録(平成12年) ・NHK朝の連続テレビ小説「ちゅらさん」放映開始(平成13年) ・9.11アメリカ同時多発テロ事件の影響による風評被害(平成13年) ・「沖縄美ら海水族館」リニューアルオープン(平成14年) ・SARS拡大、イラク戦争勃発(平成15年) ・沖縄都市モノレール「ゆいレール」開業(平成15年) ・金融危機による世界的な景気後退の影響を受ける(平成20年～21年) ・新型インフルエンザの世界的流行(平成21年)
2010年代 (平成22年～)	<p>＜回復の兆しから世界的な景気低迷、円高、各地の災害等厳しい状況の中での施策展開＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美ら島沖縄総体2010開催(平成22年) ・東日本大震災の発生(平成23年) ・中国人観光客向けの数次ビザの発給開始(平成23年)

出典：沖縄県観光要覧(平成23年版)

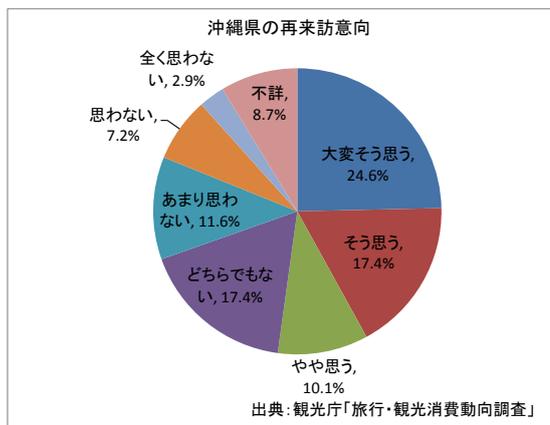
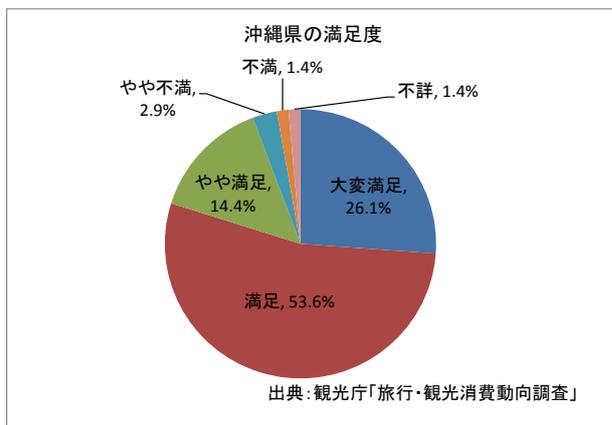
(2) 県内観光・旅行の推移

県内宿泊観光旅行の1人当たり宿泊数は、平成23年には2.83回となっています。また、平成23年の平均滞在日数は3.83日となっています。



(3) 沖縄県の観光・旅行の満足度・再来訪意向

沖縄県の観光・旅行の満足度は、「大変満足」(26.1%)、「満足」(53.6%)、「やや満足」(14.4%)を合わせると 94.1%となっており、満足度が高い。また、再来訪意向については、「大変そう思う」(24.6%)と「そう思う」(17.4%)、「やや思う」(10.1%)を合わせると 52.1%となっている。



(4) 県の観光施策

平成 14 年度の第4次沖縄県観光振興計画策定後に、国が策定した沖縄振興計画において「沖縄県観光振興計画」の策定が義務化され同計画に基づく事業は国庫補助事業の対象となりました。

平成 24 年に策定した「沖縄21世紀ビジョン基本計画」においては、世界に誇れる沖縄観光ブランドを確立し、世界的にも広く認知され、評価される「世界水準の観光リゾート地」を目標に掲げました。

■沖縄県の観光に対する主な取り組み

平成 10 年	「観光振興地域制度」を創設
平成 11 年	「沖縄特定免税店制度」を創設
平成 12 年	九州・沖縄サミット首脳会合開催後、観光振興課内に国際会議誘致班が設置され、東京事務所内にも職員が配置された。
平成 14 年	「第 4 次沖縄県観光振興基本計画」(計画期間:平成 14 年度～23 年度)を策定
平成 17 年 2 月	中国沖縄県産業振興公社上海事務所を設置
平成 24 年 3 月	中国に沖縄県産業振興公社北京事務所を設置
平成 24 年 5 月	「第 5 次沖縄県観光振興基本計画」(計画期間:平成 24 年度～33 年度)を策定
平成 24 年 5 月	「沖縄21世紀ビジョン基本計画」(沖縄振興計画)(計画期間:平成 24 年度～33 年度)を策定
平成 24 年 7 月	「観光地形成促進計画」策定

(5) 沖縄21世紀ビジョン基本計画

計画策定の意義	沖縄の自主性・自立性を発揮し、沖縄21世紀ビジョンを実現するための総合的な基本計画として県が主体的に策定。
計画の性格	これまでの沖縄振興分野を包含する総合的な基本計画であり、同時に沖縄振興特別措置法に位置付けられた沖縄振興計画としての性格を持つ。
計画の期間	平成24～33年度（10年間）
計画の目標	沖縄21世紀ビジョンで掲げた5つの将来像の実現と4つの固有課題の解決を図る。
観光に関連した基本施策	<p>世界水準の観光リゾート地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な沖縄観光ブランドの確立 ・市場特性に対応した誘客活動の展開 ・観光客の受入体制の整備 ・世界に通用する観光人材の育成 ・産業間連携の強化
中部圏域の観光に関連した施策	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツアイランド沖縄を形成する拠点としての整備 ・農業や水産業と連携したグリーン・ツーリズムやブルー・ツーリズム、生活体験等の体験・滞在型観光の促進

(6) 第5次沖縄県観光振興基本計画

計画策定の意義	持続的に沖縄観光を維持・発展させ、更に今後とも沖縄観光が県経済を牽引し、わが国の経済発展にも寄与していくためには、国内外市場の戦略的開拓や環境と共生する観光地への展開、沖縄観光ブランドの構築などに積極的に取り組んでいく必要がある。		
計画の性格	沖縄21世紀ビジョン基本計画を踏まえつつ、沖縄県観光振興条例第7条に基づき、観光の振興に関する基本的な方向を明らかにするために策定するものである。		
計画の期間	平成24～33年度（10年間）		
計画の目標	沖縄県観光振興条例が示す観光の意義と本県の特徴を踏まえ、長期的視点に立った沖縄の観光振興に向けた課題を整理したうえで、観光の振興によって真に美しい豊かな郷土の創出を目指す施策を推進するとともに、沖縄全体の今後の目指すべき姿を指し示す沖縄21世紀ビジョンで掲げる「世界水準の観光リゾート地」の実現に向けて、沖縄観光が国内外に広く認知される基盤を構築することを目的とする。		
目標フレーム		平成33年度達成目標	平成23年度実績値
	観光収入	1兆円	3,783億円
	観光客1人当り 県内消費額	10万円	6.8万円
	平均滞在日数	5日	3.83日
	人泊数	4,027万人泊	1,480万人泊
	入域観光客総数	1,000万人	553万人
施策	<ul style="list-style-type: none"> ・多様で魅力ある観光体験の提供 ・基盤となる旅行環境の整備 ・観光産業の安定性確保 ・効果的なマーケティング ・推進体制の再構築 		

第3章. 嘉手納町の観光の現状と課題

1. 嘉手納町の特徴

(1)位置・面積

嘉手納町は、沖縄本島中部に位置し、県都那覇から北に約 23 km の位置にあります。本町は、東に沖縄市、北に読谷村、南に北谷町と接しており、西は東シナ海に面しています。

本町の面積は、15.04 km² (1,504ha) であり、南北に8 km、東西に5 km の町域を形成していますが、町域の 83% にあたる 12.04 km² が嘉手納飛行場や嘉手納弾薬庫などの米軍基地によって占有されています。



(2)地 勢

本町の地形は、中央部の西へ緩やかに傾斜する台地部と、嘉手納弾薬庫が位置する本町北部の丘陵部に大別でき、最も高い地点は嘉手納弾薬庫内で 164.5m に達します。また、本町内を流れる比謝川は、沖縄市に源を発し、東シナ海にそそぐ本島最大の流域面積を有する二級河川です。

(3)歴 史

現在の嘉手納町域は沖縄で最も古くから開け、縄文時代以前から人々が住み着いていたと考えられ、今から6～7千年前のものと言われる貝塚群が比謝川河口から海岸線に沿って存在し、この付近が古くから豊かな自然環境を持っていたことを物語っています。

14世紀には屋良グスクが築かれました。そこを中心に村々が栄えたと考えられ、「おもろそうし」や「琉球国旧記」等の記述から当時の様子を伺い知ることができます。また、1400年代に琉球王府をおびやかした勝連城主阿麻和利も本町屋良の出身であるといわれ、1605年に中国から甘藷を持ち帰ったとされる野國總管は本町野國の出身で、優れた偉人、英雄を輩出しました。

現在の嘉手納町は、王朝時代から北谷間切に属する村々でしたが、明治時代に入り、1908年(明治41)「沖縄県及び島嶼町村制」により北谷間切は北谷村へ、嘉手納の村々は、北谷村の字となりました。嘉手納は県営鉄道の終着駅でした。戦前までの嘉手納町は、字嘉手納を除いて純農村でした。しかし、沖縄本島のほぼ中間という立地条件に恵まれていたため、県営鉄道の終点到位置し県立第二中学校、県立農林学校をはじめ、官立青年師範学校、嘉手納警察署、沖縄製糖嘉手納工場等が所在し、中頭郡における経済、文化、教育の中心としての役割を果たしていました。さらに沖縄八景に数えられた水量豊富で風光明媚な比謝川には、県下各地から家畜を積んだ汽帆船が比謝橋付近まで出入し、中頭郡における家畜の一大集散地としても栄え、人と自然と産業の調和のとれたまちとして発展を遂げてきました。

第2次世界大戦時、本町は米軍の沖縄本島最初の上陸地点となり、その集中砲火は熾烈を極めました。その砲撃により住家をはじめ、一木一草に至るまで焼き尽くされ、1945年(昭和20)8月15日の終戦を迎えるに至りました。

戦後は、1948年(昭和23)4月頃まで嘉手納飛行場内の部分的通行が可能でしたが、その後米軍の飛行場管理が強化され、全面的に通行立ち入りが禁止されたため、北谷村々域は完全に2分されました。このため嘉手納地域の住民は、役場へ用をたすために遠く謝苺(北谷)廻りかあるいは越来村(現

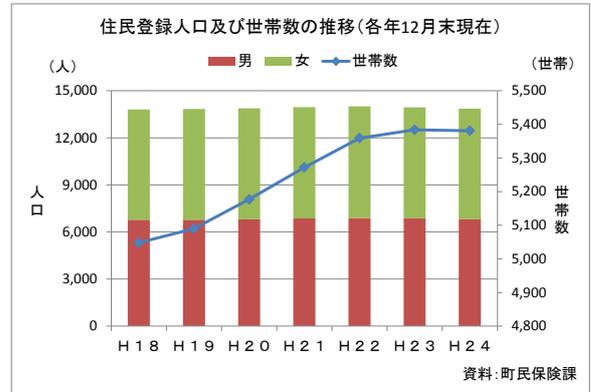
沖縄市)を迂回しなければならなくなり、交通の発達していなかった当時、日常生活をはじめ村行政運営にも著しく支障をきたしました。そのため、1948年(昭和23)12月4日人口約3800人をもって北谷村より分村、「嘉手納村」としての第一歩を踏み出しました。

その後、朝鮮戦争の勃発等により米軍は嘉手納飛行場を重要視し、逐年整備拡張が行われ、そのつど、宅地や農地は軍用地に姿を変え、狭小な住居地域を一層せばめていきました。膨大な面積を同飛行場地域に接収され、残された僅かな地域に住民はひしめきあった生活を強いられました。

(4)人口

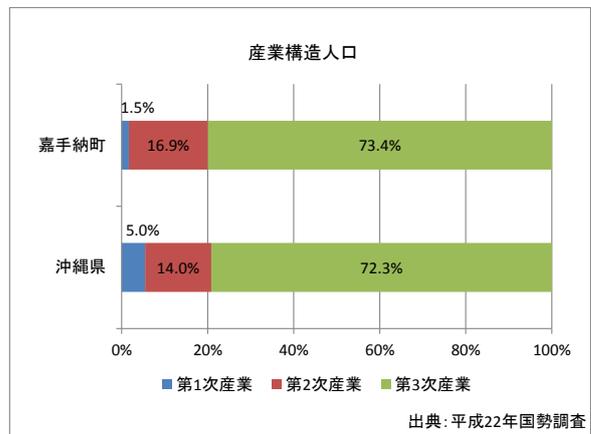
本町の人口は、平成18年の13,802人から平成22年の14,004人へと緩やかに増加しましたが、平成23は13,947人、平成24年は13,863人と横ばいとなっています。

世帯数は、平成18年の5,048世帯から平成24年の5,381世帯へと増加しています。



(5)産業

本町の産業構造人口は、第1次産業77人(1.5%)、第2次産業856人(16.9%)、第3次産業3,723人(73.4%)となっており、第3次産業比率が高く、第1次産業の比率が低い構造となっています。



(6)交通

本町は、沖縄本島中部に位置しており、西側を南北に国道58号が通っています。また、中央部を東西に県道74号沖縄嘉手納線が通っています。

路線バスとして琉球バス交通、沖縄バスが名護西線、読谷線など6路線を運行しています。



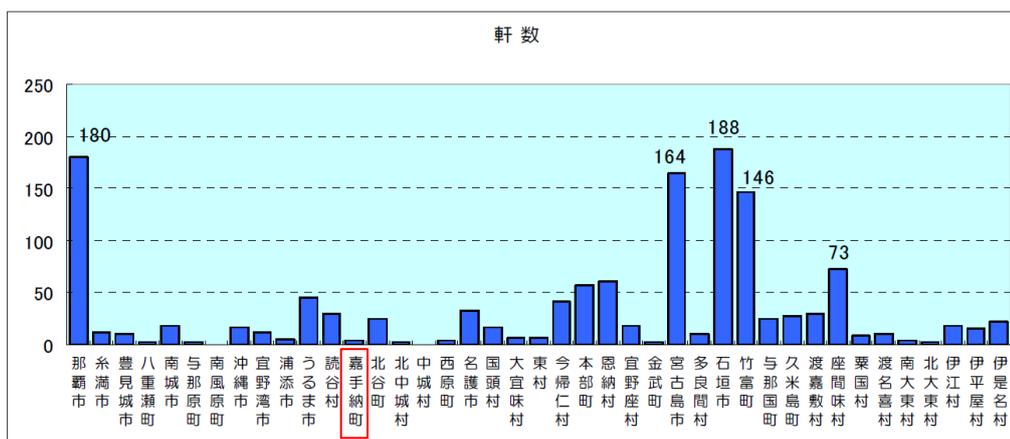
2. 嘉手納町の観光の現状

(1) 宿泊施設の状況

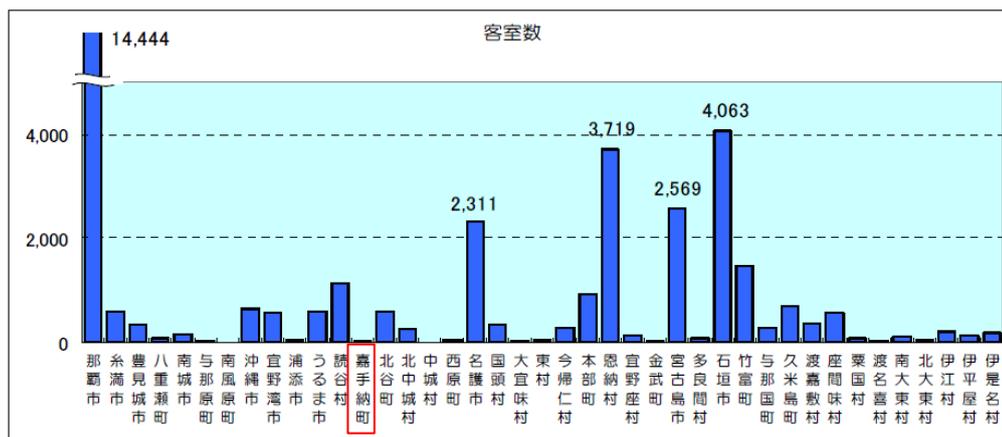
平成23年12月31日現在、嘉手納町の宿泊施設数は4軒となっています。内訳は、「ホテル・旅館」が2軒、「ドミトリー・ゲストハウス」が1軒、「ウィークリーマンション」が1軒となっています。隣接する読谷村の30軒、北谷町の24軒と比べて少ない軒数となっています。

また、平成23年12月31日現在の嘉手納町の宿泊施設の部屋数は30室、収容人員は50人となっています。

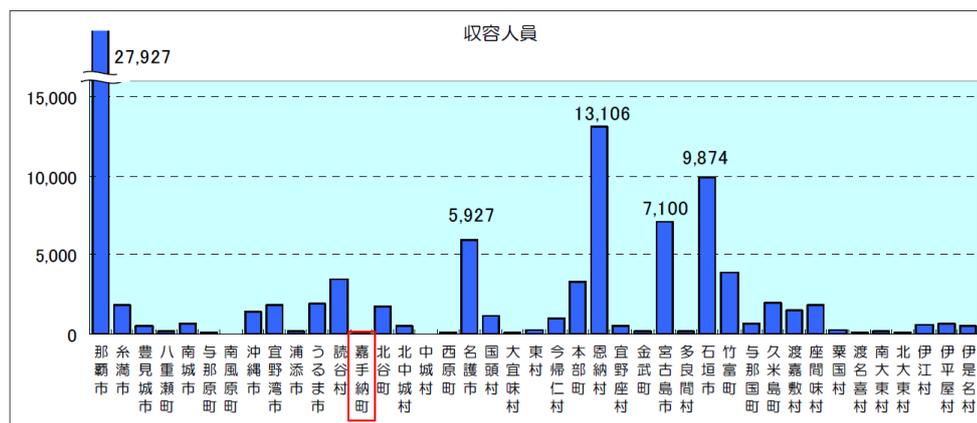
■ 宿泊施設数 (単位: 軒)



■ 客室数 (単位: 室)



■ 収容人員 (単位: 人)



出典: 沖縄県「平成23年度宿泊施設実態調査」

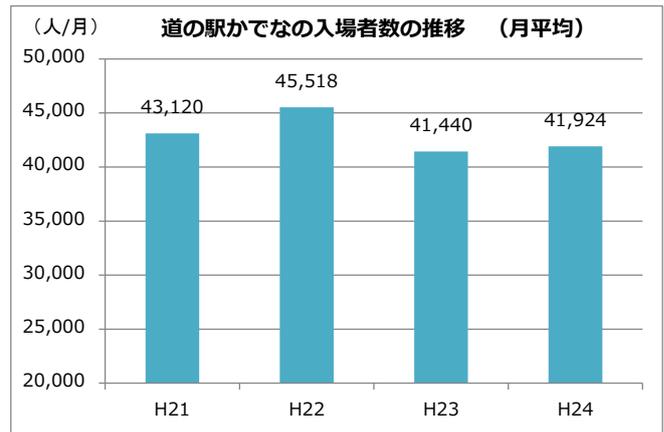
(2) 主要観光施設の利用状況

道の駅かでなの利用状況

○年間入場者数の推移

道の駅かでなの平成24年度(平成24年4月～11月実績の月平均)の入場者数は、41,924人/月となっています。年間では約50万人が入場していることとなります。

平成21年度、平成22年度に比べると、平成23年度、平成24年度は減少しています。

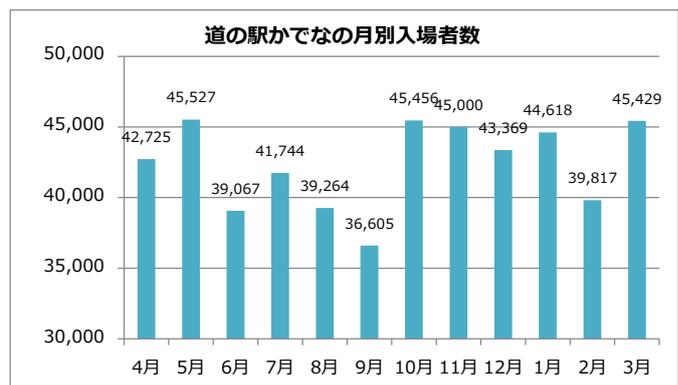


出典: 嘉手納町

○月別入場者数の状況

道の駅かでなの月別入場者数は、5月、10月、3月が多く、8月、9月の夏期が少なくなっています。

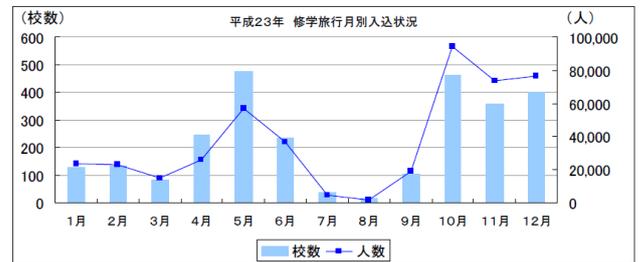
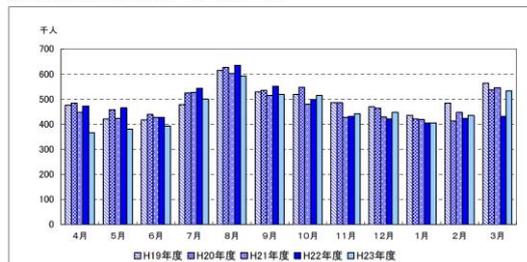
一方、沖縄県全体の入域観光客数は8月が最も多くなっており、また、沖縄県全体の修学旅行入込は8月が最も少なく5月が最も多くなっていることから、道の駅かでなの入場者の状況は、修学旅行の影響を大きく受けていると考えられます。



出典: 嘉手納町

※比較参考: 沖縄県全体の観光客数の状況

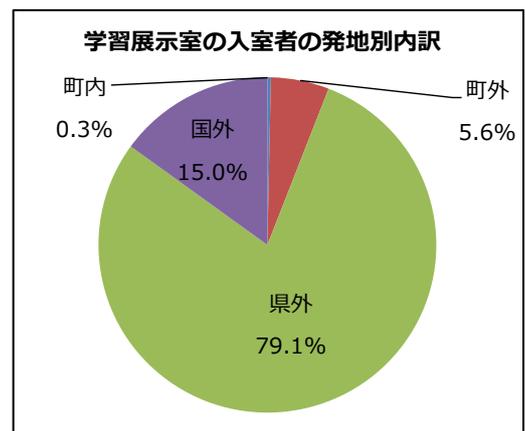
月別入域観光客数の推移(平成19年度～平成23年度)



出典: 沖縄県観光要覧(平成23年版)

○学習展示室の入室者の状況

道の駅かでな3階にある学習展示室の入室者の内訳は、「県外」が79.1%と最も多くなっています。次いで、「国外」の15.0%となっています。



出典: 嘉手納町

3. 嘉手納町の観光資源

(1) 観光資源の立地状況



(2) 町内の観光資源の状況

- 「山岳」「高原」については、町の北部に丘陵部はあるものの、嘉手納弾薬庫として占有されているため、観光資源としての活用は困難な状況です。
- 「湖沼」としては屋良ムルチ、「河川」としては比謝川、「海岸」としては水釜海岸が挙げられ、また、「史跡」の分類においても屋良のシリーガーやメーガーなど幾つかの「カー(井戸)」が挙げられ、嘉手納町は水に関連した観光資源が豊富であると言えます。
- 「神社・仏閣」「庭園」「旧街道」「博物館」「美術館」「動・植物園」「水族館」などの典型的な観光スポットについては、特に目立った資源はありません。
- 「歴史的建造物」「その他歴史・文化」については、グスク時代や戦前・戦後などの資源が挙げられます。
- 「温泉・健康」関連の資源はありません。
- 「スポーツ・レクリエーション施設」は充実しています。
- 「スキー場」「キャンプ場」「釣り場」「海水浴場」などの自然を活かしたスポーツ・レクリエーション施設はありません。
- 「嘉手納マリーナ」は、海辺の風景が素晴らしく、シーサイドレストランでは異国体験も出来るなどの楽しみ方も出来ますが、大々的に観光資源として喧伝が出来ないという制約があります。
- 「その他都市型観光-買物・食等-」に分類した「道の駅かでな」や「嘉手納ロータリー」、「他に分類されない観光地点」に分類した「嘉手納飛行場」は、他都市には見られない独自性の高い観光資源ですが、様々な課題を抱えています。
- 「行祭事・イベント等」については、「野國總管まつり」などの行祭事や、エイサーなどの郷土芸能は多いですが、「コンサート」「スポーツ観戦」「映画祭」「コンベンション・国際会議」など町外から多数の人を集客できるようなイベントは多くはありません。

■嘉手納町の観光資源の一覧

大分類	中分類	小分類	名称	概要
1. 観光地点	01.自然	01.山岳	-	-
		02.高原	-	-
		03.湖沼	屋良漏池(ムルチ)	比謝川(ヒジャガワ)の上流、嘉手納町と沖縄市の境の山中に屋良ムルチと呼ばれる池があります。古くから伝わる伝説に「大蛇伝説」があります。ムルチに住む大蛇は暴風などの害をあたえ、住民は童女を人身御供に出せば、禍い事がやむと信じていました。ある年、親孝行の娘がたった一人の祖母を置いて、池に臨んだ時に天神様が現れ、その大蛇を退治して災害を除きました。その後娘は王子の嫁になり、祖母と一緒に幸せに暮らしました。現在でも、屋良集落の祭事として毎年旧6月15日には御供えをして豊作を祈願しています。 
04.河川	比謝川(ヒジャガワ)遊歩道	比謝川(ヒジャガワ)は嘉手納町・読谷村・沖縄市など5市町村を流れて流れる流域面積が本島で最も大きな河川です。嘉手納町では、比謝川の水辺空間を整備し、緑と水のネットワーク化を図り、自然にやさしいまちづくりをすすめています。 		

大分類	中分類	小分類	名称	概要
		05.海岸	水釜海岸	市民の憩いの場「水釜海岸」は東シナ海を一望でき、天気の良い日はケラマ諸島を眺める事ができるスポットです。 磯遊びや釣りのほか、堤防の上での散歩やジョギングを楽しむ人も多いです。スキューバダイビングを楽しむために、近所のロングステイホテルに宿泊する観光客もいます。 
		06.海中	-	-
		07.島	-	-
		99.その他自然	イユミーバンタ	イユミーバンタとは、イユ(=魚)ミー(=見る)バンタ(=崖)、つまり「魚を見る崖」のことです。崖つぶちの岩には芝生が生えていて座り心地が良く、漁師はそこに座って魚の群れを探しました。
02. 歴史・文化	01.史跡	野国総管の墓	野国総管は、尚寧王代に北谷間切野国に生まれました。総管というのは貿易船に乗りこんだときの役目です。慶長 10 年(1605 年)総管は中国から甘藷の苗を持ち帰り、自分の故郷野国村に移植。その後甘藷は儀間真常によって沖縄中に広められました。 宝永年間(1704 から 1710 年)に薩摩の人前田利衛門によって甘藷の苗が薩摩に移植され、さらに延享元年(1744 年)青木昆陽がこれを開東にひろめ、それから日本国中にひろまることになりました。野国、野里では毎年旧暦 2 月に野国総管の墓に供物を供えてお参りしています。県指定文化財『記念物』史跡	
		野国貝塚群	嘉手納米軍基地西方、海岸砂丘地に形成された長大な貝塚群で、範囲は「野国総管の墓」付近を南縁とし、そこから北方およそ 100mの間に及ぶ区域です。この貝塚からは中国唐代の貨幣「開元通宝」が初めて出土し、沖縄貝塚時代後期の年代を推定する上で、重要な手がかりを与えたと言われます。上層からは縄文時代前期の縄痕文土器が出土し、下層からは縄文時代早期の爪形文土器が出土する複合遺跡です。県指定文化財『記念物』史跡	
		比謝川河口南丘陵遺跡埋蔵文化財包蔵地	水釜桁原に位置しています。比謝川の河口、南側に沿ってのびる琉球石灰岩丘陵付近の上から南側斜面にかけて、沖縄新石器前Ⅴ期に属すると見られる土器片の散布が報告されています。	
		植樟之碑	久得は昔王府の御用山林で間切、村が共同管理する杣山でした。明治 26 年尚家により一帯の開墾移住者を募集し、それ以後開墾地として大きな集落になりました。1904 年(明治 37 年)北条侍従が大早魃見舞いの為に来琉し、その一行が久得に滞在したとき「水源を涵養するのは植林にあり」ということでそこに樟を植えました。その記念に建立された碑です。町指定史跡	
		屋良のシリーガー	屋良ヒージャーガー・屋良ウブガーと共に古くから利用されてきたイジュンガー(井泉)です。作られた年代は不明。人が亡くなった時には、この源水で死者の体を清めたといえます。また、髪を洗ったり、洗濯をする場所としても利用されました。町指定史跡。	
		屋良のメーガー	屋良の人々が生活用水に利用したカー(井泉)の一つ。戦前の屋良には東池と西池があって、このメーガーは東池の近くにありました。つくられた年代は明治の初め頃。 戦前は、屋良の人々が飲料水として、水をくむついでに、髪を洗ったり、世間話をしたり、ふれあいの場でもあったようです。町指定史跡。	
		水釜シチャヌカ	このカー(井戸)は、水釜の集落がまだ形成されなかった今から約 270 年前、伝説で有名な字嘉手納の豪勇カディナーチナーの墓を建造した時に掘った井戸だと言い伝えられています。 昔、屋良の住民からは「奥間ヌ前ヌ井戸」と呼ばれ、各家に井戸が掘られる以前は、兼久、嘉前の住民も恩恵に浴したと言われ、	

大分類	中分類	小分類	名称	概要
				現在でも井戸拝みの為に訪れる人々がたえません。町指定史跡
		02.城	屋良城跡公園	<p>屋良城跡公園は、14世紀半ば頃まで大川按司の住居であった跡地を、比謝川(ヒジャガワ)の水辺の空間と一体となって機能する公園として整備され、町民の憩いと安らぎの場、レクリエーションの場として広く利用されています。この地域は地形的な変化に富み、周辺には在来種の樹木等が豊富に残され、また、野鳥や植物の観察等、自然と歴史の学習の場として活用されています。</p> 
		03.神社・仏閣	-	-
		04.庭園	-	-
		05.歴史的まちなみ、旧街道	-	-
		06.博物館	-	-
		07.美術館	-	-
		08.記念・資料館	嘉手納町中央公民館 民俗資料室	展示内容は、第二次世界大戦中の遺品や、各種郷土資料、郷土の誇りで、琉球王国に初めて甘藷を持ち込み、日本中に広まるきっかけを作った野國總管の資料など。入場無料。
		09.動・植物園	-	-
		10.水族館	-	-
		11.産業観光	-	-
		12.歴史的建造物	比謝橋	<p>1867年にできたこの五連続アーチ式の石橋は、戦前、比謝橋の近くまで山原(やんばる)船が出入りし、橋の付近は商業地として繁栄していました。</p> <p>景勝の場所が多く遊覧にも最適で、沖縄耶馬溪(やばけい)と呼ばれ、史跡名勝地として沖縄八景のひとつに指定されています。</p> <p>1953年に1号線(現、国道58号)拡張工事のため基礎まで壊され、今日の鉄筋コンクリートの橋にかわりました。</p> <p>比謝橋は、女流歌人・吉屋チルリーの歌「恨む比謝橋や情けないぬ人のわ身渡さと思てかけておきやら」でも有名です。</p>
			嘉手納グスク埋蔵文化財包蔵地	屋那上原で比謝川の南沿いの石灰岩丘陵上、国道58号沿いに位置します。グスクが存在した丘陵下にはウブガーと称するカーがあり、子どもが産まれた時などにそこから水を汲んだという事ですが、現在は跡形もありません。今では、井戸の形だけを国道沿いにつくり、そこを拝んでいます。
			屋良グスク埋蔵文化財包蔵地	屋良城は屋良大川城とも呼ばれ、比謝川中流の屋良の標高38mを最高とする小高い琉球石灰岩丘陵上に形成されたグスクです。築城は13～15世紀、南西面に半円状に外郭を巡らした輪郭式城郭で、北側を流れる比謝川を境として北への防御的な要素を備えたグスクで、石垣を持たない石灰岩丘陵上による構造で極めて珍しいものです。
		99.その他歴史・文化	安保の見える丘	嘉手納基地は4000m級の滑走路を2本持つ極東最大規模の米軍基地。その嘉手納基地を一望する小さな丘を、安保の丘(もしくは、安保の見える丘)と呼んでいます。この丘に立つと、広大な米軍基地と目の前で離発着する戦闘機を間近に見ることが出来ます。基地の島といわれる沖縄の状況を実際に目の当たりにすることで、日米安保について考える象徴的な場所となっています。

大分類	中分類	小分類	名称	概要
			天川坂(アマカービラ)	嘉手納から比謝橋へ通ずる石畳の道で、全長 72 メートル、傾斜30度くらいの坂道でした。造られた年代は定かではありません。1609年(慶長14年)3月29日、夕方6時、薩摩の陸兵一隊が読谷村大湾渡具知に上陸し、翌朝30日天川坂へ鉄砲隊を伴い進撃しましたが、神女の指揮下に嘉手納の夫人が熱いウケメー(おかゆ)を炊いて坂の上から流し、薩摩軍の侵入を阻止したといわれます。現在は国道となり、交通量も激増し、沖縄本島の振興発展に重要な役割を果たしています。
	03. 温泉・健康	01. 温泉地	-	-
		99. その他温泉・健康	-	-
	04. スポーツ・レクリエーション	01. スポーツ・レクリエーション施設	嘉手納運動公園	嘉手納野球場、嘉手納町陸上競技場、嘉手納町スポーツドームが集積している、敷地も広大で緑豊かな公園です。嘉手納野球場は、横浜DeNAベイスターズの春季キャンプにも使用されています。 
兼久海浜公園			夜間照明完備のソフトボール場や多目的グラウンド、テニスコート、ゲートボール場などが利用できる、嘉手納町内では最大級の公園です。	
嘉手納町兼久海浜公園ウォーターガーデン			町内の子供たちが水に触れ、親しみ、体力の向上と健康づくりに寄与する目的で整備され、本町のスポーツ振興の拠点である嘉手納町兼久海浜公園内に、新しい体育施設として完成し、平成24年4月より供用開始をしています。	
		02. スキー場	-	-
		03. キャンプ場	-	-
		04. 釣り場	-	-
		05. 海水浴場	-	-
		06. マリーナ・ヨットハーバー	嘉手納マリーナ	米空軍嘉手納飛行場西側の北端に位置する米軍及び軍属専用のマリーナです。マリーナに進入する水路は、水路入口を示す黄色立標があり、その黄色立標と北側の公園岸壁との間が水路になっています。
		07. 公園	野國總管(のぐにそうかん)公園	嘉手納町中心部の樹木におおわれた緑豊かな高台にあり、比謝川(ヒジャガワ)流域を見下ろす風光明媚な場所に位置しています。公園内には、産業の恩人、野國總管の宮を初め慰霊塔、招鬼の塔が建立されており、名所旧跡として広く知られています。本公園と比謝川遊歩道が連結一体化し、町民のレクリエーションの場、憩いの場として利用されています。 
			嘉手納公園	嘉手納町中心部、住居地区内の嘉手納小学校西側に位置したところにあり、昭和55年度、都市公園として位置づけて、昭和59年度防衛施設庁の補助事業により整備され、地域の憩いの場、レクリエーションの場として広く利用されています。また、本公園は隣接する比謝川沿いの遊歩道と結ばれ、自然林散策道へのプレイ広場となっています。
		08. レジャーランド・遊園地	-	-
		09. テーマパーク	-	-

大分類	中分類	小分類	名称	概要	
		99.その他スポーツ・レクリエーション	比謝川(ヒジャガワ)のカヤック	<p>沖縄本島で最大の流域面積を持つ比謝川は下岸にマングローブ等の木々がうっそうと生い茂り、たくさんの生物が生息しています。</p> <p>マングローブを住処とする亜熱帯の動植物の営みの姿や自然の風景を、普段は見ることのできない川面から眺めることができます。</p> 	
	05.都市型観光 -買物・食等-	01.商業施設	-	-	
		02.地区・商店街	-	-	
		03.食・グルメ	-	-	
		99.その他都市型観光-買物・食等-	道の駅かでな	隣接する嘉手納基地が一望できる展望フロア、展示パネル等で構成された学習展示室、案内・休憩室、ショップ、レストラン、トイレ等が設置された施設。	
			嘉手納ロータリー	戦後に米軍が整備した巨大ロータリーは再開発が行われ、今では真新しいビルが立ち並ぶ近代的な空間に生まれ変わっています。かつての巨大ロータリーの内側はその形状を残しつつも中心には芝生のロータリー広場を設け、その周囲に再開発ビルや住宅が配置されています。	
	06.その他	99.他に分類されない観光地点	嘉手納基地	<p>嘉手納基地の面積は嘉手納町の面積の約 83%を占めており、嘉手納町、沖縄市、北谷町の1市2町にまたがっています。昭和20年4月、沖縄本島に上陸した米軍はただちに嘉手納飛行場(旧日本陸軍航空本部中飛行場)を占領し、本土攻略のための前進基地として整備拡張を行い、同年6月には大型爆撃機が離発着できる全長2,250mの滑走路を完成させ、B-26やB-29等大型爆撃機の主力基地として使用してきました。基地の様子は、道の駅かでなや安保の丘から展望することができます。</p> 	
2.行祭事・イベント	01.行祭事・イベント	01.行・祭事	嘉手納町産業まつり	1月下旬の土、日曜日に「道の駅かでな」で開催。嘉手納町の農産物や加工品、お菓子などが一堂に集まり、普段味わうことができない「まーさむん じょーとーむん かでなーむんや」がいっぱいです。また、お楽しみ抽選会や、島唄、各種団体参加の舞台もあります。	
			比謝川鯉のぼりフェスタ	4月下旬に嘉手納町総合福祉センターで開催。子ども達の健やかな成長を願い、比謝川から海へ向かうように、たくさんの鯉のぼりが揚げられます。こどもステージで子どもたちによる演舞やサイエンスショー、ふーせんパフォーマンスやお楽しみビンゴ大会も開催。	
			かでな社交業ピアフェスタ	ビールのおいしい季節に、「嘉手納の夏はピアフェスタから!」という事で開かれます。嘉手納社交飲食業組合主催でカラオケや音楽ライブ等があります。	
			YOU・遊・比謝川河童まつり	7月下旬に開催。「比謝川に清流をとりもどそう」をモットーに始まりました。比謝川の持つ自然のすばらしさを体感でき、イカダ競争やカヌー遊び、アームレスリング大会やスイカ早食い競争など川を利用した多彩なイベントがたくさんあります。	

大分類	中分類	小分類	名称	概要
			野國總管(のぐにそうかん)まつり	西暦 1605 年、野國總管によって中国福建省からもたらされた甘藷が沖縄の大地で実り、嘉手納町を発信地としてやがて全国へと広がっていき、人々を飢えや飢饉から救い、全国民が等しくその恩恵に浴することになりました。 野國總管生誕の地・嘉手納町では、野國總管の遺徳を顕彰し、その功績を称え、甘藷を「野国いも」の愛称と呼ぶとともに、野國總管と我が国における甘藷発祥の地・嘉手納を広く全国に発信し、アピールするため「野國總管まつり」を 10 月第 1 土曜日に町民参加で行っています。
			泡盛まつり	県内の協賛所蔵所の泡盛飲み放題のまつりです。嘉手納社交飲食業組合主催で、ステージイベント、カラオケ民謡大会等があります。
		02.花見	-	-
		03.初詣	-	-
		04.花火大会	-	-
		05.郷土芸能	嘉手納町エイサーまつり	新町通りで開催。嘉手納町各区のエイサー、千原エイサーが披露されます。観客と踊り手が近い臨場感のあるエイサーが楽しめます。
			嘉手納ハーリー大会	嘉手納町漁港で開催。本来は海人(うみんちゅ=漁師)による五穀豊穰、無病息災、航海安全を祈願するイベント。サバニと呼ばれる伝統漁船で行う競争です。
			千原エイサー	千原集落は北谷間切野國村の一角に属し、1800 年頃、首里や那覇、久米村からの移住者によって、7、8 世帯の小集落(屋取)が形成されました。その頃、12、3 名の男子が寄り集まって、祖先の供養と村人たちの娯楽のために集落独特のエイサーを始めたのが千原エイサーの起源です。町指定無形民俗文化財。
			屋良のあやぐ	この踊りは、明治時代から屋良部落の村遊びで踊られてきたといわれています。あやぐは本島の各市町村にも独特のものがいくつかありますが、ほとんどが男女による群舞となっています。屋良部落でも昔は男女がペアになって16～18名で踊ったとされています。また、屋良には「屋良のチンク」という民俗文化財があります。町指定無形民俗文化財
			野國天川	明治時代に野國部落の有志が、那覇の芝居の役者から習ってきた部落の若者達に教えたのがこの芸能の始まりだといわれています。専門家の話では、この踊りは加那ヨ一天川の原形をなすもので、仲尾時代の玉城盛重が創作したものだといわれています。町指定無形民俗文化財。
			野里棒	野里の棒術は一名道棒ともいわれ、武術として普及され、二人が命がけて打ち合う姿は真剣勝負そのもの。棒術は組棒と一人棒とがあり、又棒も六尺棒と尺はじりといわれる三尺棒の二種類があります。組棒の種類は戦前まで49組くらいあったといわれていますが、現在は11組継承されています。一人棒には三手あります。町指定無形民俗文化財
			屋良のチンク	明治 38 年頃、空手で有名な喜屋武朝徳(チャンミー小)が若い頃首里の儀保で習ってきて、屋良の若者達に教えたのが起源だといわれています。「突貫」と言われ、昔は大綱引きの時の応援団の先頭に立って、氣勢を揚げる役目を果たしていました。現在は祝い事にも出演し、勇壮な響きをとどろかせるようになりました。町指定無形民俗文化財。
			野里の道イリク	鉦鼓と太鼓を用いる点では、屋良のチンクと相通ずるものがある様に思われますが、大きな相違点があります。屋良のチンクはあくまでも出陣の時に氣勢を揚げるため、一方野里の道イリクは凱旋の引き際の芸能であるといわれています。道イリクは野里の伝統芸能として、昔は旧暦 8 月の村芝居でよく



大分類	中分類	小分類	名称	概要
				演じられていましたが、戦後の空白時代を経て昭和 48 年頃に復活され、最近では野國總管まつりの他に野里共進会の芸能祭、各種祝賀会等で上演されるようになりました。町指定無形民俗文化財。
		06.地域風俗	-	-
		07.博覧会	-	-
		08.コンサート	-	-
		09.スポーツ観戦	-	-
		10.映画祭	-	-
		11.コンベンション・国際会議	-	-
		99.他に分類されない行祭事・イベント		
3.名産品・文化	01.郷土料理	01.郷土料理	-	-
	02.名産品	01.伝統工芸技術	三線知念大工型	全長 77.8 cm 重量 450g 糸蔵 4.5 cm 心(しん)の長さ 21.5 cm。知念大工型の正型で、尚益王代(1710 年)初めて三線主取の職に就いた知念の作と推定されます。この三線の特徴は鳩胸が力強く、もりあがって筋だっている事です。県指定有形文化財(工芸品)
			三線真壁型	全長 77.2 cm 重量 500g 糸蔵 3.4 cm 心(しん)の長さ 21 cm。真壁型の正型で、面の曲がりは「タマキー」に類します。旧久志村からでた三線と言われ、凡そ 214 年前(平成 10 年現在)の製作と推定されます。町指定有形文化財(工芸品)。
	02.特産品		野国いも	1605 年、我が町の先達・野國總管によって中国福建省からもたらされた甘藷は、野國總管生誕の地・野国を発信基地として琉球の全ての村々へ、そして、薩摩を経て全国へと広まり、人々を餓えや飢饉から救い、全国民が等しくその恩恵に浴することになりました。嘉手納町では、野国いもを使った菓子「のぐに」、野国芋アイスクリーム、野国芋ぜんざいなどの商品が開発されています。
			ちんすこう	ちんすこうは、琉球王朝時代から沖縄県で作られている伝統的な菓子の 1 つです。嘉手納町でも、「紅芋」や「塩」など様々な味のちんすこうが作られています。
	03.音楽	03.音楽	古謝美佐子	沖縄音楽を代表する歌手の一人で、嘉手納町生まれ。1990 年にネーネーズを結成してリーダーとなりました。「恨む比謝橋」や「黒い雨」など嘉手納生まれならではの曲も歌っています。
4.動植物	01.動物	01.動物	-	-
	02.植物	02.植物	字嘉手納拝所の大ガジュマル	昭和 13 年頃、この一帯に神が住むと言われるようになり、土着信仰の礼拝の対象物となりました。推定樹齢 226 年、樹高 18m、胸高周囲 8m、枝張りの長さ 24m、枝張りの面積 146 m ² 。町指定天然記念物。
			嘉手納小学校の大デイゴ	明治 39 年頃、島袋正助が島袋家の墓を建てたときに、記念木として墓の前に植えたものだと言われています。樹齢 98 年、樹高 8m、胸高周囲 4m、枝張りの長さ 12m、枝張りの面積 127 m ² 。町指定天然記念物。
			リュウキュウウロコマリ(キツネノマゴ科)	嘉手納町を北限とする珍しい草本で、屋良城跡のうしろの遊歩道側にわずかにあります。

大分類	中分類	小分類	名 称	概 要
			マングローブ林	比謝川大橋付近から潮が満ちると、潮がのぼってくる比謝橋の川岸の泥に生える木で、この木の林をマングローブ林といいます。比謝川には、白い花を夏に咲かせるメルギが分布しています。
			リュウキュウコクタン	町の木。
			ハイビスカス	町の花。
5. 宿泊施設	01.ホテル	01.リゾートホテル	-	-
		02.シティホテル	ホテル ナ・ヴィ	海を一望できる絶好の位置にあり、周辺には公園施設、ショッピングモール等お出かけには便利な場所にある格安ホテル。
			ラグーンパレス	全室オーシャンビュー。トイレ、バスはセパレート。
		03.観光ホテル	-	-
	04.ビジネスホテル	-	-	
	02.旅館	01.観光旅館	-	-
	03.民宿/ゲストハウス	01.ゲストハウス	遊びと寛ぎの宿 ヤーグナの空	外人住宅街の入口にたたずむ海風の吹き抜ける全て手造りの宿。

4. 観光ニーズ調査結果

(1) 住民意向調査

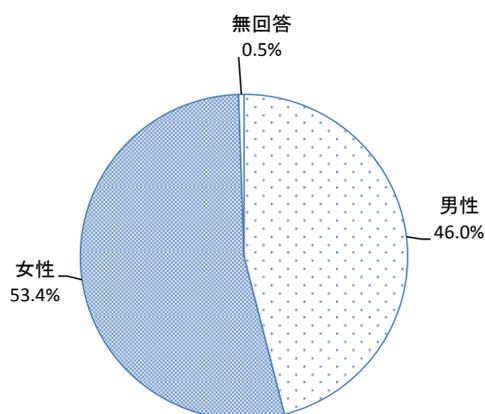
1. 調査概要

調査方法	住民基本台帳から無作為抽出した町民に対して、郵送配布・郵送回収。
実施期間	郵送配布:平成 25 年 3 月 5 日 回収期限:平成 25 年 3 月 12 日
対象	嘉手納町に居住する町民
サンプル数	189 サンプル (配布数 1,500、回収率 12.6%)

2. 回答者属性

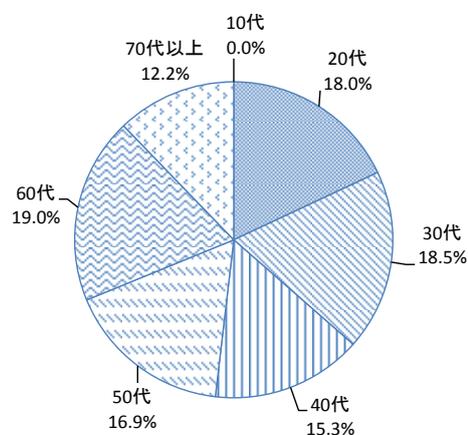
【問1-①】 性別

女性が 53.4%と 5 割を上回っています。



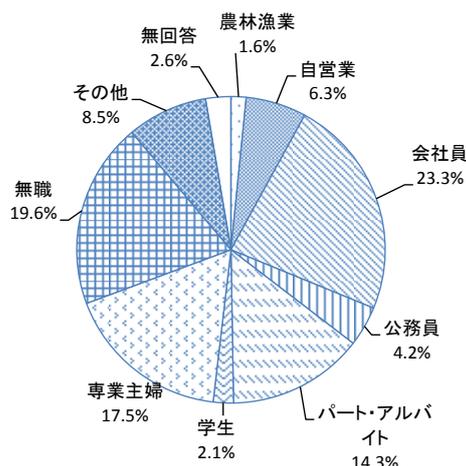
【問1-②】 年齢

10 代以外の年代が概ね同じくらいの割合になっています。



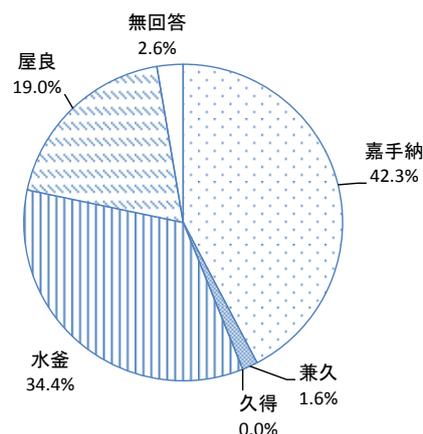
【問1-③】 職業

「会社員」が 23.3%と最も多く、次いで、「無職」の 19.6%となっています。



【問1-④】 住所

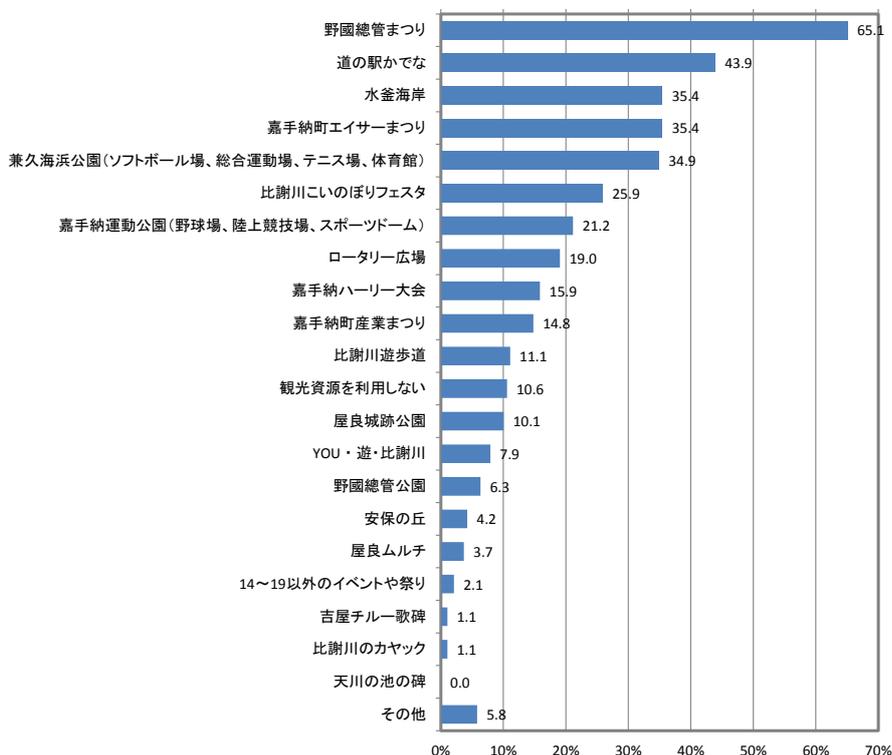
「嘉手納」に住んでいる人が 42.3%と最も多く、次いで、「水釜」に住んでいる人が 34.4%となっています。



3. 調査結果まとめ

【問2】 あなたがよく利用する嘉手納町の観光資源（※観光資源とは、観光施設、観光地、景勝地、文化財などのこと）は何ですか。（複数回答）

「野國總管まつり」と回答した人が 65.1%と最も多く、次いで「道の駅かでな」と回答した人が 43.9%となっています。



【問3】 あなたが、県外・町外の友人や知人におすすめする嘉手納町の観光資源、農畜産物や食、郷土料理についてお聞きます。あなたが、よくおすすめする名称・内容、そのおすすめポイントを簡単にご記入下さい。

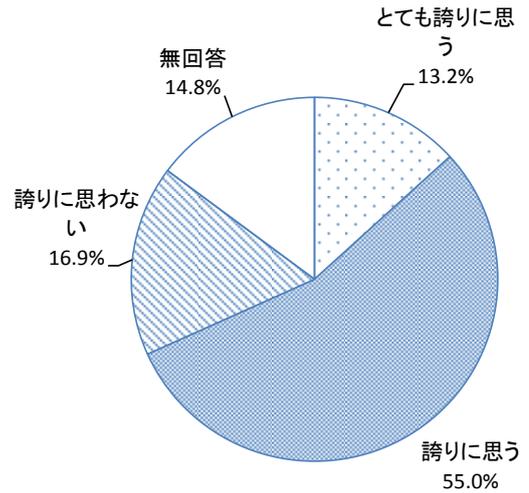
「道の駅かでな」が 36 件と最も多く、「安保の丘」(11 件)、「嘉手納基地」(4 件)と合わせて、基地関連が多くなっています。「野國總管まつり」(11 件)や「野國總管公園」(2 件)、「野國いも」(2 件)など野國總管関連も見られます。「水釜海岸」(10 件)や「兼久海浜公園」(4 件)は、夕日の時間帯がお奨めされています。その他、飲食店や食べ物もお奨めされています。

【問4】 あなたが自慢できる観光ガイドブックやパンフレットに掲載されていない穴場スポット(場所、食事処、景色など)・地域の行事はありますか。その穴場スポット・地域の行事の名称・内容、そのおすすめポイントを簡単にご記入下さい。

「水釜海岸」(10 件)が多く挙げられており、「マルチメディアセンターの丘」(5 件)、「嘉手納マリナー」(4 件)と合わせて海岸沿いが多く挙げられています。比謝川関連は 4 件となっています。

【問5】 あなたは、嘉手納町を誇りに思いますか。

「とても誇りに思う」と「誇りに思う」を合わせると 68.2%となっています。「誇りに思わない」という回答は 16.9%となっています。



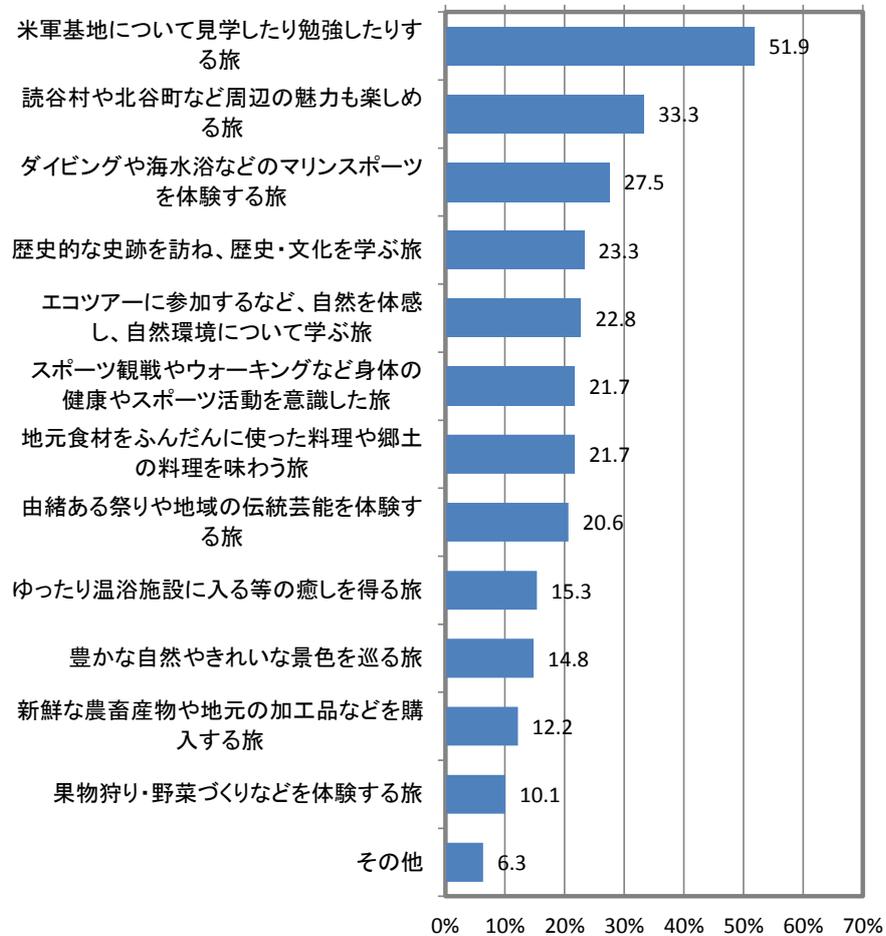
【問6】 嘉手納町に観光客を呼び込むためにどのようなことに取り組む必要があると思いますか。

「魅力的なイベントの定期的な開催」と回答した人が 40.2%と最も多くなっており、次いで「魅力を伝えるための積極的な情報発信」(27.0%)、「豊かな自然環境の保全」(26.5%)となっています。



【問7】 嘉手納町の観光資源を満喫してもらうために、来訪者にどのような旅を提供したら良いと思いますか。

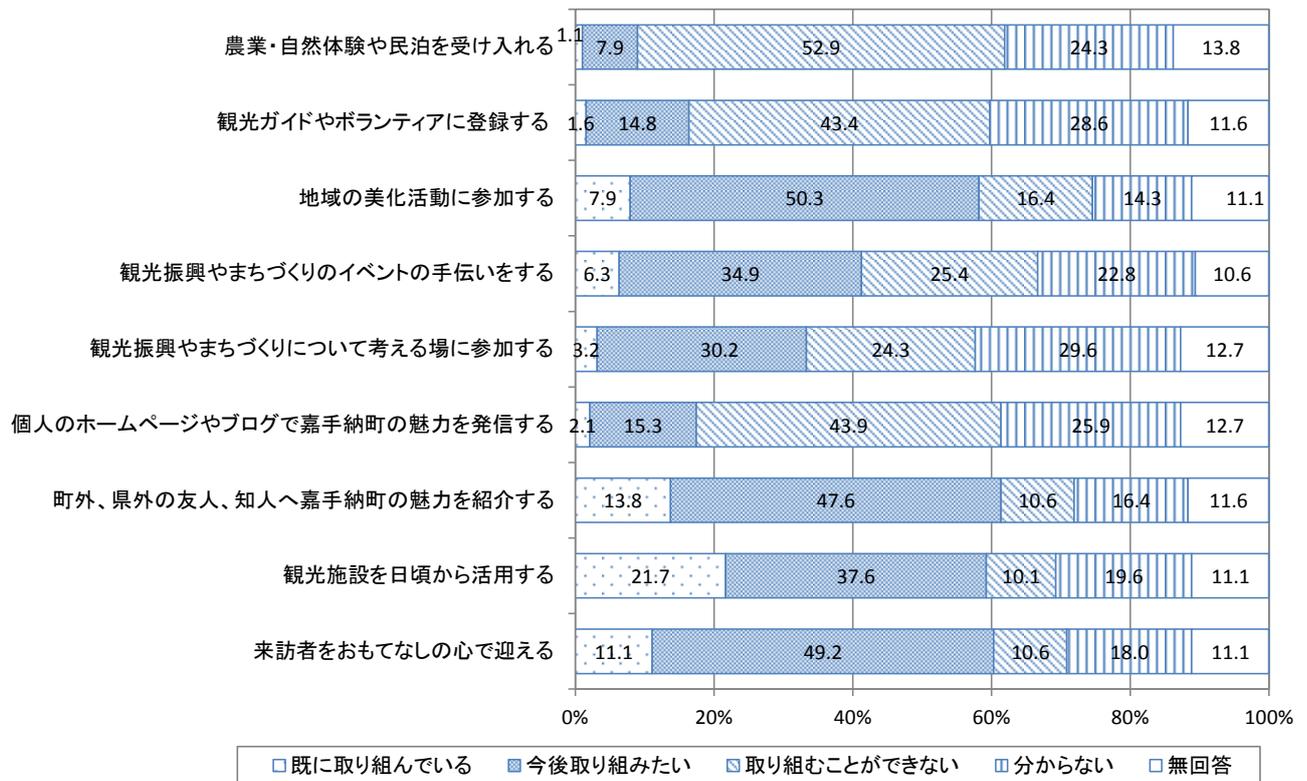
「米軍基地について見学したり勉強したりする旅」と回答した人が 51.9%と最も多くなっており、次いで「読谷村や北谷町など周辺の魅力も楽しめる旅」(33.3%)、「ダイビングや海水浴などのマリンスポーツを体験する旅」(27.5%)となっています。



【問8】 あなたは、町民としてどのような形で嘉手納町の観光振興にかかわっていきたいですか。

「地域の美化活動に参加する」「町外、県外の友人、知人へ嘉手納町の魅力を紹介する」「観光施設を日頃から活用する」「来訪者をおもてなしの心で迎える」については、「既に取り組んでいる」と「今後取り組みたい」の計が約6割となっています。

「農業・自然体験や民泊を受け入れる」については5割を超える人が、「観光ガイドやボランティアに登録する」「個人のホームページやブログで嘉手納町の魅力を発信する」については4割を超える人が「取り組むことができない」と回答しています。



【問9】 嘉手納町の観光振興の取組みについて、ご意見・ご提案・アイデア・改善点などがありましたら、ご自由にご記入ください。

- イベントやキャンペーンの実施が多く挙げられています。特に、米軍基地と協力したイベントが挙げられています。
- 「観光協会の設立」など観光振興の推進体制についての意見が見られます。
- 「身近な公園の整備(特に屋良城跡公園)」「犬の糞の問題」「ゴミ問題」「ホームレスの問題」など、外からの観光よりもまず町民が住みたくなるまちづくりを行うことが大事であるという指摘が見られます。

(2) 道の駅かでな来訪者アンケート調査

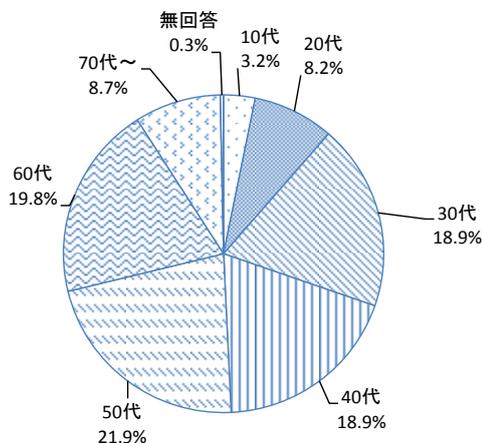
1. 調査概要

調査方法	道の駅かでなにおいて、調査員によるヒアリング方式で実施
実施期間	平成 25 年 1 月 27 日（日）、28 日（月）の 2 日間
対象	道の駅かでなへの来訪者（1 月 27 日は、道の駅において産業まつりが開催されたため、産業まつり目的の来訪者も含まれる）
サンプル数	597 サンプル（27 日：407 サンプル、28 日：190 サンプル）

2. 回答者属性

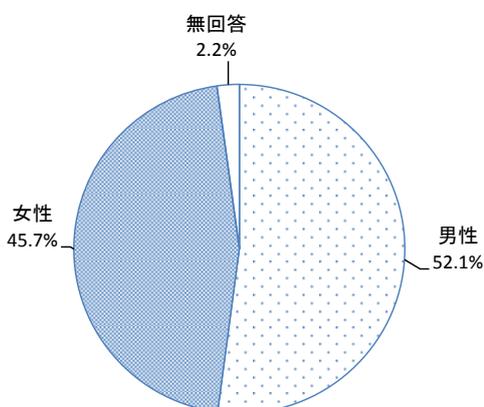
【問1-①】 年齢

30代、40代、50代、60代の回答がそれぞれ約 2 割、20 代及び 70 代以上の回答が約 1 割となっています。



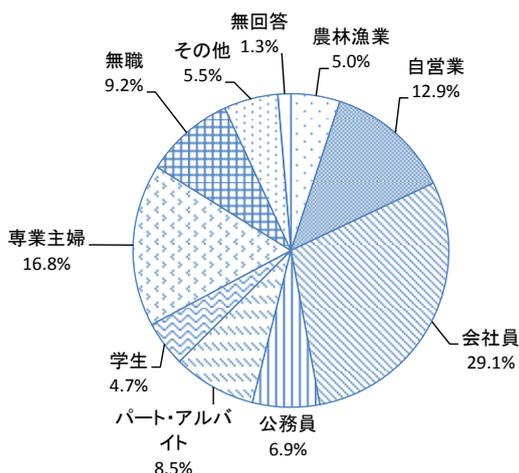
【問1-②】 性別

男性からの回答が若干多く 5 割を超えています。



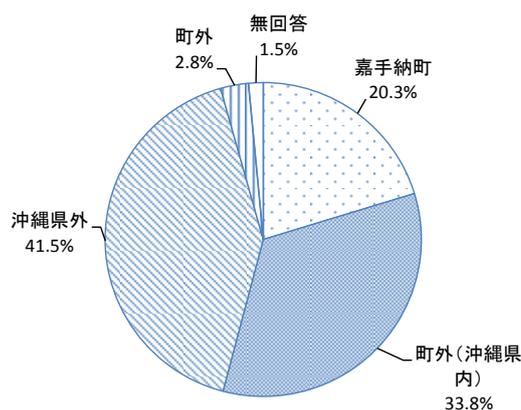
【問1-③】 職業

会社員の回答が 29.1%と最も多く、次いで専業主婦の 16.8%となっています。



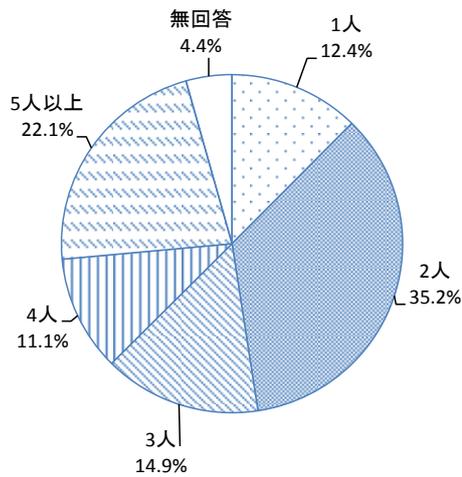
【問1-④】 住所

「沖縄県外」が 41.5%と最も多く、次いで「町外（沖縄県内）」の 33.8%となっています。嘉手納町内は約 2 割となっています。



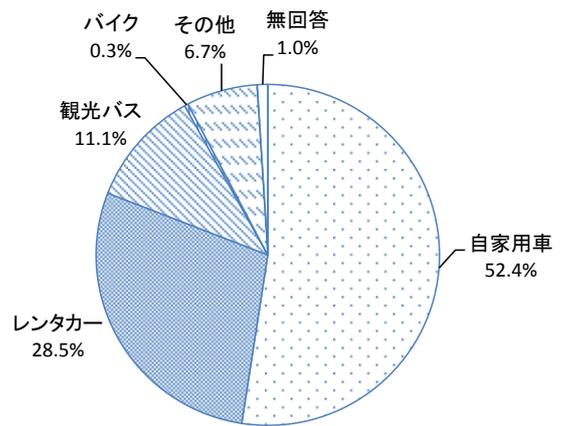
【問1-⑤】 利用人数

「2人」が35.2%と最も多く、次いで「5人以上」の22.1%となっています。



【問1-⑥】 来訪手段

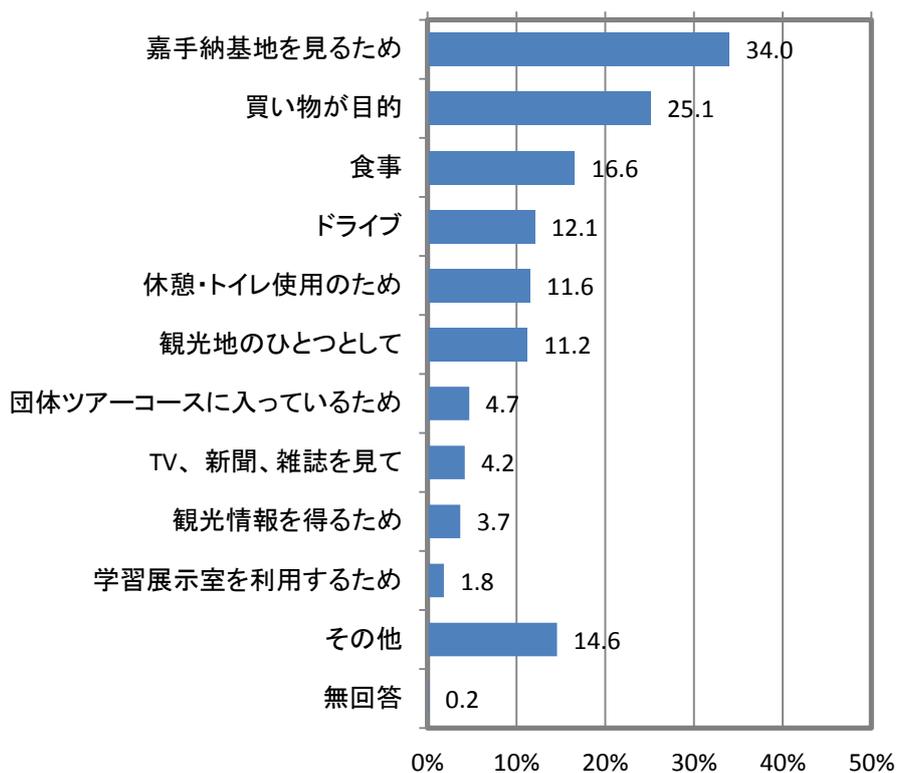
自家用車が52.4%と最も多く、次いで、レンタカーが28.5%となっています。



3. 調査結果まとめ

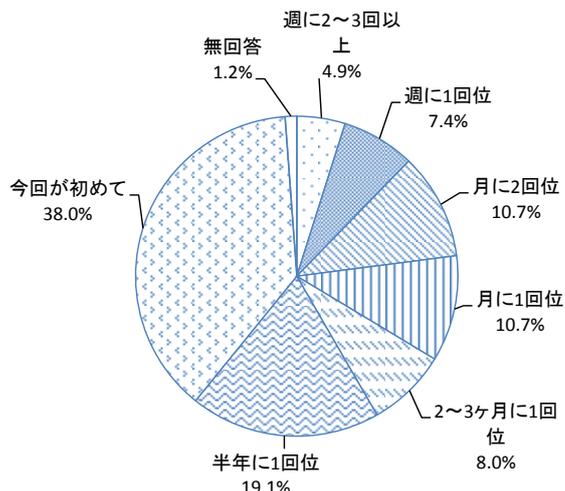
【問2】 立ち寄った目的を教えてください。

「嘉手納基地を見るため」に立ち寄った人が34.0%と最も多く、次に「買い物」の25.1%、「食事」の16.6%となっています。



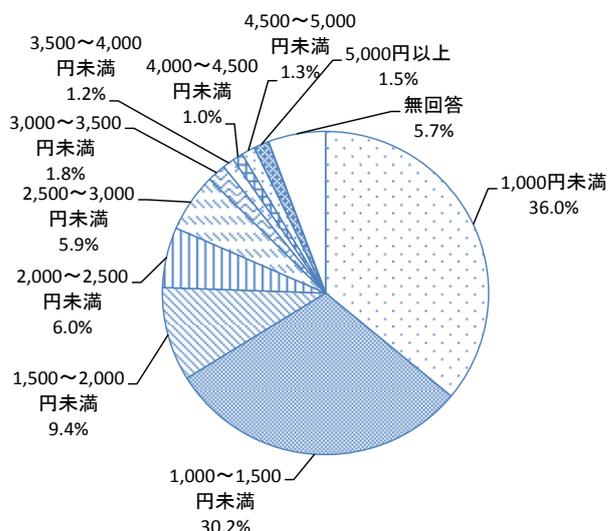
【問3】「道の駅かでな」を訪れる頻度を教えてください。

「今回が初めて」と回答した人が 38.0%と最も多く、次に「半年に1回位」の 19.1%となっています。



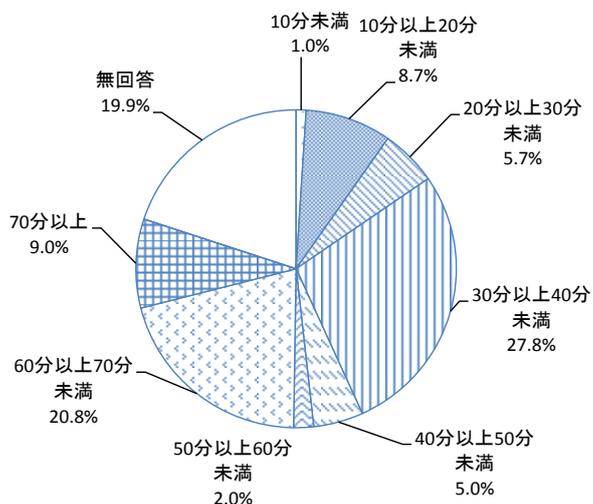
【問4】本日、「道の駅かでな」で使った(使う予定の)合計金額はいくらですか。

「1,000 円未満」と回答した人が 36.0%と最も多く、次に「1,000~1,500 円未満」の 30.2%となっています。



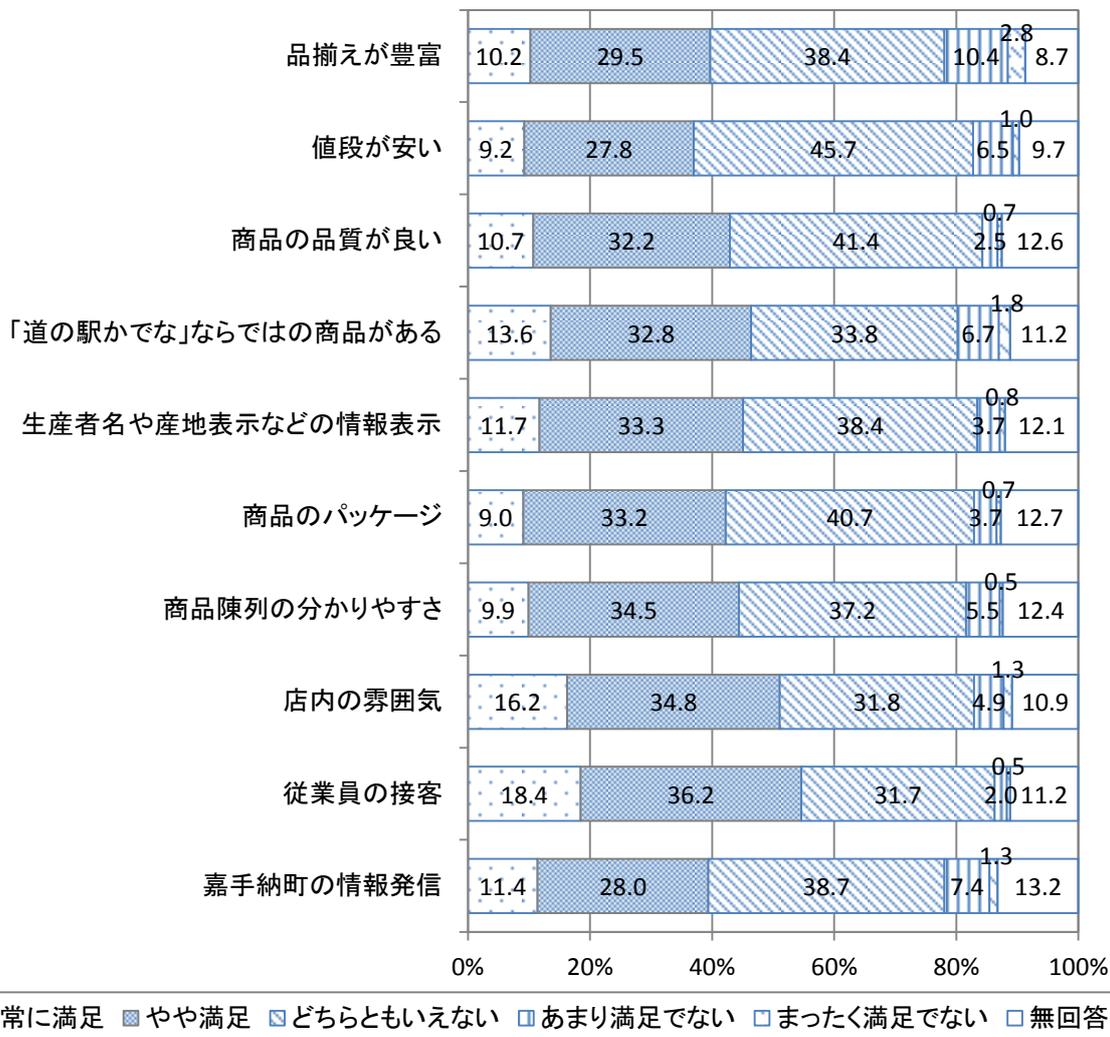
【問5】本日の「道の駅かでな」での滞在時間はどのくらいですか。

30分以上40分未満滞在した人が最も多く3割近く、次に60分以上70分未満滞在した人が2割を超えています。



【問6】「道の駅かでな」の満足度について教えてください。

「従業員の接客」「店内の雰囲気」については、5割を超える人が満足（「非常に満足」と「やや満足」の計）と回答しています。その他の項目も概ね4割の人が満足と回答しているが、「品揃えが豊富」については1割を超える人が不満に感じています。



【問7】「道の駅かでな」であつたら良いと思う商品やサービスがあれば、教えてください。

- 商品に関しては、「米軍関連品」や「農産物・野菜」「地元の商品」などが多く挙げられました。
- 品揃えに関しては、「商品が少ない」「品ぞろえをもっと増やして欲しい」という意見が多く挙げられました。
- 施設に関しては、「飲食店」や「子供の遊べる場所」「足湯」「ATM」などが挙げられました。
- 情報に関しては、「基地情報」や「地域の情報」が挙げられました。

【問8】「道の駅かでな」に来訪する直前に立ち寄った場所と、直後に訪問する予定の場所(施設)を教えてください。

＜嘉手納町内居住者＞

- 「自宅」から来て「自宅」へ帰るという回答が多い結果となっています。直前の立ち寄り場所については「学校」という回答も見られます。

＜町外(県内)居住者＞

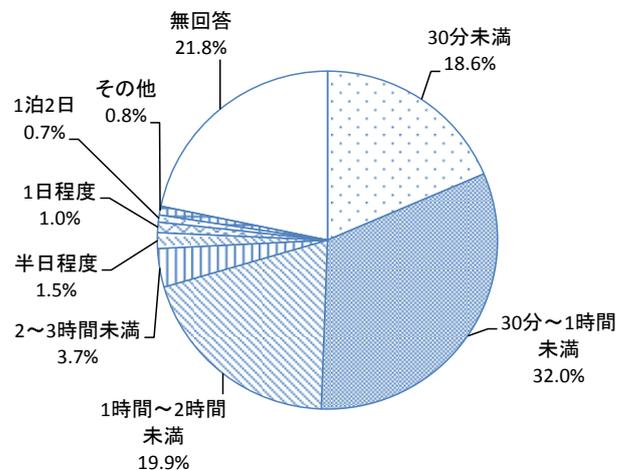
- 「自宅」から来て「自宅」へ帰るという回答が多い結果となっています。直前の立ち寄り場所については、ネーブルカデナ、ジャスコ、飲食店などの商業施設も見られます。直後の立ち寄り予定については、「おんなの駅(恩納村)」や「JAファーマーズマーケット ちゃんぷる〜市場(沖縄市)」という回答も見られます。

＜県外居住者＞

- 直前の立ち寄り場所については、「ホテル」が最も多く、以下「黒糖工場」「琉球村」「那覇」「海中道路」「アメリカンビレッジ」「やちむんの里」「美ら海水族館」など町外の施設ばかりであり、町内の施設はほとんど挙げられませんでした。直後の立ち寄り予定についても、「国際通り」「空港」「ホテル」「アメリカンビレッジ」などの回答が多く、町内の施設はほとんど挙げられませんでした。

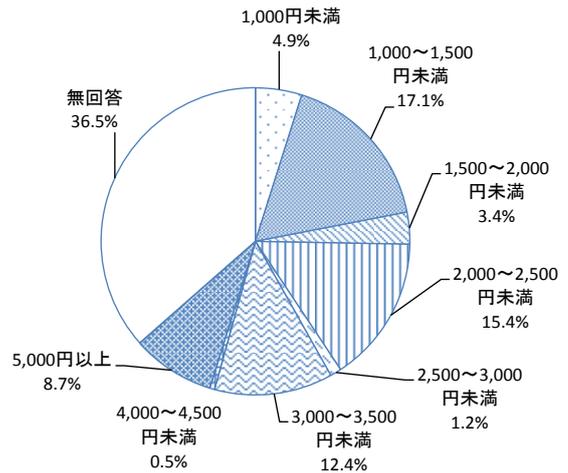
【問9】 嘉手納町以外からお越しの方のみお答えください。「嘉手納町内」に滞在する時間を教えてください。

「30分～1時間未満」と回答した人が32.0%と最も多く、次いで、「1時間～2時間未満」の19.9%、「30分未満」の18.6%となっています。2時間未満の回答を合計すると約7割になっています。



【問10】 嘉手納町内で使う予算を教えてください。(食事、買い物、宿泊費など合計金額)

「1,000～1,500 円未満」と回答した人が 17.1%と最も多く、次いで「2,000～2,500 円未満」(15.4%)、「3,000 円～3,500 円未満」(12.4%)となっています。



【問11】 「道の駅かでな」や、嘉手納町の観光についてご意見・ご要望をお聞かせください。

<嘉手納町内居住者>

- 「もっと商品や店を増やして欲しい」という意見が多く、参考例として「おんなの駅(恩納村)」が挙げられています。

<町外(県内)居住者>

- 「店や商品が少ない」ので「もっと商品や店を増やして欲しい」という意見が多く、参考例として「おんなの駅(恩納村)」が挙げられています。
- 一方、「良いところ」「頑張っている」などの好評価もあり、「もっとアピールすれば良い」という意見も寄せられました。

<県外居住者>

- 「基地を見ることが出来るのが良い」「基地を活かした観光を」など「基地」に関する意見が多く挙げられました。また、「道が分かりにくい」「観光情報が分かりにくい」など町全体の観光に関する意見も挙げられています。また、「トイレ」の数や清潔度に関する要望も挙げられています。

(3) 嘉手納町の観光に関するインターネットアンケート調査

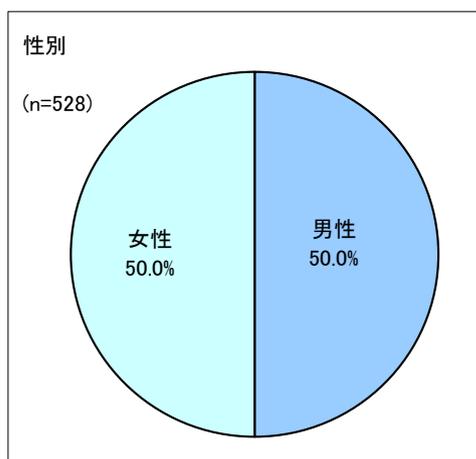
1. 調査概要

調査方法	インターネットリサーチ (マクロミル社登録モニター)
実施期間	平成 25 年 2 月 14 日 (木) ~ 平成 25 年 2 月 16 日 (土)
対象	沖縄を訪問した経験のある高校生以上の方
サンプル数	528 サンプル (性別・年代を均等に割付け)

2. 回答者属性

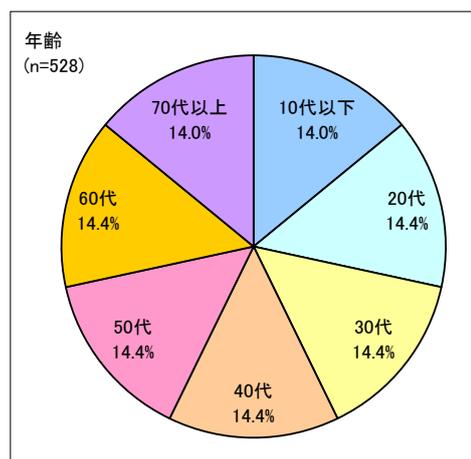
F 1. 性別

男女比が均等になるように割り付けました。



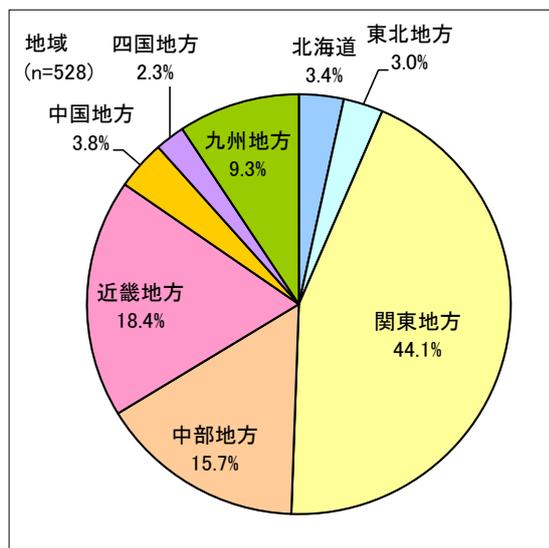
F 2. 年代

各年代とも均等になるよう割り付けました。



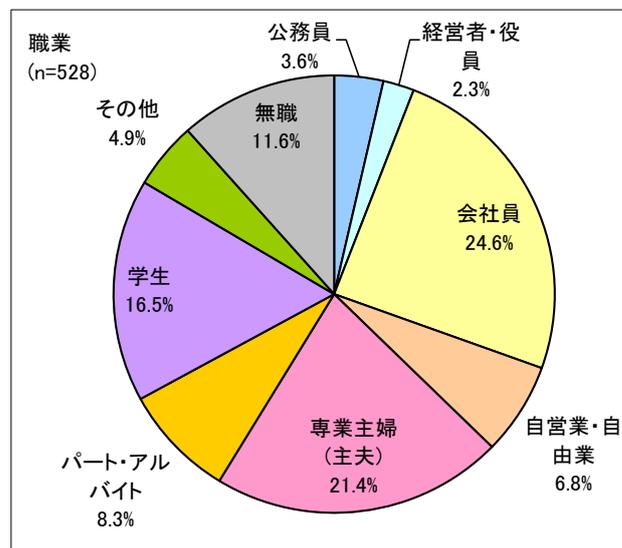
F 3. 居住地域

「関東地方」が 44.1%と最も高く、次いで「近畿地方」(18.4%)の順となっています。



F 4. 職業

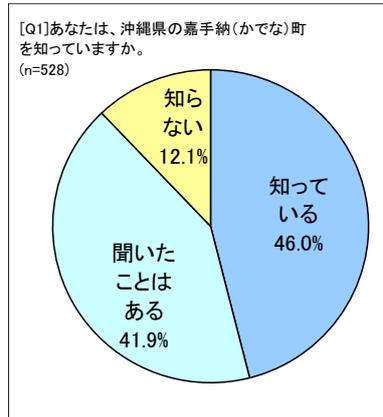
「会社員」が 24.6%と最も高く、次いで「専業主婦(主夫)」(21.4%)の順となっています。



3. 調査結果

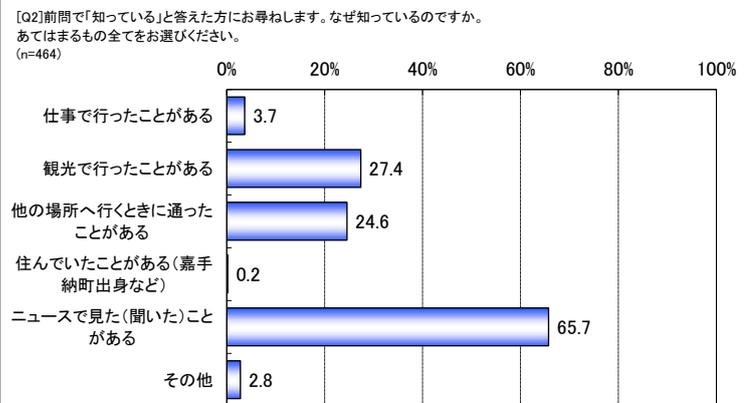
Q1. あなたは、沖縄県の嘉手納町を知っていますか。

「知っている」が46.0%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(41.9%)の順となっています。「知らない」は12.1%となっています。



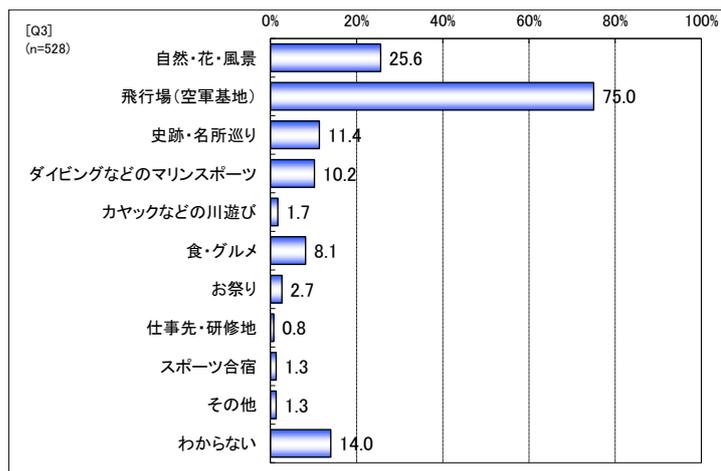
Q2. 前問で「知っている」と答えた方にお尋ねします。なぜ知っているのですか。

「ニュースで見た(聞いた)ことがある」が65.7%と最も高く、次いで「観光で行ったことがある」(27.4%)の順となっています。



Q3. あなたが思い描く、嘉手納町のイメージにあてはまるものを全てお答えください。

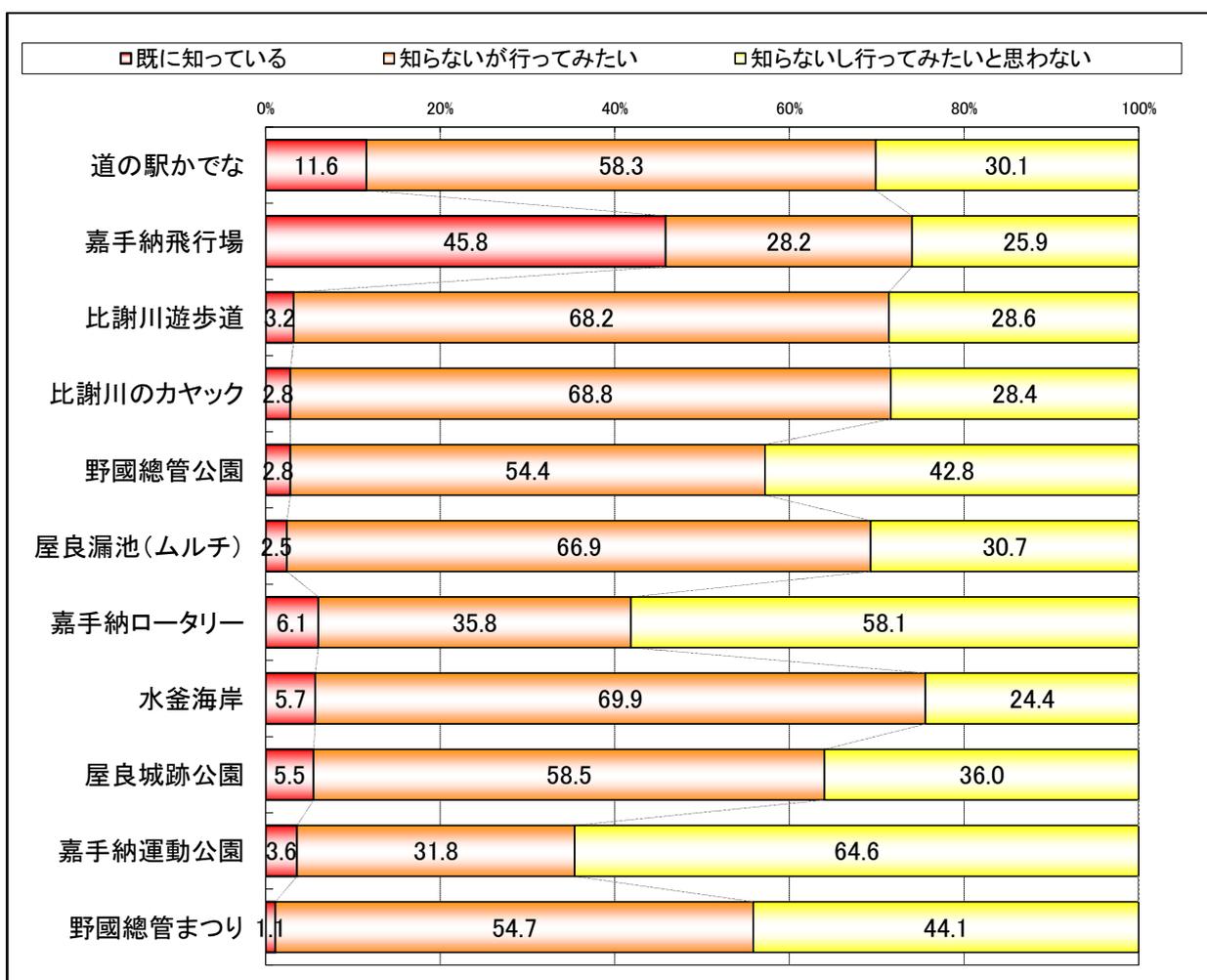
「飛行場(空軍基地)」が75.0%と最も高く、次いで「自然・花・風景」(25.6%)、「わからない」(14.0%)「史跡・名所巡り」(11.4%)の順となっています。



Q4. 嘉手納町の下記の観光資源をあなたは知っていますか。

知らない場合、行ってみたいと思うかどうか教えてください。

- 「嘉手納飛行場」について、「既に知っている」が45.8%と高くなっています。
- 「知らないが行ってみたい」の比率が高いのは、「水釜海岸」(69.9%)、「比謝川のカヤック」(68.8%)、「比謝川遊歩道」(68.2%)、「屋良漏池」(66.9%)など水辺に関連した資源です。
- 「知らないし行ってみたいと思わない」の比率が高いのは、「嘉手納運動公園」(64.6%)、「嘉手納ロータリー」(58.1%)などの都市型施設です。



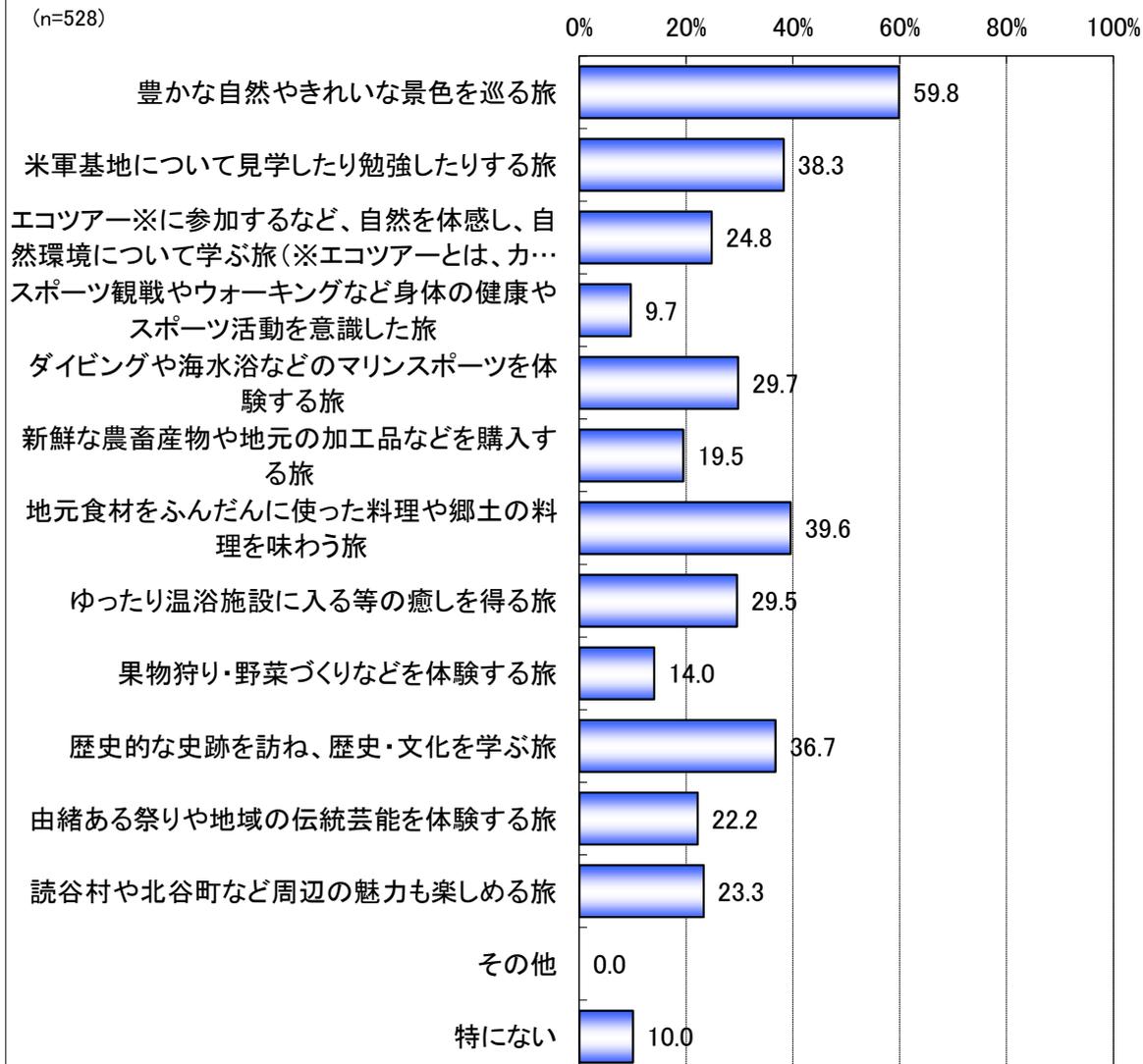
Q5. あなたが嘉手納町で体験してみたい旅は、以下のうちどれですか。
 あてはまるもの全てをお選びください。

「豊かな自然やきれいな景色を巡る旅」が 59.8%と最も高く、次いで「地元食材をふんだんに使った料理や郷土の料理を味わう旅」(39.6%)、「米軍基地について見学したり勉強したりする旅」(38.3%)、「歴史的な史跡を訪ね、歴史・文化を学ぶ旅」(36.7%)、「ダイビングや海水浴などのマリンスポーツを体験する旅」(29.7%)の順となっています。

[Q5]あなたが嘉手納(かてな)町で体験してみたい旅は、以下のうちどれですか。

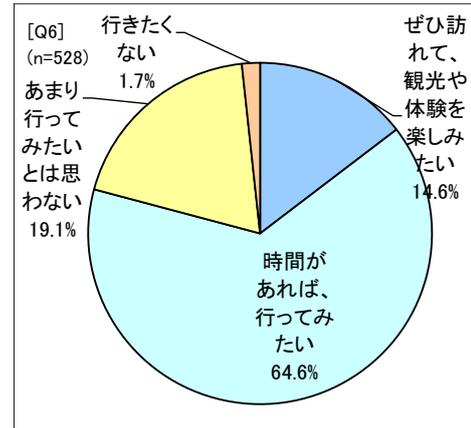
あてはまるもの全てをお選びください。

(n=528)



Q6. 「嘉手納町」ホームページを見てお答えください。
あなたは、嘉手納町を訪れてみたいと思いますか。

「時間があれば、行ってみたい」が 64.6%と最も高く、次いで「あまり行ってみたいとは思わない」(19.1%)の順となっています。



Q7. 前問で「ぜひ訪れて、観光や体験を楽しみたい」と答えた方に伺います。その理由をご記入ください。※訪れたことがある方は、今後も訪れたいかどうかをお答えください。

回答件数 77

- 今まで「基地」のイメージしかなかったが、町には「自然」がいっぱいあり、「自然」を楽しみたいからという理由が多くなっています。
- 「沖縄」が好きであるとか、「沖縄」のことを知りたいとか、「沖縄」の本土との違いに興味がある・魅力を感じるなど、「沖縄」全体に対する言及が多くなっています。

Q8. Q6 で「時間があれば、行ってみたい」と答えた方に伺います。その理由をご記入ください。

回答件数 341

- 「基地」を見てみたいという理由が多くなっています。
- 「自然」が多く、楽しめそうだからという理由が多くなっています。
- 「沖縄」が好きであるとか、「沖縄」のことを知りたいとか、「沖縄」の本土との違いに興味がある・魅力を感じるなど、「沖縄」全体に対する言及が多くなっています。
沖縄の他の観光地を優先的に訪問したついでに時間があれば嘉手納町にも寄るという意見が多くなっています。

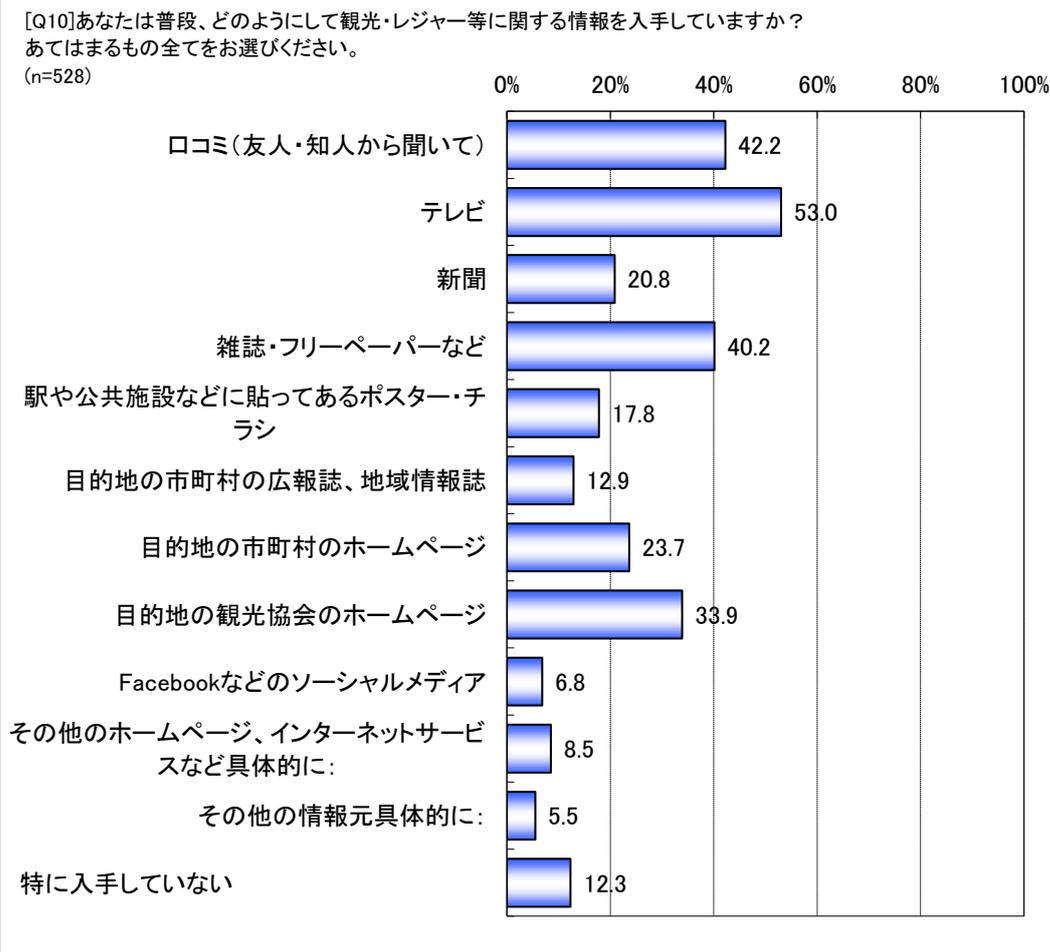
Q9. Q6で「あまり行ってみたいとは思わない」と答えた方に伺います。
その理由をご記入ください。

回答件数 110

- 「基地」のイメージしかなく、観光の魅力が感じられないという理由が多く挙げられています。
- 距離の問題等により「沖縄」そのものに行きたいと思わない、「沖縄」に行くにしてもまずは他の場所に行くなどの理由が挙げられています。
- 特に「魅力」を感じないという理由が挙げられています。特に、町のホームページが、観光的な魅力を感じないという意見が挙げられています。

Q10. あなたは普段、どのようにして観光・レジャー等に関する情報を入手していますか？
あてはまるもの全てをお選びください。

「テレビ」が 53.0%と最も高く、次いで「口コミ(友人・知人から聞いて)」(42.2%)、「雑誌・フリーペーパーなど」(40.2%)、「目的地の観光協会のホームページ」(33.9%)の順となっています。



5. 関係者の意向

(1) 嘉手納町の観光振興に関する懇談会

日時	平成25年1月29日(火)15:00~17:30
場所	嘉手納町役場 地下展示室
出席者	観光やまちづくりの関係者23名、嘉手納町役場9名、コンサルタント3名

主な意見	
・観光と言っても、県外や海外から呼ぶということではなくて、県内の皆さん、町内の皆さんとの交流をしながら楽しむという広い意味で捉えた方が良いのではないかと。そうすれば、産業の活性化にもなると思っている。	
・着地型観光商品の開発というのがどこの地域でも一つの焦点となっている。これまでは旅行社の方でなかなかできなかったのだが、販売する者の視点から商品づくりが行われてきたが、地域の魅力を掘り起こして、地域のものを発信し、地域が主体となって観光客の皆様に商品を売るという形態が伸びてくると思う。	
・屋良城跡公園を、県外と言う前に町内の、お孫さんを連れて散歩出来るような場所にして欲しい。	
・数値目標をかかげて頂きたい。それに向けて何をするかを嵌め込んで、数値目標を割り込まないように頑張りたい。	
・嘉手納は何と言っても比謝川を大事にすれば、良い観光資源につながると思う。比謝川と道の駅の線ができて、つながって連結されれば観光資源として成り立つ。流域面積は沖縄最大の比謝川なので大事にしていきたい。	
・嘉手納町でネット検索すると、出てくる情報はほとんど「基地」が多い。「基地」関係の情報しか出てこない。全体的に観光の情報は少ない。情報発信をこれからどういった形でやっていくかが1つの課題。	
・観光で来られている方の6割はレンタカー利用だが、インターネットで情報検索してオリジナルの観光ルートを作って、短い期間で限られた予算でどこに行くかを吟味すると思う。一番行きたいところと感じたところに優先的に行く。	
・嘉手納基地について、本土の人たちは「すごいね、こんなに飛行機が見られて。」と言われるが、「嘉手納の人はタブー視しているんですよ。」と言うと、「なぜ活用しないのか。」と言われる。我々の切り替えが出来たら、ここから考え方が変わってくるのかなと思う。	
・道の駅からその場所に行ける地図があれば案内しやすい。道の駅から来ましたと言ったら、サービスするとかがあれば、もっと案内しやすいと思う。町にもっと引き込める仕組みができると思う。	
・スキューバダイビング、ジンベイザメと皆泳ぎたがると思うので、逆手にとって、嘉手納の飛行機を1台海に沈めたらどうだろうかと本当に思っている。鉄分に魚が寄ってくる。素晴らしいメインになる。逆転の発想でこういう物を持ってきたらいいと思っている。	
・嘉手納にもっと観光客が来れば、店ももうかり、皆さんも潤う。	
・嘉手納で商売しようとしても嘉手納には人がいない。平日夜は猫一匹通らないくらい。人を待っていても来ない。何かアクションを起こさなければならないということで、なけなしの金を使って自分たちで催しをやっている。	
・今はIT時代なのでネット関係でないと広くPRできないのではないかと。思う。	

<p>•もし嘉手納の海にあればカンフル剤になると思うのは、100m級の沈船。もし本当に持ってきて沈める事ができたら、嘉手納の海にダイバーが潜ることになる。年中ずっとダイバーがやって来る。そうすると滞在型、滞留型になる。嘉手納に住んでいると夕陽が見えるのが普通になっているが、内地の方は海に沈む夕日を見て年間何人かの客が感動して泣いている。テレビでは見るが実物はなかなか見られない様で、しかもそれが二人乗りのカヤックで、親子だったり、カップルだったりすると非常に感動される。</p>
<p>•町内のイベントのハーリー、野國總管まつり、こいのぼりフェスタ、エイサー、産業祭りとあるが、それが単体で終わっている。町内で使える割引券とか、町内へ再度来てもらえる仕組みづくりも各イベントの中で必要なと考えている。嘉手納町観光振興計画策定を「観光に関係ある人ばかりでやればいいさー」ということになると、盛り上がり欠ける。「元気な嘉手納町」というコンセプトのもとに、嘉手納町の全てが元気になって繁栄していくという形の観光振興計画策定になれば良いと思う。</p>
<p>•社会全体的な不景気ではあるが、頑張っているお店には人は入っている。「今日も暇ね」と言うのではなく、時間があるのなら動けばお客さんは入ってくると思う。営業は「動くこと」じゃないかと思う。</p>
<p>•お互いがお互いの個店、お店を紹介する仕組みづくりで、つながりを深く持っていければ良いと思う。滞在させる時間を長くする工夫をするには、以前のようなサイトシーイングツアーではなくて、体験、滞在という事に、更に最近は学習、それから得られる感動みたいなものになっていると思う。こういったことをつなげていくうちに嘉手納に落ちる人の想い、お金も増えて来ると思う。</p>
<p>•道の駅と比謝川整備をリンクさせてつなげてはどうか。町に呼べるような軸に。自然を壊さないで、体験を創り出して、勉強しながら、嘉手納町の人の作り方ができれば素晴らしいと思う。遊歩道とか安全に歩けるような仕掛けもないと無理なのかなと思う。屋良城跡公園など、観光で町外の人を呼ぶ前に町内の人を呼ぶ方が先決だと思う。</p>
<p>•嘉手納は住んでとても良い街。子どもがいる人にはこんな良い所はない。年とっても絶対嘉手納がいい。嘉手納は、とても人が良い。ガツガツしていない。引っ込み思案というか。だから儲からないのか？とも思うが。住んでいる人も、外からの人をすぐに受け入れてくれる。</p>
<p>•観光客を増やすとかは遠くて別世界の話に思える。まず町内の人を呼ばないと町は変わらないと思う。嘉手納で仕事をして思うのは一方通行が多い。車が不便。駐車場も少ない。読谷のようにバスを走らせれば良い。</p>
<p>•遊歩道が整備されている中で、道の駅かでなと連動するようなまちづくりをすれば、観光を取り戻すことが出来るのではと思う。特に土地がないという事でまず駐車場がない。駐車場も完備して地域の素晴らしい所を整備しながら、道の駅を今後活性化させるためには、観光の目玉にするためには、人通りが良くなるような環境づくりが必要。</p>
<p>•過去の青い空、青い海の観光は終わって、文化を金に換えるようにしようということでイベントを行っている。その中で組踊りと芸能が見直されている。若手育成をたくさんやっている。みんなの知恵を出し合って、どうすればこの町を活性化できるか、皆の知恵でなんとかする。一歩でも前に行くという気持ちがあれば、嘉手納は変わると思う。</p>
<p>•情報発信という事でネットを見てきたという意見があった。ツイッターとかフェイスブックとかソーシャルネットワークというサービスを活用してより嘉手納の良いイメージを多く発信できるのではないかという事を、若い世代に聞いていければいいなと思った。</p>

(2) 嘉手納町の観光振興に関するワークショップ

■開催概要

日時	平成25年3月17日(日)14:00~16:30
場所	嘉手納商工会 大研修室
出席者	観光やまちづくりの関係者19名、事務局4名、コンサルタント3名

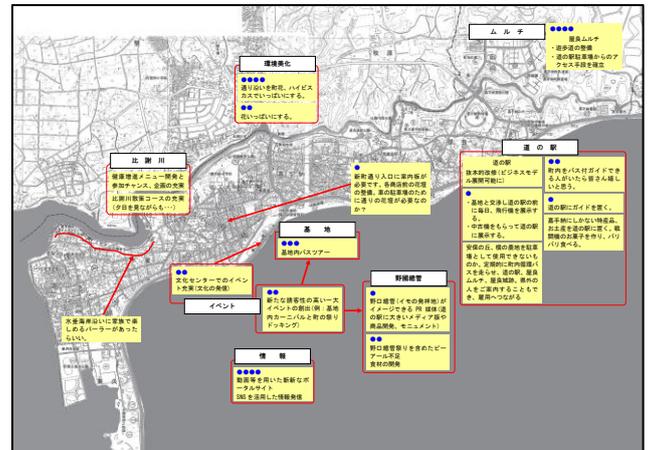
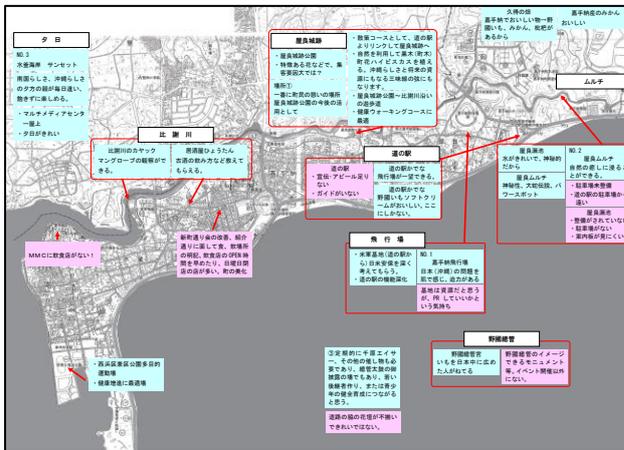
■ワークショップの流れ

班編成:3班

1. インターネットアンケートの結果報告
2. グループ作業①「おすすめの資源・その理由」と「観光の問題・課題」
3. グループ作業②「今後の観光の取り組みアイデア」
4. グループ発表

■ワークショップの成果(イメージ)

「おすすめの資源・その理由」と「観光の問題・課題」 「今後の観光の取り組みアイデア」

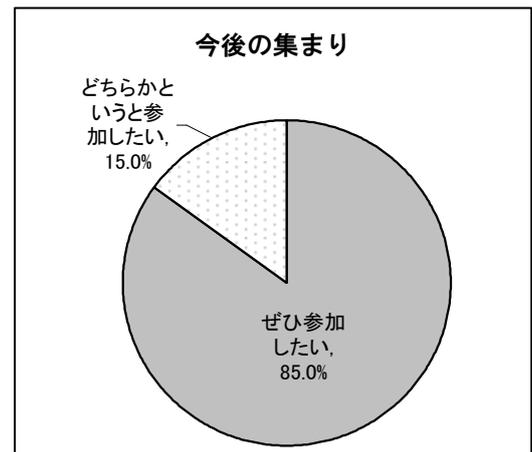


■ワークショップの様子



■ワークショップ後のアンケート (一部抜粋)

「問 5. 今後もこのような集まりを、定期的に行って、情報交換をしていきたいですか。」に対して、「ぜひ参加したい」と回答した方が、全体の9割近くとなりました。



6. 嘉手納町の観光における課題

嘉手納町の観光の現況や観光ニーズ調査、町民ワークショップなどを踏まえ、嘉手納町の観光振興における課題を整理します。

課題① 観光的な魅力の再発見と今後の担い手のすそ野拡大

●実は、観光の魅力は豊富に存在する

嘉手納町には、道の駅かでな以外にはリゾートホテルなど大きな集客施設はありません。しかし、公園や史跡はもちろん、沖縄らしい食堂や居酒屋、嘉手納マリーナ内のレストラン、野国いもを使ったメニューを提供するお店など、地域の暮らしを感じる店も重要な資源です。

●基地の歴史と環境を学ぶ体験プログラム

基地が町域の83%を占める特徴から、道の駅かでなでは、嘉手納町の基地にまつわる歴史が展示を使って紹介されており、修学旅行などの団体や個人の多くの観光客が訪れて学んでいます。また、比謝川ではカヤックツアーが開催されており、マングローブ林の動植物を観察することができます。

●嘉手納町に誇りを持ち、活動する地域の人

比謝川では、「川に清流をとりもどそう」を合言葉に「YOU・遊・比謝川」の活動が行われています。また、野国総管が持ち帰った甘藷が飢饉を救ったことから、その功績を称えたまつりや商工会を中心に野国いもの特産品開発に力を入れています。

その一方で、観光案内や歴史の語りなどを地域で行うガイド人材が不足しており、その発掘と育成が求められています。

課題② 資源間のつながりを強め、地域にお金が落ちる仕組みづくり

●道の駅と基地の集客力は大きいですが、素通り

道の駅かでなには、年間50万人の観光客が訪れます。その目的は基地見学で、修学旅行や団体ツアーのコースにも、休憩とセットで組み入れ、展望所ではバスガイドによる説明が行われます。近年は個人客も増え、レンタカーも多くみられますが、観光客の多くは、通過型で町内には回遊しない状況に陥っています。

●散策など回遊ルートと観光メニューの設定を

嘉手納町は、観光地化されていない地域のため、暮らしに溶け込んだ良さがあるものの、施設で他の観光情報を得る手段がないなど、資源がつながっていない状況が見られ、観光客が町内を巡る動機づけや資源間をつなげる情報提供が不十分であるといえます。

●基地の見学・解説だけではない活かし方を検討

全国の米軍基地を抱える都市の中には佐世保市や福生市のように、基地のイメージを逆手にとって商品開発やブランド化、基地との交流を行っているところもあります。

そのように、見学や解説だけではない基地の観光への活かし方の検討が求められます。

課題③ 有利な立地条件の活用と情報発信

●那覇地区～恩納村の間に立地する交通特性

嘉手納町は、県内で宿泊客の多くを占める那覇地区と恩納村周辺の間地点に位置し、主要観光動線上にあるため、両エリアの観光客の取り込み、広域観光メニューの提供など、観光ポテンシャルが非常に高くなっています。

このように広域交通アクセスが良好の立地特性を生かし、コンベンションやイベント誘致など広域交流拠点となる可能性を秘めています。

●発信力のある北谷町・読谷村と広域連携化

北谷町は計画的なリゾート誘致と昼夜を問わないショッピングで特に若年層に強みを持ちます。一方で読谷村は、やちむんなどの手仕事と紅芋の加工品など文化に興味のある層に強みを持ちます。現時点で、嘉手納町は、観光に関する取り組みは、この2地域を追う立場となりますが、むしろこの2地域の強みを活かし、2地域にはないものを提供することで、相互連携を図っていくことが考えられます。

●ホームページや現地での情報入手を容易に

嘉手納町は、観光ガイドブックでの紹介はほとんどなく、観光資源を紹介する町のホームページもない状態です。また、道の駅の登録条件の一つに情報発信機能がありますが、道の駅かでなでは設備の故障等の要因により地域情報の発信は行われていない状況です。

旅行前の事前情報と、回遊を促す当日現地での追加情報の発信が求められます。

課題④ 取り組み強化につながるハード整備

●施設やエリアでは個々の課題を抱えている

カヤックツアーでは、発着拠点が奥まっておアクセスしにくく、利用スペースも限られており手狭になっています。今後は十分な設備を備えた新たな拠点の整備が必要です。

道の駅かでなでは、年間50万人に対して売上が1.7億円で、客単価が350円と低く、売場・商品の魅力とサービスの向上とともに、店舗の拡張の検討が必要です。

●案内サインや観光案内機能が不足

嘉手納町の観光資源の多くは、案内サインが小さいもしくは不足しており、初めての観光客がたどりつくのは困難です。これは、屋良ムルチのような比較的メジャーな資源においても同様です。また、市街地の道路は複雑で細く一方通行も多いため、一度迷い込むと抜け出すのが大変です。

●時期的ニーズはあるが、宿泊機能が弱い

町内には宿泊施設が質量ともに不足しており、多くの観光客を受け入れることが可能なホテルがなく、現状では滞在型の観光地となるのは難しい状況です。

短期的には、町内宿泊にこだわらず、那覇や恩納村で宿泊した観光客を立ち寄らせることを考え、長期的には、町内において宿泊機能を有する施設の整備を検討する必要があります。

第4章. 嘉手納町の観光戦略

1. 嘉手納町の観光振興の理念

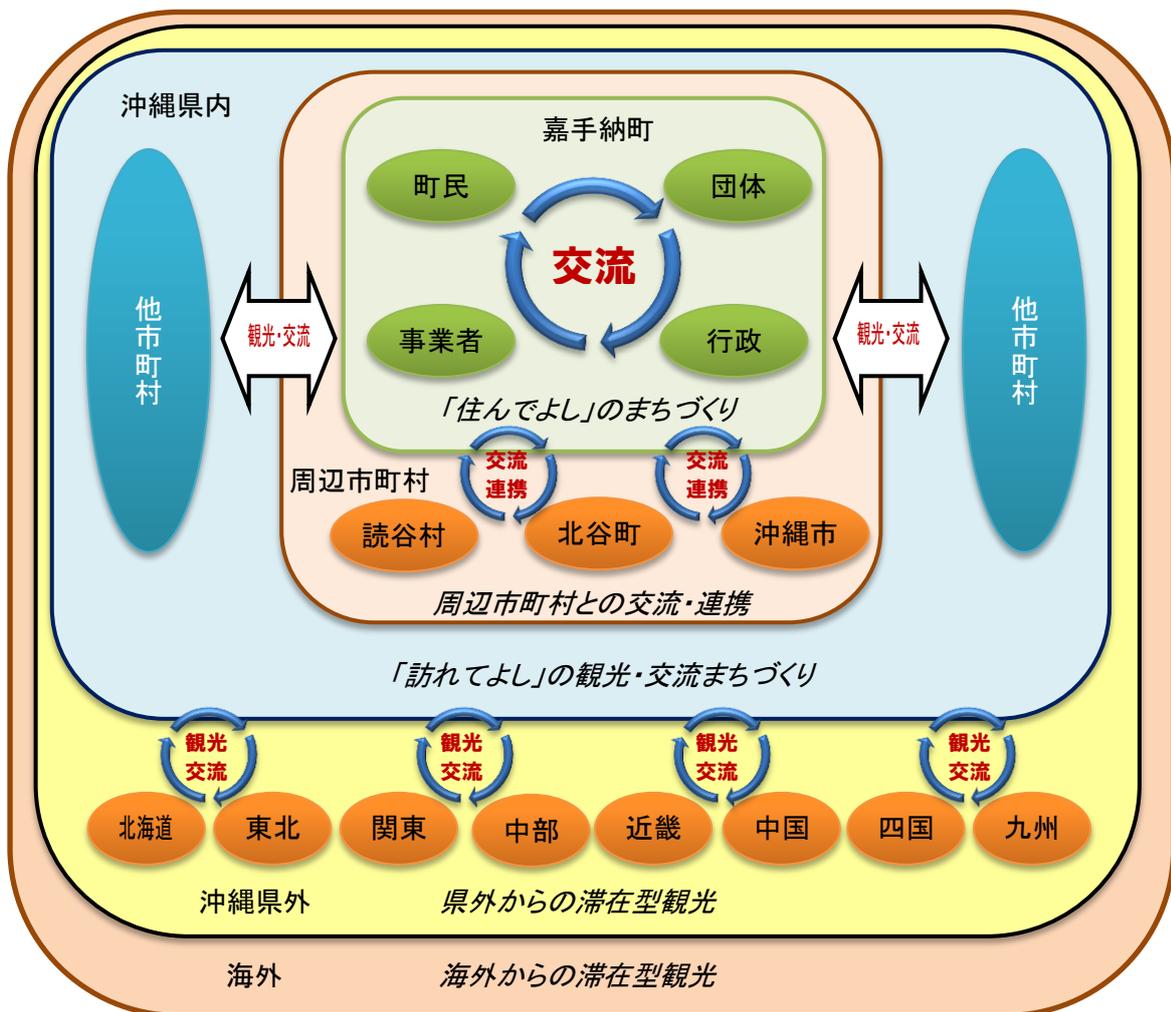
基本理念

嘉手納の魅力を再発見！

みんなできりくむ交流のまちづくり

嘉手納町では、第4次嘉手納町総合計画において、「将来像」として「ひと、みらい輝く交流のまち かな」を掲げてまちづくりを行ってきました。嘉手納町における「観光」は、これまで培ってきた「交流」の延長にあると言えます。

まずは、町内において町民や事業者、団体、行政など多様な主体が交流し、嘉手納の魅力を再発見し、町民が住んでいて満足できる「住んでよし」のまちづくりを行います。他地域の人にもお奨めしたい魅力が見つかったら、その魅力を、町外、県外、海外へと発信して観光・交流の輪を徐々に拡げていきます。当面は、宿泊施設や観光拠点の多い読谷村や北谷町との連携が必要ですが、将来的には嘉手納町だけでも滞在型観光に対応出来るようにし、「住んでよし、訪れてよし、滞在してよし」のまちづくりを目指します。



2. 理念を実現するための基本方針

基本理念に基づき、下記の4つの基本方針を掲げます。

基本方針1 各分野の観光資源とサービスを磨き上げる

嘉手納町には各分野の魅力的な観光資源が眠っています。また、各分野において頑張る人(キーマン)や団体がいます。嘉手納町の今後の観光は、全く新しいことや他の市町村の後追いをするのではなく、これまでの取り組みが実は観光に貢献していると気づくことや、発想の転換を図り新たに取り組みそうなことを実践するなど、無理をせず背伸びをせずできることから実践することが大切です。観光振興は、地域づくりの積み上げによって実現できるものであり、観光事業者や町民一人ひとりが、少しずつレベルアップすることで、地域の魅力が高まっていきます。

基本方針2 資源同士をつなげ、回遊を促し、滞在時間の延長を図る

現在の嘉手納町では、資源間のつながりが弱いため、短時間かつ一度きりの通過型の観光になっています。少しでも長く嘉手納町に滞在してもらうためには、資源の魅力的な演出とルートづくりが重要です。そのためには観光資源をつなぐストーリーを描き、町内のいろんな「人」「もの」「情報」に触れられるメニューとして提供することが効果的です。その結果、町内での回遊が促され、滞在時間が延び、町内にお金が落ちていくことにつながります。

基本方針3 嘉手納町を訪れるきっかけをつくる

魅力的な資源があってもきっかけがなければ訪問できません。嘉手納町は資源間の結節機能や情報発信機能が弱く、多くの人を訪れる道の駅かでなくても町内の回遊につながっているとは言いきれません。ホームページ等による事前情報や、道の駅かでなからの寄り道を促す現地情報の発信が重要です。

また、国道58号を利用した恩納村方面への移動観光客や近隣市町村への観光客を視野に、他地域と連携してPRすることで訴求力が強まると考えられ、他市町村にはない観光プログラムを嘉手納町が提供し、不足するものを他地域から借り受ける広域連携の強化を行います。

基本方針4 拠点充実と拠点間連携のための基盤を整備する

顧客ニーズに対応するための道の駅かでなのリニューアルや、比謝川へのアプローチの強化など、現在の取り組みをさらに強化していくために必要な基盤の整備・充実を行います。また、比謝川遊歩道の整備など、拠点間を連携させるための動線の整備・充実を行います。また、将来的には、道の駅かでなと基地を活かした修学旅行やスポーツ施設を活かしたスポーツ合宿などの滞在型ツーリズムに対応する宿泊施設の整備を行います。

3. 理念を実現するための施策

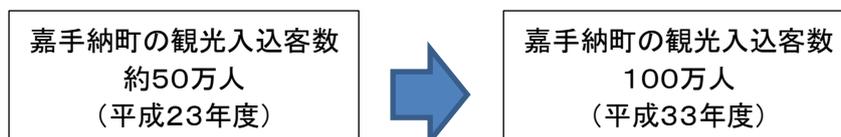
基本方針	施策	プロジェクト内容
基本方針 1 各分野の観光資源とサービスを磨き上げる	①「おもてなし」体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○町民対象の観光講座の開催 ○次代を担う子ども向け観光学習会の開催 ○おもてなしガイド(仮称)の育成 ○美化・緑化活動の推進 ○安全・安心の向上
	②自然を活用した体験型・長期滞在型プログラムの充実	<ul style="list-style-type: none"> ○自然資源の魅力を活用した遊び・レクリエーションの開発・提供 ○自然を体験し、環境について学ぶエコツーリズムの提供 ○モニターツアーの実施
	③アメリカ文化の観光資源としての活用	<ul style="list-style-type: none"> ○基地について解説できるガイドの育成、配置 ○基地を活用した商品開発や品ぞろえ ○アメリカ文化をイメージさせる演出やイベント
	④スポーツコンベンションの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ合宿、イベント開催の誘致の推進 ○スポーツコンベンションのメニューの開発・提供
基本方針 2 資源同士をつなげ、回遊を促し、滞在時間の延長を図る	⑤文化芸能ツーリズムの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽イベントの開催 ○伝統文化の推進 ○甘藷発祥の地の発信 ○伝統芸能の観光資源としての受け入れの充実
	⑥関係者をつなぐ仕組みの構築	<ul style="list-style-type: none"> ○関係者の意見交換会の開催 ○観光分野に取り組む町内団体との連携 ○観光振興を担う組織の設立の検討
	⑦観光資源の発掘と観光ルートの開発	<ul style="list-style-type: none"> ○新たな観光資源の発掘・商品化 ○観光資源を活かした観光イベントの開催及び支援 ○観光資源による観光ルートの開発・提供
基本方針 3 嘉手納町を訪れるきっかけをつくる	⑧情報発信方法の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○観光資源の冊子・マップ等の作成 ○ホームページ等の作成 ○外国人向け案内・PRの実施 ○宿泊施設、飲食施設等と連携したPR ○道の駅や飲食施設等との連携による文化のPR ○キャンペーンイベントへの積極的参加 ○観光のICT化の推進 ○観光拠点における情報発信の強化 ○キャラクターの活用
	⑨周辺市町村との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○周辺市町村と連携したPRの実施 ○合同イベントの開催

基本方針 4 拠点充実と 拠点間連携 のための基 盤を整備す る	⑩観光拠点の整備	○統一した案内看板の整備 ○道の駅かでのリニューアル ○海と川の水辺の整備と活用 ○比謝川の拠点の整備 ○町内大規模公園の魅力アップと機能拡充 ○宿泊施設の整備 ○既存施設の観光施設としての機能拡充 ○屋良ムルチの活用
	⑪移動のための基盤整備	○車で町内を回遊するための標識や駐車場の整備 ○回遊するための公共交通の整備

4. 観光振興の目標

観光振興の取り組みの効果を把握・評価するために、具体的な目標を設定し、観光振興の取り組みを推進します。

具体的には、平成33年度における嘉手納町の観光入込客数を100万人とすることを目指します。



※参考

沖縄県は、第5次沖縄県観光振興基本計画において、平成23年度に553万人であった沖縄県への入域観光客数を平成33年度に1000万人とする目標を掲げています。

5. 施策とプロジェクト

各基本方針に基づいて、推進していく施策とプロジェクト内容を整理します。

具体的な取り組みの実施時期については、取り組み内容と取り組み効果を考慮して設定するものとし、着手する時期を3つの区分に分類しています。「短期」は計画期間の前半に着手（平成25～27年度に着手）、「中期」は計画期間の後半に着手（平成28～29年度）することを旨とする。また、「長期」は計画期間後（平成30年度以降）の着手を想定して検討を行うものです。

取り組みを行う期間は矢印で表しており、重点的に実施する期間は実線、継続して実施する期間は点線とします。

また、嘉手納町の観光振興の課題を解決するために戦略的に取り組むべきプロジェクトを「重点プロジェクト」として位置づけ、短期的に着手し取りかかることとします。

プロジェクト内容	実施時期・期間			実施主体		
	短期	中期	長期	行政	民間	町民
町民対象の観光講座の開催	→	→	→	◎		○
次代を担う子ども向け観光学習会の開催	→	→	→	◎		○
おもてなしボランティア(仮称)の育成		→	→	◎	○	○

プロジェクトの内容を記載しています

概ね以下の期間を想定しています
 短期:平成25～27年度に着手
 中期:平成28～29年度に着手
 長期:平成30年度以降に着手

実線は着手時期、破線は着手後も継続して実施していくことを表現しています。

各取り組みの実施主体は、「行政」「民間」「町民」の3つの区分で整理しており、それぞれ以下のような主体を想定しています。

行政	嘉手納町、県、国 など
民間	商工会、観光に関連する各団体 など
町民	町民一人ひとり、町内団体 など

※積極的に取り組む主体:◎、特に協力が必要な主体:○

施 策	②自然を活用した体験型・長期滞在型プログラムの充実
施策の考え方	<p>嘉手納町には比謝川や水釜海岸などの豊かな自然があり、しかも、やんばるにも匹敵するようなこれらの自然が、那覇から1時間弱の距離にあり、嘉手納町の市街地に隣接しているという点が特筆されます。比謝川においては夜のマングローブを探検出来るナイトカヤックツアーも実施されており、これらは宿泊を伴う滞在型観光を推進するための契機ともなるものです。</p> <p>自然の資源や特徴を活かし、これまでの取り組みを更に拡大するための体験型・長期滞在型メニューの開発・提供を行います。</p>
プロジェクト	<p>■自然資源の魅力を活用した遊び・レクリエーションの開発・提供</p> <p>嘉手納町の豊かな自然資源を活用した遊び・レクリエーションのメニューを開発し、来訪者に提供します。</p>
	<p>■自然を体験し、環境について学ぶエコツーリズムの提供</p> <p>エコツーリズムとは、地域ぐるみで自然環境や歴史文化など、地域固有の魅力を観光客に伝えることにより、その価値や大切さが理解され、保全につながっていくことを目指していく仕組みです。観光客に地域の資源を伝えることによって、地域の住民も自分たちの資源の価値を再認識し、地域の観光のオリジナリティが高まり、活性化させるだけでなく、地域のこのような一連の取り組みによって地域社会そのものが活性化されていくと考えられます。嘉手納町には「比謝川に清流をとりもどそう」を合言葉としている「YOU・遊・比謝川」や、民間事業者による比謝川カヤックなどの取り組みがあることから、これらの経験をもとにエコツーリズムを提供します。</p>
	<p>■モニターツアーの実施</p> <p>地域の特色を生かした着地型観光商品を創出するため、地域関係者や旅行会社等と連携してモニターツアー等を実施します。</p>

プロジェクト内容	実施時期・期間			実施主体		
	短期	中期	長期	行政	民間	町民
自然資源の魅力を活用した遊び・レクリエーションの開発・提供	→	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	▶		◎	○
自然を体験し、環境について学ぶエコツーリズムの提供	→	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	▶	○	◎	○
モニターツアーの実施	→	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	▶	◎	○	○

施 策	② アメリカ文化の観光資源としての活用
施策の考え方	町域の約 83%を占める嘉手納町の米軍基地の歴史や、歴史がもたらすアメリカの文化、基地を含めた独特の風景は、嘉手納町の観光資源の中でも大きな強みとなっており、他地域と差別化するための独自性にもつながります。一方で、その歴史や、騒音などの問題により、これまで積極的に観光資源として活用することが困難な面もありました。諸問題を解決するための取り組みは継続しながらも、これらの問題について内外の方に関心を持ってもらい、正しく伝えるためにも、観光資源としての活用を図っていきます。
プロジェクト	<p>■基地について解説できるガイドの育成、配置</p> <p>道の駅かでな3階には「学習展示室」があるものの、パネル展示やシアターが中心であり、基地について専門的に解説することのできるガイドは配置されていません。より専門的に解説・案内することの出来るガイドを配置することにより、顧客満足度を高め、滞在時間を延ばします。</p> <p>■基地を活用した商品開発や品ぞろえ</p> <p>道の駅かでなは主に「基地が見える」ことを売りにして年間50万人を集客しているにも関わらず、基地に関連した商品やサービスはTシャツやプラモデル、宝くじなど一部にとどまっています。基地やアメリカ文化と関連した商品やサービスを開発、品ぞろえすることにより、基地目的の来訪者を観光消費につなげます。</p> <p>■アメリカ文化をイメージさせる演出やイベント</p> <p>アメリカ文化は日本のファッションや音楽、食生活など様々な面において影響を与えてきました。観光客にとっては、これらの異文化との交流・体験も沖縄観光の目的の一つであることから、アメリカ文化をイメージさせる演出を施します。また、フリーマーケットなどのイベントを誘致・開催することにより、まちの賑わいを演出します。</p>

プロジェクト内容	実施時期・期間			実施主体		
	短期	中期	長期	行政	民間	町民
基地について解説できるガイドの育成、配置	→	- - - - -	- - - - - →	◎		
基地を活用した商品開発や品ぞろえ		→	- - - - - →	○	◎	
アメリカ文化をイメージさせる演出やイベント		→	- - - - - →	◎	○	

施 策	④スポーツコンベンションの推進
施策の考え方	<p>日本で唯一亜熱帯に属する沖縄では、温暖な気候のもと1年中さまざまなスポーツを行うことができます。県内各地にはアウトドア、インドア、どちらのスポーツにも対応できる施設が揃い、プロスポーツの人気チームが訪れたり、国際的なスポーツ大会が開かれたりと、スポーツコンベンションに最適な環境が整っています。</p> <p>嘉手納町においても、嘉手納運動公園(嘉手納野球場、嘉手納町陸上競技場、嘉手納町スポーツドーム、多目的広場)や兼久海浜公園(嘉手納町総合運動場、嘉手納町ソフトボール場、嘉手納町テニス場、嘉手納町兼久体育館)などの施設が整備され、横浜DeNAベイスターズの春季キャンプにも使用されています。</p> <p>今後、これらの資源や取組を活かし、スポーツ施設の拡充など受け入れ体制を強化し、スポーツコンベンションへの展開を図っていきます。</p>
プロジェクト	<p>■スポーツ合宿、イベント開催の誘致の推進</p> <p>スポーツ合宿やスポーツイベントの誘致活動を積極的に行い、スポーツのまち嘉手納としてのPRを行います。</p> <p>■スポーツコンベンションのメニューの開発・提供</p> <p>スポーツ資源を観光産業につなげるため、スポーツ合宿や自然環境を活かしたメニュー開発・提供を行います。</p>

プロジェクト内容	実施時期・期間			実施主体		
	短期	中期	長期	行政	民間	町民
スポーツ合宿、イベント開催の誘致の推進	→	→	→	◎	○	
スポーツコンベンションのメニューの開発・提供		→	→	◎	○	

施策	⑤文化芸能ツーリズムの推進
施策の考え方	<p>嘉手納町には、千原エイサーや屋良チンクなどの伝統芸能が伝わってきました。また、中心商店街には、数軒のライブハウスがあり、内外のミュージシャンが演奏活動を行っています。また、最近では、道の駅かでなやネーブルカテナにおいて大々的な音楽イベントも開催されています。</p> <p>今後、これらの資源や取組を活かし、文化芸能をテーマとしたツーリズムへの展開を行っていきます。</p>
プロジェクト	<p>■音楽イベントの開催</p> <p>音楽イベントの誘致活動を積極的に行い、「音楽のまち・かでな」としてのPRを行います。また、音楽を趣味とする町民が多いという特性を活かし、町民参加型の音楽イベントを催し、内外のミュージシャンとの交流を図ります。</p> <p>■伝統文化の推進</p> <p>エイサー等の伝統文化の保存・継承を行い、また、文化センターの利活用を検討し、観光資源として内外へのアピールを行います。</p> <p>■甘藷発祥の地の発信</p> <p>町民に対するアンケートでは『あなたがよく利用する嘉手納町の観光資源は何ですか。』という設問に対して2/3の人が「野国総管まつり」と回答したのに対し、全国アンケートでは「野国総管まつり」の認知度は1%にとどまっています。</p> <p>今後、甘藷を野国いもの愛称で呼び、野国総管と我が国における甘藷発祥の地・嘉手納を広く全国に発信し、アピールする取り組みを行っていきます。</p> <p>■伝統芸能の観光資源としての受け入れの充実</p> <p>嘉手納町には多くの伝統芸能が継承されてきており、町内の行事として実施されてきたものもありますが、今後は外からの観光客にも楽しんで頂けるよう受け入れ態勢の充実を図ります。</p>

プロジェクト内容	実施時期・期間			実施主体		
	短期	中期	長期	行政	民間	町民
音楽イベントの開催	—————▶	—————▶	- - - - -▶	○	◎	
伝統文化の推進	—————▶	- - - - -▶	- - - - -▶	○		◎
甘藷発祥の地の発信	—————▶	- - - - -▶	- - - - -▶	◎		
伝統芸能の観光資源としての受け入れの充実	—————▶	- - - - -▶	- - - - -▶	○		◎

施 策	⑥関係者をつなぐ仕組みの構築
施策の考え方	観光振興に携わる関係者をつなぐ仕組みを構築するためには、観光振興に係る現状やイベント等の取り組み状況についての話し合いや交流を行うなど、日頃から関係者の連携を強化することが必要です。そのため、観光振興について総合的に検討するための意見交換会を開催し、将来的には各種事業の企画、立案、運営や、関係者間の連絡調整を行う組織の設立の検討を行います。また、観光分野に取り組む町内団体との連携を図ります。
プロジェクト	<p>■関係者の意見交換会の開催</p> <p>観光関係者の現状や取組状況を把握するため、町内の関係者で構成される意見交換会を開催し、情報共有や方向性の統一を行います。</p> <p>■観光分野に取り組む町内団体との連携</p> <p>多様化する観光ニーズに対応するため、嘉手納町の観光振興に携わるNPOなどの町内団体等のリスト作成を行うとともに、連携を図り、情報を共有します。</p> <p>■観光振興を担う組織の設立の検討</p> <p>将来的には各種事業の企画、立案、運営や、関係者間の連絡調整を行う組織の設立の検討を行います。</p>

プロジェクト内容	実施時期・期間			実施主体		
	短期	中期	長期	行政	民間	町民
関係者の意見交換会の開催	→	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	▶	◎	○	○
観光分野に取り組む町内団体との連携	→	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	▶	○		◎
観光振興を担う組織の設立の検討		→	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	◎	○	

施 策	⑦観光資源の発掘と観光ルートの開発
施策の考え方	観光振興を図るためには、眠っている地域資源を観光資源として磨き上げたり、新たな観光資源を掘り起こしたりし、それらの魅力を発信する必要があります。観光資源のPRを行いながら、歴史、伝統を活かした観光ルートの開発や観光イベントの開催などを行い、観光資源に新たな付加価値を付加することにより、資源を活用した観光振興に努めます。
プロジェクト	<p>■新たな観光資源の発掘・商品化 これまで観光資源として積極的に活用されていなかった「自然」や「文化」などに着目し、新たな観光資源を掘り起こし、商品化し、特産品として推奨していきます。</p> <p>■観光資源を活かした観光イベントの開催及び支援 嘉手納町を代表するイベントである「野國總管まつり」、「ハーリー大会」、「比謝川鯉のぼりフェスタ」、「YOU・遊・比謝川」「エイサーまつり」「産業まつり」などにおいて、多くの来訪者が楽しみ、訪れるよう、魅力の向上を促進するとともに、開催の支援を行います。</p> <p>■観光資源による観光ルートの開発・提供 新たな観光資源による町内周遊ルートの設定など、観光ルートの開発・提供を行います。</p>

プロジェクト内容	実施時期・期間			実施主体		
	短期	中期	長期	行政	民間	町民
新たな観光資源の発掘・商品化	→	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	→	○	◎	
観光資源を活かした観光イベントの開催及び支援	→	→	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	◎	○	○
観光資源による観光ルートの開発・提供		→	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	○	◎	

<p>施 策</p> <p>施策の考え方</p>	<p>⑧情報発信方法の確立</p> <p>嘉手納町への来訪意向を持つ人々に的確な観光情報を発信するため、発掘もしくは磨き上げた観光資源を活用した観光宣伝の推進を行います。推進にあたっては、マーケティング活動やターゲットの選定を十分に行い、戦略的かつ効果的なPRを目指します。</p> <p>また、外国人にも対応したPR体制を強化するとともに、情報の一元化など情報発信方法を確立します。</p>
<p>プロジェクト</p>	<p>■観光資源の冊子・マップ等の作成</p> <p>観光客が容易に観光資源の所在地や概要を知ることが出来るように、観光資源をまとめた冊子やマップ等を作成します。</p> <p>■ホームページ等の作成</p> <p>来訪者や閲覧者がわかりやすく見やすいホームページを作成し、情報を充実し、町の魅力を発信します。また、町民一人ひとりや各事業者が、ソーシャルネットワークサービス(SNS)などを活用することにより、情報発信の頻度を高くし、顧客との相互コミュニケーションを図ります。</p> <p>■外国人向け案内・PRの実施</p> <p>ホームページやパンフレット等の外国語標記など、外国人向けPRを実施します。</p> <p>■宿泊施設、飲食施設等と連携したPR</p> <p>宿泊プログラムのパンフレット紹介や、宿泊施設・飲食施設等へのパンフレット配置等、宿泊施設・飲食施設等との連携を深め、地場特産品のPRを含めた情報の提供を図ります。</p> <p>■道の駅や飲食施設等との連携による文化のPR</p> <p>道の駅や飲食施設等において音楽イベントに関するパンフレットを配置したり掲示板で告知することにより、音楽と他の施設との連携を深め、「音楽のまち・かでな」のイメージ作りを行います。</p> <p>■キャンペーンイベントへの積極的参加</p> <p>嘉手納町をPRし、都市部におけるニーズを把握するため、様々なキャンペーンイベントに積極的に参加します。</p> <p>■観光のICT化の推進</p> <p>国内外の観光客の利便性を高めるために、無料公衆無線LAN環境の提供や、AR(拡張現実)による観光案内スマートフォンアプリ等の提供、タブレット型端末サービスなどを行います。</p> <p>■観光拠点における情報発信の強化</p> <p>道の駅かでななど観光拠点となっている施設において、町内の他の観光資源に関する情報発信を強化することにより、観光拠点から他の観光資源への回遊を促進します。</p> <p>■キャラクターの活用</p> <p>嘉手納町には平成17年に開催された「野國總管甘藷伝来400年祭」を機に誕生したキャラクター「いもっち」がありますが、今後「いもっち」をさらにアピールしていくと同時に、様々な観光テーマに合わせた新たなキャラクターを開発・活用することにより、嘉手納町の観光に対する親しみやすさやストーリー性を醸成していきます。</p>

プロジェクト内容	実施時期・期間			実施主体		
	短期	中期	長期	行政	民間	町民
観光資源の冊子・マップ等の作成	→	→	→	◎	○	
ホームページ等の作成	→	→	→	◎	○	○
外国人向け案内・PRの実施	→	→	→	◎	○	
宿泊施設、飲食施設等と連携したPR		→	→	○	◎	
道の駅や飲食施設等と連携したPR	→	→	→	○	◎	
キャンペーンイベントへの積極的参加		→	→	◎	○	
観光のICT化の推進		→	→	◎	○	
観光拠点における情報発信の強化	→	→	→	◎	○	
キャラクターの活用		→	→	◎	○	

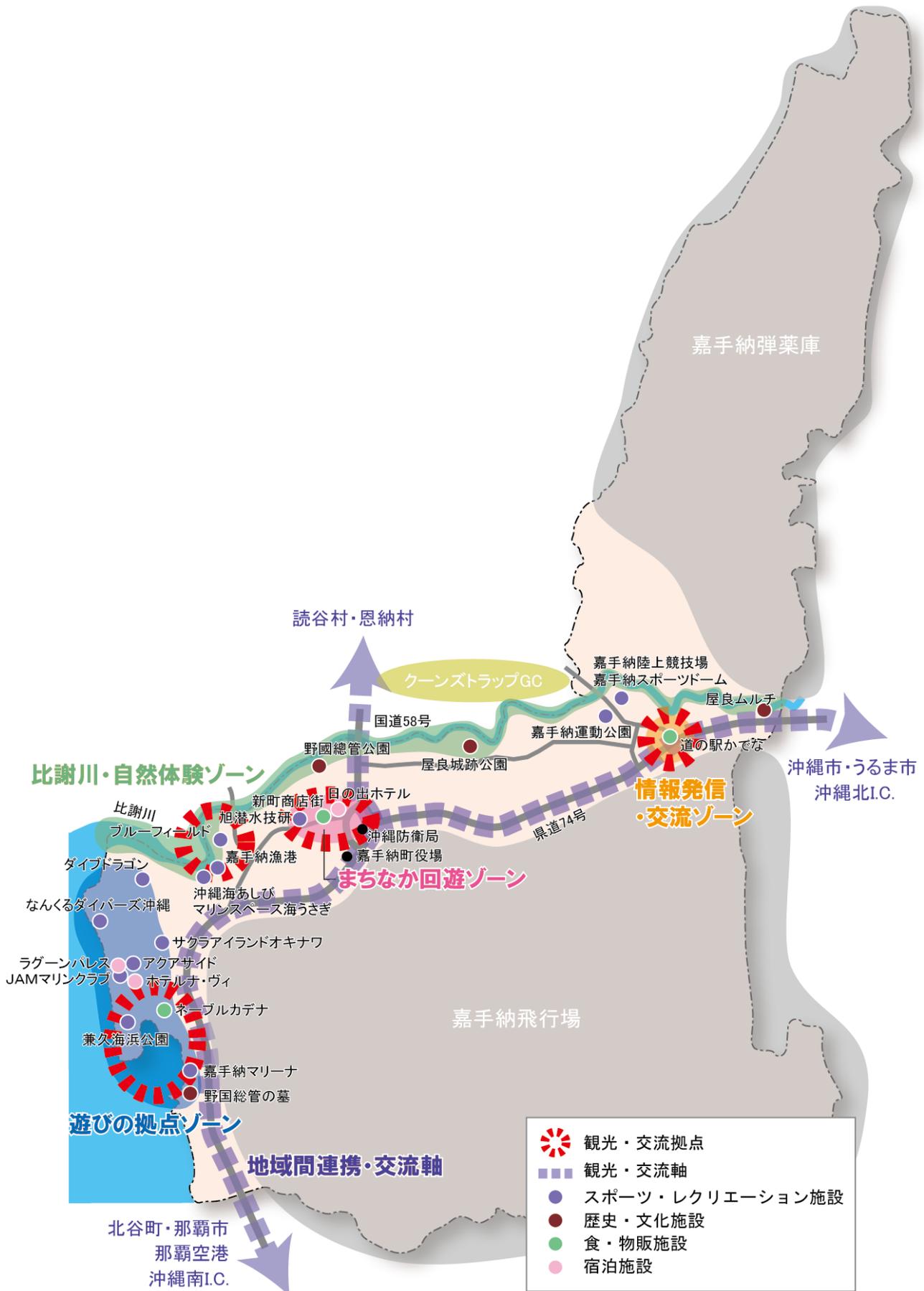
施 策	⑩観光施設の整備
施策の考え方	観光施設の現状調査・把握を行い、訪れやすく周遊しやすい観光地として案内看板の整備等を行うことで、観光資源の保全と多様な活用を図り、魅力ある観光地づくりを進めます。また、観光拠点である道の駅かでは来客数は多いものの顧客ニーズに対応しきれていない等の問題を抱えており、比謝川についてはアプローチしにくい等の問題を抱えていることから、観光拠点として機能するために必要な基盤の整備・充実を行います。
プロジェクト	<p> ■統一した案内看板の整備 来訪者が安心してまちを歩くことができるよう、ユニバーサルデザインの視点から、日本語と外国語による表記を基本とし、色や形、マークを統一した案内看板を作成します。また、史跡に関する説明板を整備します。 </p> <p> ■道の駅かでのリニューアル 顧客ニーズに対応するために、飲食機能や情報発信機能、展望機能の強化を行い、それらの機能強化を行うための施設規模の拡大を行います。 </p> <p> ■海と川の水辺の整備と活用 環境保全に配慮しつつ、東シナ海と比謝川の水辺の整備を行います。比謝川については、屋良ムルチの活用、遊歩道の延長、屋良城跡公園の再整備、比謝橋上流のカヤックでの活用、比謝川大橋西側カヤック広場の整備などについて取り組みます。海についても、イコモバンタの活用や人工漁礁の設置の検討作業を行い、水辺の観光拠点としての整備と活用に取り組みます。 </p> <p> ■比謝川の拠点の整備 比謝川へアプローチするための拠点の整備や、比謝川の風景を眺めながら寛ぐことのできる拠点の整備を、環境保全を図りながら行います。 </p> <p> ■町内大規模公園の魅力アップと機能拡充 嘉手納運動公園をスポーツコンベンションの拠点とし、兼久海浜公園を海に面した遊びの拠点とするなど、町内の大規模公園を観光拠点として魅力アップし機能拡充を図ります。 </p> <p> ■宿泊施設の整備 民間活力を活用しながら宿泊施設の整備を行うことにより、通過型観光から滞在型観光への転換を図ります。また、主にスポーツ合宿やレクリエーションに訪れた方の宿泊対応のために、「町民の家」のリニューアルの検討を行います。 </p> <p> ■既存施設の観光施設としての機能拡充 「かでな文化センター」や「屋良城跡公園」「嘉手納運動公園」など、これまで主に町内向けの施設として利用されていた施設を、観光施設としても活用できるように機能拡充していきます。 </p> <p> ■屋良ムルチの活用 屋良ムルチは独特の神秘的な雰囲気を出しているスポットであり、道の駅かでなから約500mの距離に位置しているにもかかわらず、情報発信不足や視認性の悪さ、アクセス困難等の理由により、あまり観光客に訪れられていません。屋良ムルチの観光資源としての活用を図っていきます。 </p>

プロジェクト内容	実施時期・期間			実施主体		
	短期	中期	長期	行政	民間	町民
統一した案内看板の整備	→	-----→	-----→	◎	○	
道の駅かでのリニューアル	→			◎		
海と川の水辺の整備と活用	→	→	-----→	◎		
比謝川の拠点の整備	→	-----→	-----→	◎		
町内大規模公園の魅力アップと機能拡充		→	-----→	◎		
宿泊施設の整備		→	-----→	○	◎	
既存施設の観光施設としての機能拡充	→	-----→	-----→	◎		
屋良ムルチの活用	→	-----→	-----→	◎		

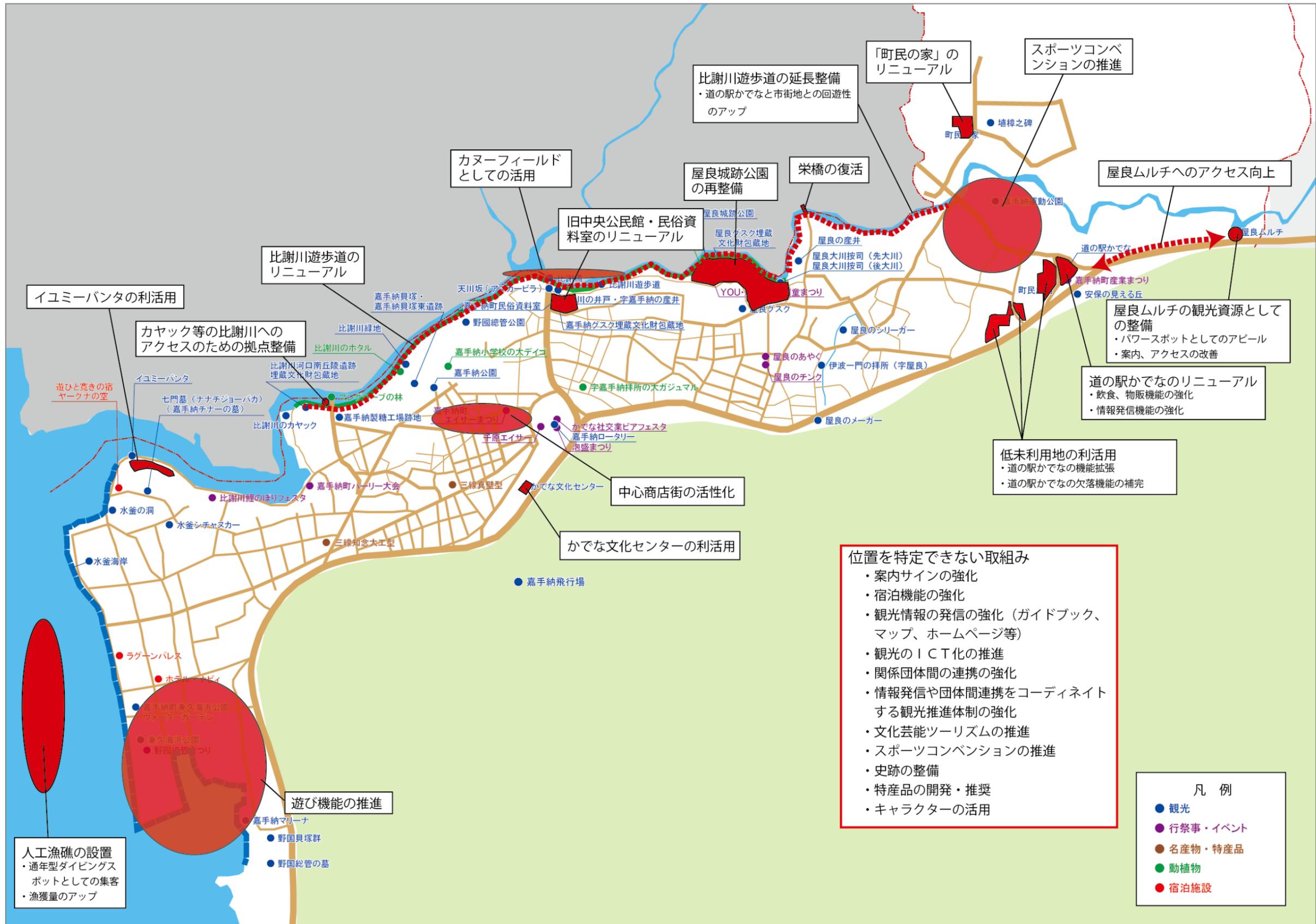
施 策	⑪町内の回遊性の向上
施策の考え方	嘉手納町の地域資源は、大きく海岸エリアと中心市街地エリアと道の駅エリアの3エリアに分かれており、これらのエリア間の主な移動手段が車しかないことなどの要因により、回遊性に乏しい状況にあります。来訪者が町内をスムーズに移動することが出来るようにするために、町内の移動手段の確保のあり方について検討し、必要な基盤については整備を行います。
プロジェクト	<p>■車で町内を回遊するための標識や駐車場の整備</p> <p>嘉手納町の観光資源の中には、標識や駐車場が整備されていないために観光客にとって気づかれなかったりアクセスすることが出来ないものも多いことから、標識や駐車場を整備することにより観光客が容易に観光資源にアクセスすることが出来るようにします。</p> <p>■回遊するための公共交通の整備</p> <p>現在、海岸エリアと道の駅エリアを直接繋ぐバス路線などの公共交通は不在であることから、町内を回遊する公共交通の整備を検討します。</p>

プロジェクト内容	実施時期・期間			実施主体		
	短期	中期	長期	行政	民間	町民
車で町内を回遊するための標識や駐車場の整備	→	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	◎		
町内を回遊するための公共交通の整備		→	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	◎		

6. 観光振興に関するゾーニングと動線軸の考え方



7. プロジェクトの実施箇所



8. 重点強化プロジェクト

以上の施策やプロジェクトの実行にあたっては、まずは「今現在、観光に訪れているお客様への対応の強化」を行い、徐々に「周辺への回遊・連携の強化」を図っていくという考えに基づき、下記の3つのプロジェクトを重点強化プロジェクトとして位置づけ、早期の着手を図ります。

プロジェクト	選定の考え方
(1)道の駅かでなのリニューアル	年間約 50 万人が訪れている、嘉手納町の観光の拠点。
(2)屋良ムルチの活用	道の駅かでなに近く、また比謝川の拠点の一つでもある。
(3)比謝川カヤックの強化	年間約 7 千人の人が比謝川のカヤックを利用している。

(1) 道の駅かでなのリニューアル

①道の駅かでな施設概要

施設管理者	嘉手納町		
指定管理者	かでな振興株式会社		
施設面積	7,130 m ²		
建築面積	765.25 m ²		
建築構造	鉄筋コンクリート造 4 階建て		
施設内容	階	施設名	営業時間
	4F	展望場	8:00～22:00
	3F	学習展示室	9:00～18:00
	2F	レストラン	9:00～23:00
	1F	特産品販売場	9:00～19:00
		案内・休憩室	8:00～22:00
駐車場／全体:66 台(大型 10 台、普通車 54 台、身障者 2 台) トイレ／全体:19 器(男 9 器、女 9 器、多目的用 1 器) 公衆電話(24 時間使用可)1 台			
供用年月日	平成 15 年 4 月 26 日		

②道の駅かでなの現況

○来訪者の多さが売上に結び付いていない

- ・道の駅かでなの館全体には年間 497 千人（平成 23 年度）の来訪者が訪れていますが（赤外線センサーによる測定）、館内の店舗等の年間売上高は 173,721 千円、レジ客数は 230 千人（平成 23 年度）にとどまっています。施設来訪者 1 人当たりの売上単価は 350 円、レジ客数 1 人当たりの単価は 755 円となっています。

○来訪者や町民のニーズに対応しきれていない

- ・住民意向調査の結果によると、「あなたが、県外・町外の友人や知人におすすめする嘉手納

町の観光資源、農畜産物や食、郷土料理についてお聞きします。」という問いに対して、「道の駅かでな」という回答が最も多かった一方で、「特徴が無い」「何をターゲットとしているのか分からない」「中途半端」「店、特に飲食店を増やして欲しい」等の意見があがっています。

- ・「道の駅かでな来訪者アンケート調査」によると、品揃えに関して「商品が少ない」「品ぞろえをもっと増やして欲しい」などの意見が挙げられ、「道の駅かでなに欲しいもの」として「米軍関連品」や「農産物・野菜」「地元の商品」「飲食店」「子供の遊べる場所」「足湯」「ATM」などが挙げられました。

○施設規模の不足

- ・現在のテナント構成は「なーび家」「島の物語」「ターチ」「沖縄工芸村」「アップシティ」「かでな振興（1F）」「かでな振興（4F）」「宝くじ売場」となっていますが、このうちお客様からの見え方としては「島の物語」「ターチ」「沖縄工芸村」「かでな振興（1F）」は1店舗にしか見えないので、お客様から見た店舗バラエティは少なく感じられます。
- ・店内通路も狭いため、お客様がすれ違いにくく、ゆっくりと商品を眺めて選びにくい商環境となっています。
- ・店舗拡充に対するお客様のニーズはあるものの、建物内にはこれ以上店舗を増やすためのスペースがありません。（案内・休憩室）を店舗化することは、道の駅の要件「地域情報の発信」上、問題あり。）

○顧客から見えにくい施設構造

- ・1階土産物売場（「島の物語」「ターチ」「沖縄工芸村」「かでな振興（1F）」）は、建物正面（県道側）に店舗ファサードが向いておらず、ピロティ側に入口ファサードが約4m顔出ししているだけで、視認性が悪く、ピロティの照度も低いことから、お客様が店内に入ろうというモチベーションを持ちにくい構造となっています。
- ・1階正面の「なーび家」は、商業施設としての顔となるべき場所ですが、店舗正面に柱があるため、視認性が悪い構造となっています。
- ・2階レストランも、ファサードやショーウィンドー等の演出が不足しており、階段やEVからの通行客が入ってみようという気のおきにくい構造となっています。



○催事・イベントを行いきにくい施設構造

- ・施設正面（県道側）の多目的広場においては、週末市等の催事や、各種イベント等の販促活動を行っていますが、「屋根がないため、雨天時に問題がある」「風が非常に強く、テントやステージの設置に配慮が必要」「土地の傾斜があるため、椅子・テーブルを置きにくい」などの構造的な問題があります。

○新陳代謝を行いきにくい運営の仕組み

・一般的にテナント型商業施設の場合、顧客ニーズと合わなくなり売上が低迷しているテナントを退店させ、顧客ニーズに合った新しいテナントを導入する改装を計画的に行っています。また、売上が低迷しているテナントは、ディベロッパーへ支払う家賃負担等に耐えきれず、自ら退店せざるを得ない仕組みとなっています。

一方、道の駅かでなの場合、開業から約10年経過していますが、テナントは10年前から変わっておらず、町に支払う利用料も低水準に設定されたままであるためテナントの入れ替わりも起きにくい仕組みとなっています。

○地域情報の発信の不足

・アンケートによると、道の駅かでなへの来訪者のほとんどは、来訪前後に町内の他の観光資源を訪問することなく、町外へと移動してしまっています。1階の案内・休憩室は、設備の故障等の要因により地域情報の発信が不足しています。



○基地の展望への阻害

・道の駅かでなの大きな魅力は「基地が見えること」ですが、道の駅かでなと基地との間に新しく建物が建ったため、基地の展望に対しての阻害要因となっています。



③道の駅かでなの課題

現況の整理より、道の駅かでなの課題として下記が挙げられます。

- 来訪者の数を、店舗の売上に結び付ける必要
- 来訪者や顧客のニーズに応える店舗数、業種・業態・品揃えのバラエティ
- 施設規模の拡充、整備
- 店舗の魅力をお客様に伝えるファサード演出やレイアウト
- 催事・イベントを行いやすくするための施設・設備の整備
- 新陳代謝を行いやすくするための運営の仕組みの見直し
- 情報発信機能の整備、強化
- 基地の展望の強化

④道の駅かでなのリニューアルの方向性

○建物の拡張

・建物を正面側に拡張することにより、「基地をより展望しやすくする」「店舗面積、テナント数を増やす」「業種・業態・品揃えのバラエティの強化（特に飲食店）」「建

物正面側に店舗の顔出しをする」等の効果を生み出します。

○催事・イベントを行いやすくするための施設・設備の整備

- ・雨や風などの天候に左右されずに催事・イベントを実施できるように施設・設備の整備を行います。
- ・催事・イベント用の備品を保管しておく倉庫が不足していることから、倉庫を拡充します。
- ・催事の際に机を並べる労力を軽減し、演出力を高めるために、催事専用のワゴンの導入を検討します。

○顧客ニーズに応えるための運営の仕組みの見直し

- ・テナントの入れ替わりが起こるようにして顧客ニーズの変化に対応するために、テナントとの契約方法や利用料水準など運営の仕組みの見直しを行います。

○情報発信の強化

- ・嘉手納町の観光拠点として、嘉手納町の観光に関する情報発信機能を強化し、道の駅かでなから屋良ムルチや比謝川遊歩道、中心市街地等への回遊が促進されるようにします。

(2) 屋良ムルチの活用

①屋良ムルチの現況

○場所が分かりにくい。

- ・県道 74 号線に案内や目印が出ていないため、屋良ムルチがどこにあるのか分からない状況です。近くにある道の駅かでなにおいても、特に案内はしていません。



○アクセスが困難

- ・観光バスやレンタカーなど車で来訪された方は、路上駐車するか、道の駅かでなに駐車して、そこから歩いてくるしかありません。

○情報の不足

- ・屋良ムルチに関しては、古くから伝わる「大蛇伝説」があります。また、この大蛇伝説は、組踊りの話などにも派生しています。これらの物語や、派生した芸能などについての情報が体系だって発信されていません。

○イメージしにくい

- ・大蛇の姿形については定まったものがなく、それが神秘的であるという効果を生み出している反面、「観光資源」として打ち出しにくい要因ともなっています。

②屋良ムルチの課題

現況の整理より、屋良ムルチの課題として下記が挙げられます。

- 場所の案内の強化
- アクセスの向上
- 屋良ムルチに関する情報発信の強化
- 大蛇のイメージの確立

③屋良ムルチの活用の方向性

○案内板の設置

- ・県道 74 号線を車で走っていても気づくような分かりやすい案内板を設置します。

○交通アクセスの強化

- ・レンタサイクルや車によるシャトル送迎、駐車場の整備など、交通アクセス強化のための手法について検証・検討します。

○説明板の整備

- ・大蛇伝説や、大蛇伝説から派生した芸能などについての情報を体系だてて説明するための説明板を整備します。

○大蛇のキャラクター化

- ・大蛇をキャラクター化することにより、観光客にとってイメージし易くすると同時に、キャラクターを使った商品を開発することにより、観光消費のアップにも繋げていきます。

(3) 比謝川カヤックの強化

①比謝川カヤックの現況

○カヤック乗り場への場所がわかりにくい

- ・カヤック乗り場の場所がわかりにくく、案内板も少ないため、道に迷った来訪者が近所の家で訪ねて回るなどの問題も生じています。

○アクセスが困難

- ・カヤック乗り場へのアクセス道路は非常に狭いため、車のすれ違いが困難です。
- ・今後、修学旅行など団体の取り込みを拡充することが考えられますが、現在は受け入れのための施設が不十分な状況です。大型バスについては、駐車する場所がありません。

○着替え・荷物保管のための施設が不十分

- ・利用者の中には女子もいるので着替えが発生し、貴重品も発生しますが、現在は漁協の施設2階会議室を使わせて頂いている状況です。

○水辺へのアクセスの問題

- ・足場にのりが生えていて、こけやすい状況です。現在は、沈むフェルトマットを引いて対応。お客さんには滑らないフェルトブーツを履いてもらって、ウエットスーツを着てもらってスタートしています。



②比謝川カヤックの課題

現況の整理より、比謝川カヤックの課題として下記が挙げられます。

- カヤック乗り場までの案内の強化
- カヤック乗り場までのアクセスの向上
- 着替えや荷物保管の対応
- 水辺へのアクセスの向上
- 安全で安心な環境づくり

③比謝川の整備の方向性

○カヤック乗り場までの案内板の設置

- ・来訪者が道に迷うことなくカヤック乗り場までたどり着くことが出来るように、わかりやすい案内板を設置します。

○駐車場の整備

- ・レンタカーやバスが利便かつ安全にアクセス出来るように駐車場の整備を行います。

○カヤック広場の整備

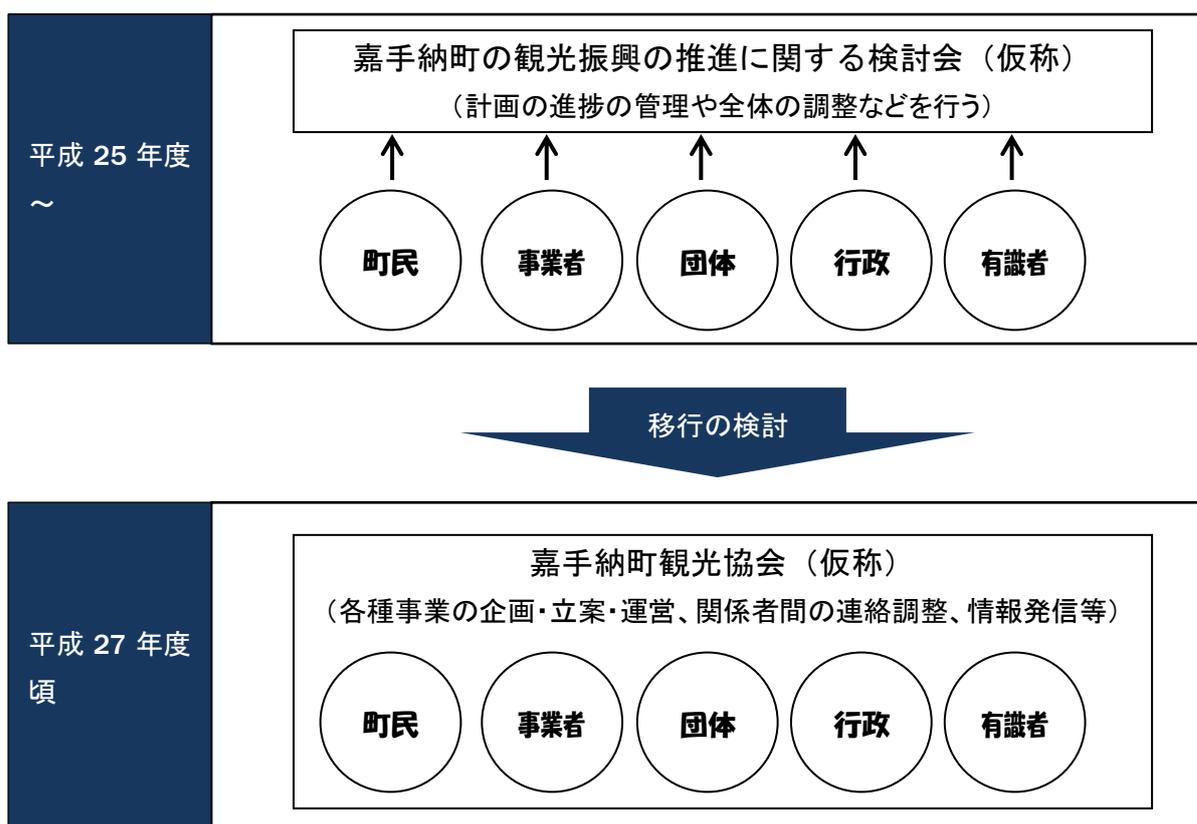
- ・着替えや荷物保管のための施設を整備します。また、安全安心に水辺にアクセスできるように、滑らないようにするための整備を行います。

第5章. 観光振興基本計画の推進体制

今後、観光振興基本計画に定めた各種取り組みを有機的に展開し、効果的、効率的に事業を進めるためには、行政・民間・町民が一体となって取り組むことの出来る観光推進体制の構築が重要です。

本計画は、平成 25 年度から平成 29 年度までを計画期間としています。そこで、計画の進捗状況を管理・調整し、振興の方向性を検討するために、まず「嘉手納町の観光振興の推進に関する検討会（仮称）」を設立します。

その後、観光振興基本計画の進捗状況や、関係者の機運の盛り上がり状況、新たな組織設立の必要状況等を勘案しながら、必要に応じて「観光協会」のように各種事業の企画・立案・運営、関係者間の連絡調整、情報発信等を行うことのできる組織への移行を検討することとします。



第6章. 資料編

(1) 嘉手納町の観光に関する住民意向調査 調査票

嘉手納町の観光に関する住民意向調査 調査票

I. あなたご自身のことについてお尋ねします

問1. あなたご自身のことについて、下記の項目についてお答えください。

性別	1. 男性	2. 女性			
年齢	1. 10代	2. 20代	3. 30代	4. 40代	
	5. 50代	6. 60代	7. 70代以上		
職業	1. 農林漁業	2. 自営業	3. 会社員	4. 公務員	5. パート・アルバイト
	6. 学生	7. 専業主婦	8. 無職	9. その他 ()	
住所	1. 嘉手納	2. 兼久	3. 久得	4. 水釜	5. 屋良

II. 嘉手納町の観光資源についてお尋ねします

問2. あなたがよく利用する嘉手納町の観光資源（※観光資源とは、観光施設、観光地、景勝地、文化財などのこと）は何ですか。あてはまる観光資源の番号を5つまで選び、○を付けて下さい。

1. 道の駅かでな	2. 安保の丘	3. 吉屋チルー歌碑
4. 天川の池の碑	5. 野國總管公園	6. 屋良城跡公園
7. 嘉手納運動公園（野球場、陸上競技場、スポーツドーム）		
8. 比謝川遊歩道	9. ロータリー広場	10. 屋良ムルチ
11. 兼久海浜公園（ソフトボール場、総合運動場、テニス場、体育館）		
12. 水釜海岸	13. 比謝川のカヤック	
14. 野國總管まつり	15. 嘉手納町エイサーまつり	16. 嘉手納ハーリー大会
17. 比謝川こいのぼりフェスタ	18. YOU・遊・比謝川	19. 嘉手納町産業まつり
20. 14～19 以外のイベントや祭り（具体的に：)		
21. 観光資源を利用しない		
22. その他 ※いくつでもお書き下さい		
[]		

問3. あなたが、県外・町外の友人や知人におすすめする嘉手納町の観光資源、農畜産物や食、郷土料理についてお聞きします。あなたが、よくおすすめする名称・内容、そのおすすめポイントを簡単にご記入下さい。

※思いつく限りご記入下さい。

名称・内容	おすすめのポイント

問4. あなたが自慢できる観光ガイドブックやパンフレットに掲載されていない穴場スポット(場所、食事処、景色など)・地域の行事はありますか。その穴場スポット・地域の行事の名称・内容、そのおすすめポイントを簡単にご記入下さい。

※思いつく限りご記入下さい。

名称・内容	おすすめのポイント

Ⅲ. 今後の嘉手納町の観光振興についてお尋ねします

問5. あなたは、嘉手納町を誇りに思いますか。あてはまる番号を1つだけ選び、○を付けて下さい。

- | | | |
|-------------|----------|------------|
| 1. とても誇りに思う | 2. 誇りに思う | 3. 誇りに思わない |
|-------------|----------|------------|

問6. 嘉手納町に観光客を呼び込むためにどのようなことに取り組む必要があると思いますか。優先的に取り組むべきであるとする取組みの番号を3つ選び、○を付けて下さい。

1. 豊かな自然環境の保全
2. 自然や農業等の体験や民泊^{*}の受け皿の確保（^{*}民泊とは、農家等の一般家庭に宿泊し、地域のありのままの生活を体験すること）
3. 観光振興に取り組む多様な主体（町民、団体・NPO、事業者、行政）のネットワークづくり
4. 観光振興に取り組んでいる団体やNPO、事業者などへの積極的な支援
5. 観光振興の中心となる人材や組織の育成
6. 魅力を伝えるための積極的な情報発信
7. 公共交通機関の充実
8. 周辺自治体と連携した広域観光の推進
9. 皆で協力して観光に力を入れる共通認識の醸成
10. 魅力的なイベントの定期的な開催
11. 宿泊施設の充実
12. 道路整備や案内看板の設置
13. 町民が観光振興に参画できる仕組みや場づくり
14. スポーツ施設等を利用した観光振興の推進
15. その他（)

問7. 嘉手納町の観光資源を満喫してもらうために、来訪者にどのような旅を提供したら良いと思いますか。優先的に提供すべきであるとする取組みの番号を3つ選び、○を付けて下さい。

1. 豊かな自然やきれいな景色を巡る旅
2. 米軍基地について見学したり勉強したりする旅
3. エコツアー^{*}に参加するなど、自然を体感し、自然環境について学ぶ旅
（^{*}エコツアーとは、カヤックなどにより、自然や動植物の生態、人々の生活などを体験し、環境の保護や保全の意識を高めるツアーのこと）
4. スポーツ観戦やウォーキングなど身体の高健康やスポーツ活動を意識した旅
5. ダイビングや海水浴などのマリンスポーツを体験する旅
6. 新鮮な農畜産物や地元の加工品などを購入する旅
7. 地元食材をふんだんに使った料理や郷土の料理を味わう旅
8. ゆったり温泉施設に入る等の癒しを得る旅
9. 果物狩り・野菜づくりなどを体験する旅
10. 歴史的な史跡を訪ね、歴史・文化を学ぶ旅
11. 由緒ある祭りや地域の伝統芸能を体験する旅
12. 読谷村や北谷町など周辺の魅力も楽しめる旅
13. その他（)

(2) 道の駅かでな来訪者アンケート調査 調査票

※調査員記入欄	調査日	27日(日)・28日(月)	調査時間帯	時台
---------	-----	---------------	-------	----

嘉手納町の観光に関するアンケート調査

「道の駅かでな」をご利用いただきありがとうございます。現在、嘉手納町では、より良い観光サービスをご提供するためにアンケート調査を実施しています。

※ 調査票の集計に際しては、すべて統計的に処理し、みなさまにご迷惑をおかけすることは一切ございませんので、調査へのご協力をお願いいたします。

問1. あなた自身について教えてください（それぞれ1つに○）

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代～
性別	男性	女性					
職業	1. 農林漁業 2. 自営業 3. 会社員 4. 公務員 5. パート・アルバイト 6. 学生 7. 専業主婦 8. 無職 9. その他()						
住所	嘉手納町 (1. 嘉手納 2. 兼久 3. 久得 4. 水釜 5. 屋良) 町外 (県 市・町・村)						
利用人数	(あなたを含めて) 1人 2人 3人 4人 5人以上						
来訪手段	1. 自家用車 2. レンタカー 3. 観光バス 4. バイク 5. その他()						

問2. 立ち寄った目的を教えてください。（すべてに○）

1. 買い物が目的(購入目的商品は?)							
2. 嘉手納基地を見るため		3. 団体ツアーコースに入っているため					
4. 食事		5. 学習展示室を利用するため		6. 観光情報を得るため		7. ドライブ	
8. 休憩・トイレ使用のため			9. 観光地のひとつとして			10. TV、新聞、雑誌を見て	
11. その他()							

問3. 「道の駅かでな」に訪れる頻度を教えてください。（1つに○）

1. 週に2～3回以上	2. 週に1回位	3. 月に2回位	4. 月に1回位
5. 2～3ヶ月に1回位	6. 半年に1回位	7. 今回が初めて	

問4. 本日、「道の駅かでな」で使った(使う予定の)合計金額はいくらですか。（1つに○）

1. 1,000円未満	2. 1,000～1,500円未満	3. 1,500～2,000円未満
4. 2,000～2,500円未満	5. 2,500～3,000円未満	6. 3,000～3,500円未満
7. 3,500～4,000円未満	8. 4,000～4,500円未満	9. 4,500～5,000円未満
10. 5,000円以上		

問5. 本日の「道の駅かでな」での滞在時間はどのくらいですか。

約 分

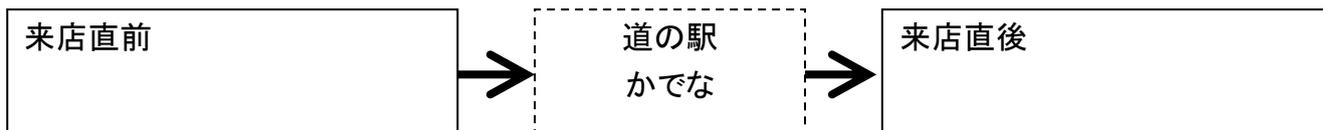


問6. 「道の駅かでな」の満足度について教えてください。(それぞれ1つに○)

	非常に満足	やや満足	どちらともいえない	あまり満足でない	まったく満足でない
①品揃えが豊富	1	2	3	4	5
②値段が安い	1	2	3	4	5
③商品の品質が良い	1	2	3	4	5
④「道の駅かでな」ならではの商品がある	1	2	3	4	5
⑤生産者名や産地表示などの情報表示	1	2	3	4	5
⑥商品のパッケージ	1	2	3	4	5
⑦商品陳列の分かりやすさ	1	2	3	4	5
⑧店内の雰囲気	1	2	3	4	5
⑨従業員の接客	1	2	3	4	5
⑩嘉手納町の情報発信	1	2	3	4	5

問7. 「道の駅かでな」にあったら良いと思う商品やサービスがあれば、教えてください。

問8. 「道の駅かでな」に来訪する直前に立ち寄った場所と、直後に訪問する予定の場所（施設）を教えてください。



問9. 嘉手納町以外からお越しの方のみお答えください。

「嘉手納町内」に滞在する時間を教えてください。(1つに○)

1. 30分未満	2. 30分～1時間未満	3. 1時間～2時間未満	4. 2～3時間未満
5. 半日程度	6. 1日程度	7. 1泊2日	8. その他 ()

問10. 嘉手納町内で使う予算を教えてください。(食事、買い物、宿泊費など合計金額)

円

問11. 「道の駅かでな」や、嘉手納町の観光についてご意見・ご要望をお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。アンケートにお答えいただいた方に、100円のお買い物券をご用意しています。

(3) 嘉手納町の観光に関するインターネットアンケート調査 アンケート画面



観光に関するアンケート

下記アンケートにご協力お願いいたします。

当アンケートの回答者の皆様へお願い

マクロミルモニタの皆様にはモニタ規約にて「調査についての守秘義務」の徹底をお願いしています。

当アンケートの内容および当アンケートで知り得た情報については、決して第三者に口外しないよう(掲示板やホームページへの書き込みを含む)、ご協力お願いします。

Q1 あなたは、沖縄県の嘉手納(かでな)町を知っていますか。

【 必須入力 】

- 1. 知っている
- 2. 聞いたことはある
- 3. 知らない



Q2 前問で「【Q1の選択内容】」と答えた方にお尋ねします。なぜ知っているのですか。

あてはまるもの全てをお選びください。 **【 必須入力 】**

- 1. 仕事で行ったことがある
- 2. 観光で行ったことがある
- 3. 他の場所へ行くときに通ったことがある

- 4.住んでいたことがある(嘉手納町出身など)
- 5.ニュースで見た(聞いた)ことがある
- 6.その他



Q3 あなたが思い描く、嘉手納(かでな)町のイメージにあてはまるものを全てお答えください。
 また、その中で最もあてはまるものをひとつお答えください。【必須入力】

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
自然 ・ 花 ・ 風景	飛行場 へ 空軍基地 へ	史跡 ・ 名所 巡り	ダイビングなどのマリンスポーツ	カヤックなどの川遊び	食 ・ グルメ	お祭り	仕事先 ・ 研修地	スポーツ 合宿	その他	わからない

1.あてはまるもの(全て)	→	<input type="checkbox"/>											
2.最もあてはまるもの(ひとつだけ)	→	<input type="radio"/>											



Q4 下記の嘉手納(かでな)町の観光資源をあなたは知っていますか。
 知らない場合、行ってみたいと思うかどうか教えてください。
 【必須入力】

1	2	3
既に知っている	知らないが行ってみたい	知らないし行ってみたいと思わない

1.道の駅かでな

道の駅かでなは、隣接する嘉手納(かでな)飛行場(アメリカ空軍嘉手納(かでな)基地)が一望できる展望フロア、展示パネル等で構成された学習展示室、案内・休憩室、ショップ、レストラン、トイレ等が設置された施設です。



2.嘉手納(かでな)飛行場(アメリカ空軍嘉手納(かでな)基地)

嘉手納(かでな)飛行場の面積は嘉手納(かでな)町の面積の約83%を占めており、嘉手納(かでな)町、沖縄市、北谷町の1市2町にまたがっています。昭和20年4月、沖縄本島に上陸した米軍はただちに同飛行場を占領し、本土攻略のための前進基地として整備拡張を行い、同年6月には大型爆撃機が離発着できる全長2,250mの滑走路を完成させ、B-26やB-29等大型爆撃機の主力基地として使用してきました。基地の様子は、道の駅かでなや安保の丘から展望することができます。



3.比謝川(ヒジャガワ)遊歩道

比謝川(ヒジャガワ)は嘉手納(かでな)町・読谷村・沖縄市など5市町村を通して流れる流域面積が本島で最も大きな河川です。嘉手納(かでな)町では、比謝川(ヒジャガワ)の水辺空間を整備し、緑と水のネットワーク化を図り、自然にやさしいまちづくりをすすめています。



4.比謝川(ヒジャガワ)のカヤック

沖縄本島で最大の流域面積を持つ比謝川(ヒジャガワ)は下岸にマングローブ等の木々がうっそうと生い茂り、たくさんの生物が生息しています。マングローブを住処とする亜熱帯の動植物の営みの姿や自然の風景を、普段は見ることのできない川面から眺めることができます。



5.野國總管(のぐにそうかん)公園

野國總管(のぐにそうかん)公園は、嘉手納(かでな)町中心部の樹木におおわれた緑豊かな高台にあり、比謝川(ヒジャガワ)流域を見下ろす風光明媚な場所に位置しています。公園内には、産業の恩人、野國総管の宮を初め慰霊塔、招鬼の塔が建立されており、名所旧跡として広く知られています。本公園と比謝川(ヒジャガワ)遊歩道が連結—



体化し、町民のレクリエーションの場、憩いの場として利用されています。

6. 屋良漏池(ムルチ)

比謝川(ヒジャガワ)の上流、嘉手納(かでな)町と沖縄市の境の山中に屋良ムルチと呼ばれる池があります。古くから伝わる伝説に「大蛇伝説」があります。ムルチに住む大蛇は暴風などの害をあたえ、住民は童女を人身御供に出せば、禍い事がやむと信じていました。ある年、親孝行の娘がたった一人の祖母を置いて、池に臨んだ時に天神様が現れ、その大蛇を退治して災害を除きました。その後娘は王子の嫁になり、祖母と一緒に幸せに暮らしました。現在でも、屋良部落の祭事として毎年旧6月15日には御供えをして豊作を祈願しています。



7. 嘉手納(かでな)ロータリー

戦後に米軍が整備した巨大ロータリーは再開発が行われ、今では真新しいビルが立ち並ぶ近代的な空間に生まれ変わっています。かつての巨大ロータリーの内側はその形状を残しつつも中心には芝生のロータリー広場を設け、その周囲に再開発ビルや住宅が配置されています。



8. 水釜海岸

市民の憩いの場「水釜海岸」は東シナ海を一望でき、天気の良い日はケラマ諸島を眺める事ができるスポットです。

磯遊びや釣りのほか、堤防の上での散歩やジョギングを楽しむ人も多です。スキューバダイビングを楽しむために、近所のロングステイホテルに宿泊する観光客もいます。



9. 屋良城跡公園

屋良城跡公園は、14世紀半ば頃まで大川按司の住居であった跡地を、比謝川(ヒジャガワ)の水辺の空間と一体となって機能する公園として整備され、町民の憩いと安らぎの場、レクリエーションの場として広く利用されています。この地域は地形的な変化に富み、周辺には在来種の樹木等が豊富に残され、また、野鳥や植物の観察等、自然と歴史の学習の場として活用されています。



10. 嘉手納(かでな)運動公園

嘉手納(かでな)野球場、嘉手納(かでな)町陸上競技場、嘉手納(かでな)町スポーツドームが集積している、敷地も広大で緑豊かな公園です。嘉手納(かでな)野球場は、横浜 DeNA ベイスターズの春季キャンプにも使用されています。





11 野國總管(のぐにそうかん)まつり

西暦 1605 年、野國總管によって中国福建省からもたらされた一株の甘藷が、地に落ちた一粒の麦の如くに沖縄の大地で実り、嘉手納町を発信地としてやがて全国へと広がっていき、人々を飢えや飢饉から救い、全国民が等しくその恩恵に浴することになりました。

野國總管生誕の地・嘉手納町では、野國總管の遺徳を顕彰し、その功績を称え、甘藷を「野国いも」の愛称で呼ぶとともに、野國總管と我が国における甘藷発祥の地・嘉手納を広く全国に発信し、アピールするため「野國總管まつり」を町民参加で行っています。



Q5

あなたが嘉手納(かでな)町で体験してみたい旅は、以下のうちどれですか。

あてはまるもの全てをお選びください。【 必須入力 】

- 1. 豊かな自然やきれいな景色を巡る旅
- 2. 米軍基地について見学したり勉強したりする旅
エコツアー※に参加するなど、自然を体感し、自然環境について学ぶ旅
(※エコツアーとは、カヤックなどにより、自然や動植物の生態、人々の生活などを体験し、環境の保護や保全の意識を高めるツアーのこと)
- 3. スポーツ観戦やウォーキングなど身体の健康やスポーツ活動を意識した旅
- 4. ダイビングや海水浴などのマリンスポーツを体験する旅
- 5. 新鮮な農畜産物や地元の加工品などを購入する旅
- 6. 地元食材をふんだんに使った料理や郷土の料理を味わう旅
- 7. ゆったり温浴施設に入る等の癒しを得る旅
- 8.

- 9. 果物狩り・野菜づくりなどを体験する旅
- 10. 歴史的な史跡を訪ね、歴史・文化を学ぶ旅
- 11. 由緒ある祭りや地域の伝統芸能を体験する旅
- 12. 読谷村や北谷町など周辺の魅力も楽しめる旅
- 13. その他
- 14. 特になし



▼ 以下の URL をご覧ください。 ▼

必ずクリックして、表示されるページ全体をよくご覧ください。

<http://www.town.kadena.okinawa.jp/>

Q6 上記の「嘉手納(かでな)町」ホームページを見てお答えください。
あなたは、嘉手納(かでな)町を訪れてみたいと思いますか。
※訪れたことがある方は、今後も訪れたいかどうかをお答えください。

【 必須入力 】

- 1. ぜひ訪れて、観光や体験を楽しみたい
- 2. 時間があれば、行ってみたい
- 3. あまり行ってみたいとは思わない
- 4. 行きたくない



Q7 前問で「ぜひ訪れて、観光や体験を楽しみたい」と答えた方に伺います。その理由をご記入ください。

【 必須入力 】

※500 文字以内でご記入ください。



Q8

前問で「時間があれば、行ってみたい」と答えた方に伺います。その理由をご記入ください。

【 必須入力 】

※500 文字以内でご記入ください。



Q9

前問で「【Q6 の選択内容】」と答えた方に伺います。その理由をご記入ください。

【 必須入力 】

※500 文字以内でご記入ください。



Q10

あなたは普段、どのようにして観光・レジャー等に関する情報を入手していますか？ あてはまるもの全てをお選びください。**【 必須入力 】**

- 1. 口コミ(友人・知人から聞いて)
- 2. テレビ

- 3. 新聞
- 4. 雑誌・フリーペーパーなど
- 5. 駅や公共施設などに貼ってあるポスター・チラシ
- 6. 目的地の市町村の広報誌、地域情報誌
- 7. 目的地の市町村のホームページ
- 8. 目的地の観光協会のホームページ
- 9. Facebook などのソーシャルメディア
その他のホームページ、インターネットサービスなど
- 10. 具体的に:
その他の情報元
- 11. 具体的に:
- 12. 特に入手していない

アンケートは以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。
回答もれがないか確認し、よろしければ「送信」ボタンをクリックしてください。

(2) 用語集

用語	解説	頁
あ行		
ICT	Information and Communication Technology の略。情報・通信に関連する技術一般の総称である「IT」の「情報」に加えて「コミュニケーション」(共同)性が具体的に表現されている点に特徴がある。	
アプリ	アプリケーションの略。コンピュータ上で作動するゲームやメール・音楽プレイヤーといった機能のこと。	
ウィークリーマンション	短期から利用できる家具付賃貸マンション・アパートのこと。最低契約日数が 7 日間または 30 日間、それ以上滞在する場合は、日割りでの契約も可能である。	
エコツアー	地域ぐるみで自然環境や歴史文化など、地域固有の魅力を観光客に伝えることにより、その価値や大切さが理解され、保全につながっていくことを目指していく仕組み。	
AR(拡張現実)	Augmented Reality の略。カメラを使って映し出される映像上にさまざまな電子情報を重ね合わせて、現実の映像を「拡張」する技術のことで、近年、観光拠点などでバーチャルツアーガイドとして応用される例がみられるようになってきた。	
か行		
観光地域経済調査	観光庁により行われる観光産業の実態や、観光が地域経済に及ぼす効果等を明らかにし、観光産業振興施策等の基礎データを得ることを目的とした調査のこと。	
観光地形成促進計画	改正された沖縄振興特別措置法第6条に基づき、高い国際競争力を有する魅力ある観光地形成を図るための計画。観光地形成促進地域内で観光関連施設を新・増設した場合に、国税や地方税の投資税額控除など、特例措置を受けることができる。	
観光立国推進基本法	観光を 21 世紀における日本の重要な政策の柱として位置づけ、魅力ある観光地づくりと国際・国内観光の振興を推進することを通じて観光立国を実現することを目的とする。	
グリーン・ツーリズム	農産漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動のこと。	
国庫補助事業	都道府県などの地方自治体が国庫から補助金を貰って行う事業のこと。	
コンベンション	集会や政治・社会団体などの代表者会議、または、博覧会や見本市などの大規模な催しのこと。	
さ行		
スポーツコンベンション	スポーツを通じて、地域を超えて人々の交流を促し、活気に満ちた街づくりを目指す取り組み。	

用語	解説	頁
スマートフォン	インターネットの閲覧性を高めるなどパソコン並みの機能を搭載した高機能携帯電話。米アップル社の「iphone(アイフォーン)」を代表とし、大型のタッチパネルを搭載している。	
総合計画	地方自治体が策定する自治体のすべての計画の基本となる、行政運営の総合的な指針となる計画。	
総合保養地域整備法	良好な自然条件を有する土地を含む相当規模の地域である等の要件を備えた地域について、ゆとりのある国民生活のための利便の増進並びに当該地域及びその周辺の地域の振興を図ることで、国民の福祉の向上並びに国土及び国民経済の均衡ある発展に寄与することを目的とする。	
ソーシャルネットワークサービス(SNS)	社会的ネットワークをインターネット上で構築するサービスのこと。代表として、日本では mixi、GREE、Mobage、Ameba、世界では Facebook、Myspace、LinkedIn などがある。	
た行		
第1次産業	農業、林業、漁業など。	
第2次産業	製造業、建設業、電気、ガスなど。	
第3次産業	小売業、サービス業、公務など。	
タブレット型端末	液晶画面などの表示部分にタッチパネルを搭載し、指で操作する携帯情報端末の総称。	
団体包括旅行(割引)運賃(GIT 運賃)	GIT(Group Inclusive Tour)の略。 団体包括運賃のことで、航空会社が、団体旅行(パッケージツアー)用などで旅行会社や旅行代理店に卸している航空券。団体を対象とした団体料金が適用されている運賃なので安価となる。	
着地型観光	観光客や旅行者を受け入れる地域が自分たちの持つ観光資源を生かして企画するツアー。地元の人を外の観光地に送り出す従来の「発地型観光」とは異なり、旅行者を呼び込むことで地元でお金を使ってもらえる利点がある。	
中期財政計画	財政状況の現状及び将来の財政収支の中期的な見通しを明らかにすることで、財政に関する情報を幅広く提供し、行財政運営への理解を深めその改善を着実に進めるための契機とすることを目的として策定する。	
ツイッター	140 文字以内の短い投稿(ツイート)を入力して、みんなで情報を共有する無料サービス。	
ディベロッパー	大規模な住宅開発や都市開発、リゾート開発などを担う開発業者のこと。	
ドミトリー・ゲストハウス	一泊単位で宿泊できる低予算での個人旅行者向けの宿をゲストハウスと呼ぶ。「リビングなど共同場所で他の旅行者と交流が出来る」「キッチン、トイレ、シャワールームなど共同で使用」「ドミトリー(相部屋)がある」などが特徴。	

用語	解説	頁
な行		
日本再生戦略	世界に先駆けてさまざまな問題に直面する日本にとってのフロンティアとして、勇気をもって切り拓いていくことで世界に範を示す社会を築くことを目的とする。	
は行		
ビジット・ジャパン・キャンペーン(ビジット・ジャパン事業)	訪日旅行促進事業。訪日外国人旅行者数を将来的に 3,000 万人とすることを目標とした「訪日外国人 3,000 万人プログラム」を設定し、その第 1 期として平成 25 年までに 1,500 万人との目標達成を目指し、中国をはじめとする東アジア諸国(中国、韓国、台湾、香港)を当面の最重要市場と位置付け、大規模かつ効果的な海外プロモーションを展開する。	
フェイスブック	登録者同士の情報共有やコミュニケーション、人脈を維持・拡張するためのツールとして趣味や集会における仲間の募集、さらには学習や研究など様々な情報交換に利用されるサービス。	
ブルー・ツーリズム	海の沿岸や島などに滞在し、海辺ならではの生活体験を通じて心と体をリフレッシュさせる余暇活動のこと。海のブルーを象徴に、島国の日本ならではの休暇の過ごし方を提案する。 「漁業体験」「加工体験・食文化体験」「伝統文化体験」「自然観察体験」などの活動を通じて、現地の人々との交流、海への理解を深めることを目的とする。	
ま行		
緑の基本計画	樹林地、草地、水辺地など都市における緑地の適正な保全と緑化の推進方策に関する目標や講ずる施策について定める基本的方針。	
民泊	民家に宿泊すること。	
無料公衆無線LAN環境	スマートフォン(スマホ)やタブレット端末、パソコンをインターネットに接続する通信回線として、無料で使えるサービス環境のこと。	
モニターツアー	旅行会社が、新規で使おうと思っているホテル、レストランなどを「お試し」で使ってみてアンケートの結果を見て本採用するかどうかを決めるツアー。観光協会や自治体などが費用を一部負担して旅行会社に催行させるケースも見られる。	

発行日:平成 25 年 3 月

発行者:嘉手納町役場企画財政課

〒904-0293

沖縄県中頭郡嘉手納町字嘉手納 588

TEL:098-956-1111

調査協力:ランドブレイン株式会社沖縄事務所